

藤沢市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
報告書
(単純集計)

2014年(平成26年)3月

藤沢市

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	3
4. 報告書利用上の留意点	4
5. 調査結果の総括	5
第 2 章 調査結果の詳細	9
1. 居住地について	11
(1) 居住地	11
2. 対象の子どもと家族の状況について	12
(1) 対象の子どもの年齢構成	12
(2) きょうだい数、末子の年齢	13
(3) 回答者	14
(4) 回答者の配偶関係	14
(5) 子育て（教育を含む）を主に行っている人	15
3. 子どもの育ちをめぐる環境	16
(1) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人	16
(2) 子育て（教育を含む）にもっとも影響すると思われる環境	16
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無	17
(4) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況	18
(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況	18
(6) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる人の有無	19
(7) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる相談先	20
(8) 子育てをされていて不安になった経験の有無	21
(9) 子育てをされていて不安になった時期	21
(10) 妊娠中や出産後に重要なサポート	23
(11) 子ども・子育てに関する情報の入手先	24
(12) 子育てをする上で必要な周囲（身近な人、行政担当者など）からのサポート	25
4. 保護者の就労状況	26
(1) 母親の就労状況	26
(2) 父親の就労状況	32
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用	38
(1) 定期的な保育事業の利用の有無	38
(2) 教育・保育事業の利用状況	39
(3) 利用している教育・保育事業の実施場所	53
(4) 教育・保育事業を利用している理由	54
(5) 教育・保育事業を利用していない理由	55

(6) 今後、定期的に利用したい事業	56
(7) 利用したい実施場所	72
6. 地域の子育て支援事業の利用状況	73
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用の有無と利用回数	73
(2) 今後の利用希望、利用回数	75
(3) 各種地域子育て支援事業の認知状況、利用状況、利用希望	77
7. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望	80
(1) 土曜日、日曜・祝日の利用希望と時間帯	80
(2) たまに利用したい理由	83
(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望【幼稚園利用者】	84
(4) 長期休暇期間中の教育・保育事業の非定期的な利用希望【幼稚園利用者】	86
8. 病気の際の対応	87
(1) この1年間に病気やケガで通常の事業利用ができなかったことの有無	87
(2) その際の対処方法と日数	88
(3) 父母が休んで対処した場合の「病児・病後児保育施設」の利用希望の有無	90
(4) 望ましい事業形態	91
(5) 利用したいと思わない理由	92
(6) 父母が仕事を休んで看たいと思ったか、看たい日数	93
(7) 仕事を休んで看ることが難しい理由	94
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	95
(1) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業と日数	95
(2) 利用していない理由	97
(3) 今後の利用希望と利用希望日数	98
(4) 希望する事業形態	100
(5) 保護者の用事により泊りがけで家族以外にみてもらった有無と対処方法、宿泊日数	101
(6) 「親族・知人にみてもらった」時の困難度	103
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方【調査対象が4歳以上】	104
(1) 小学校低学年（1～3年生）で放課後過ごさせたい場所、日数	104
(2) 小学校高学年（4～6年生）で放課後過ごさせたい場所、日数	106
(3) 放課後児童クラブの土曜日、日曜・祝日、長期休暇の利用希望、利用したい時間帯	108
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	112
(1) 母親、父親の育児休業取得の有無について	112
(2) 育児休業給付と保険料の免除についての認知状況	114
(3) 育児休業取得後の職場復帰	115
(4) 復帰のタイミング	116
(5) 実際の復帰時期と希望が異なる場合	117
(6) 3歳まで育児休業取得制度があった場合の取得希望	118
(7) 希望の時期に職場復帰しなかった理由	119
(8) 育児休業取得後の職場復帰で短時間勤務制度の利用	121
(9) 短時間勤務制度を利用しなかった理由	122

(10) 1歳になったときに利用できる事業がある場合の育児休業取得の希望	123
(11) 居住地域における子育ての環境や支援への満足度	124
12. 子育て全般について	125
(1) 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する意見	125

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

「子ども・子育て支援法」(平成24年法律第65号)に基づく子ども・子育て支援の新たな制度の下で、幼児期の学校教育・保育・地域の子育て支援の充実を図るため、平成27年度から5年間を一期とする「(仮称)子ども・子育て支援事業計画」を策定する。このため、子育てに関する生活実態やご要望・ご意見などを把握するべく、「藤沢市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施した。

2. 調査方法と回収状況

調査地域	藤沢市全域
調査対象	市内在住の就学前児童をもつ保護者6,000名
対象者抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収方式
調査期間	2013年(平成25年)10月25日(金)～11月15日(金)
有効回収数	2,737人
有効回収率	45.6%

3. 調査項目

調査項目
1. 居住地について
2. 対象の子どもと家族の状況について
3. 子どもの育ちをめぐる環境について
4. 保護者の就労状況について
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について
6. 地域子育て支援事業の利用状況について
7. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について
8. 病気の際の対応について(平日の教育・保育利用者)
9. 不定期の保育事業や一時預かり(宿泊を伴うものを含む)等の利用について
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について
12. 子育て全般について

4. 報告書利用上の留意点

・回答者数について

図表中の「n」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしている。

・図表の単位について

本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」（回答率）をあらわしている。
また、回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならない場合がある。

・図表における選択肢等の記載について

図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

・単純集計について

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を回答率（%）の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合がある。

・分析について

回答者数が20未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

5. 調査結果の総括

(1) 対象の子どもと家族の状況

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て（教育を含む）を主に行っている人は、父母ともに4割超、主に母親が5割台半ばとなっている。 ●母親の就労状況は、フルタイム（産休・育休・介護休業中を含む）が2割台半ば、パート・アルバイト等が1割台半ば、以前は就労していたが、現在は就労していないが半数近くとなっている。非就業者のうち8割近くが就労意向を持っており、就労形態については9割近くがパート・アルバイト等を希望している。就労時期の希望は、1年以内が2割、子どもが成長した後という希望の中では、一番下の子どもが6歳以上になったらが過半数となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てを父母ともに担っている家庭が4割を超えているが、主に母親という家庭も多くなっている。 ●非就業の母親の就労ニーズは高いが、就労希望時期や就業形態などのニーズは多様である。これらの希望に対応する就労支援の充実が求められる。

(2) 子どもの育ちをめぐる環境

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的に祖父母等に子どもをみてもらえる家庭は2割強、緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる家庭は5割強となっている。祖父母等に子どもを安心してみてもらえるという回答は7割台を占めている。一方、祖父母等の身体的負担が大きく心配であるは2割台、親の立場として負担をかけていることが心苦しいは2割となっている。日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる家庭は4.4%、緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる家庭は約2割である。子どもをみてもらえる親族も友人・知人もいない家庭は14.1%となっている。 ●子育てについて気軽に相談できる人については、9割台前半がいる／あると回答しており、その相談先は祖父母等の親族、友人や知人が8割を超えて多くなっており、次に近所や地域の人が2割台前半で続いている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的に子どもをみてもらえる家庭は2割程度にとどまり、子どもをみてもらえない人は1割を超えており、親族や友人・知人以外の支援を受けやすくする必要がある。 ●子育てについての相談は祖父母等の親族や友人・知人など身近な人を中心として9割の人がいる／あるとしている。必要な時に利用できるよう、専門知識が必要な内容やアドバイスなどに対応する窓口の周知が必要である。

(3) 定期的な教育・保育事業の利用

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●平日の教育・保育事業の利用状況では、幼稚園、認可保育所、認可外保育施設、幼稚園の預かり保育、幼児教育施設、認証・認定保育施設の順となっている。今後の利用希望は、幼稚園の預かり保育で2割程度と現状と比較すると高い。また、幼児教育施設や認定こども園、事業所内保育所なども現状と比較すると高くなっている。 ●土曜日や日曜・祝日の利用については、月に1～2回の利用希望が土曜日では2割台前半、日曜・祝日では1割台半ばとなっている。その理由は、月に数回仕事が入るため、リフレッシュのため、平日に済ませられない用事をまとめて済ませるためが多い。長期休暇期間中の教育・保育事業の利用については、約5割がたまに利用したい、1割がほぼ毎日利用したいとしている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●平日の教育・保育事業については、幼稚園の預かり保育、幼児教育施設や認定こども園、事業所内保育所など多様なニーズがみられる。 ●土曜・日曜・祝日や長期休暇中の利用意向への対応も必要である。

(4) 地域の子育て支援事業の認知状況・利用状況・利用希望

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援センター、つどいの広場の利用状況は1割台半ばであり、7割台後半が利用していないと回答している。今後の利用希望は3割台後半である。 ●事業の認知度では、子育て情報ネットワーク事業は5割台前半とやや低いが、その他の事業は7割程度と高い。事業の利用意向は、ふじさわすくのびカード、ふじさわ子育てガイド、子育て情報ネットワーク事業、公民館等における子育て支援事業が5割台で特に高い。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域子育て支援拠点事業については、利用者は限られており、事業の周知・情報提供が必要である。 ●各事業の認知度は比較的高いが、利用状況は限定的である。周知・情報提供により利用意向の高まりが期待される。

(5) 病気の際の対応

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●この1年間に子どもの病気やケガで平日の定期的教育・保育事業を利用できないことがあった人は6割台後半となっている。その際の対処方法は、母親が休んだが5割台後半、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた、(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらったが3割台前半、父親が休んだが2割台後半となっている。父親や母親が休んで対処した人の病児・病後児等保育施設等の利用希望は、4割台後半である。病児・病後児保育の事業形態は、小児科や医療機関に併設した施設、幼稚園・保育所等に併設した施設へのニーズが高くなっている。一方で、利用を希望しない人は、病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安、親が仕事を休んで対応するという意見が多い。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの病気やケガの際は、母親や父親が休んで対応していることも多く、病児・病後児保育の整備が必要とされている。

(6) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●不定期の教育・保育事業の利用状況では、幼稚園の預かり保育が約1割である。利用希望は4割台後半となっている。利用希望者の主な目的としては、買い物や習い事などの私用やリフレッシュ目的が7割台前半、冠婚葬祭、学校行事、通院等が6割台前半、不定期の就労は2割程度である。施設等の事業形態では、幼稚園や保育所等の大規模施設が6割台後半と特に高く、次に地域子育て支援拠点等の小規模施設が続いている。ファミリー・サポート・センター等の地域住民による保育は3割台前半となっている。 ●子どもを泊りがけで家族以外にみてもらった経験は約2割があったとしている。8割以上が親族・知人にみてもらっているが、困難を感じた人は約5割となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●不定期の教育・保育事業の利用希望は高く、私用やリフレッシュ目的、その他行事等目的は多様である。幼稚園や保育所等での預かりの希望が高く、事業の提供体制の整備が必要である。 ●宿泊を伴うあずかりについてもニーズがある。

(7) 学校就学後の放課後の過ごし方

現状	<ul style="list-style-type: none"> ●平日の小学校終了後の放課後の時間の過ごし方については、小学校低学年（1～3年生）のうち、自宅、祖父母宅や友人・知人宅、週に1、2回の習い事などが選択されている。放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向は3割である。高学年（4～6年生）になると、習い事の日数が増えるほか、児童館、放課後子ども教室、地域子供の家などの頻度が高くなる。放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向は2割に減少する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●放課後の過ごし方の意向は、成長段階により異なっており、低学年のうち学校や自宅周辺の居場所や放課後児童クラブへのニーズが高く、高学年になると放課後子ども教室や放課後児童クラブのほか、児童館や地域子供の家など地域の居場所へのニーズも高くなる。子どもたちが安全に過ごすことができる環境整備が求められている。

(8) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

<p>現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●育児休業の取得状況は、母親で28.3%、父親で3.6%となっている。母親の約6割は働いていなかったと回答している。取得していない理由は、母親では子育てや家事に専念するために退職が4割、職場に育児休業の制度がなかったが2割などとなっている。父親では、仕事が忙しかった、職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったなどが上位に上がっており、制度を利用する必要がなかったも3割台となっている。 ●育児休業からの復帰のタイミングは、年度初めの入所に合わせたタイミングが母親で6割台前半、父親ではそれ以外が8割台前半となっている。母親の復帰時期を希望の時期と比較すると、1歳6ヶ月までは希望よりも早く復帰している人が多く、1歳6ヶ月～2歳0ヶ月以内、2歳6ヶ月～3歳0ヶ月以内の希望が実際よりも多くなっている。復帰時期が希望と異なった理由は、母親では希望する保育所に入るための特が多くなっている。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事と子育て等の両立実現に向け、男女ともに育児休業の取得が促進されているが、母親でも3割を下回り、父親ではごくわずかである。母親の就労継続支援や父親の取得促進に向けた取り組みが求められている。 ●育児休業からの職場復帰については、現状では希望の時期に復帰できない人が多く、低年齢児の保育受け入れ体制の整備・拡大とともに、企業等における子育て支援制度の充実や職場の意識啓発などが必要である。

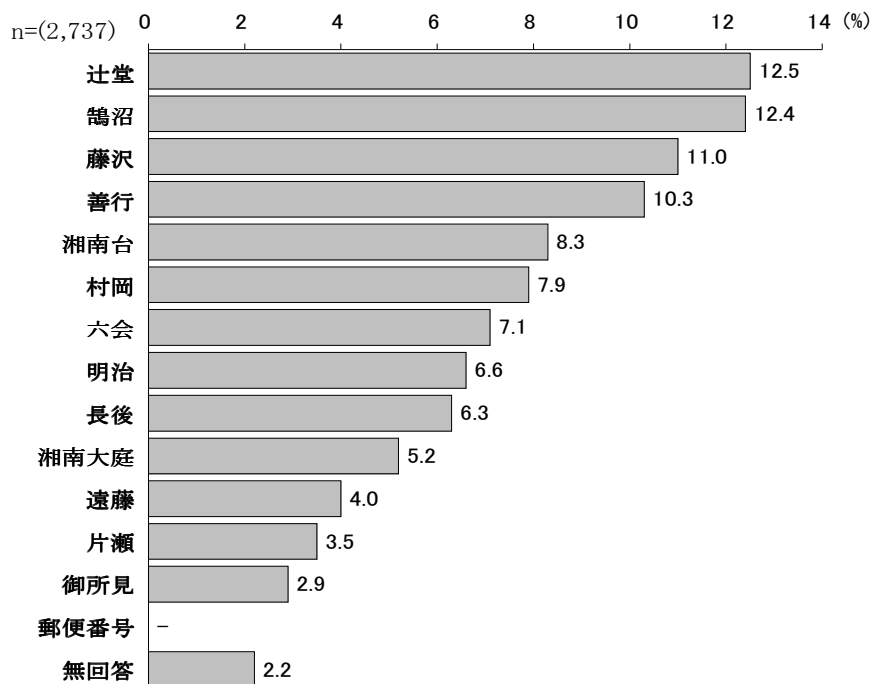
第2章 調査結果の詳細

1. 居住地域について

(1) 居住地域

問1【すべての方におたずねします】

お住まいの地区として当てはまる答えの番号1つに○をつけてください。または、郵便番号をご記入ください。



居住地区は、「辻堂」「鶴沼」「藤沢」「善行」が1割～1割前半、次いで「湘南台」「村岡」と続いている。

【参考】

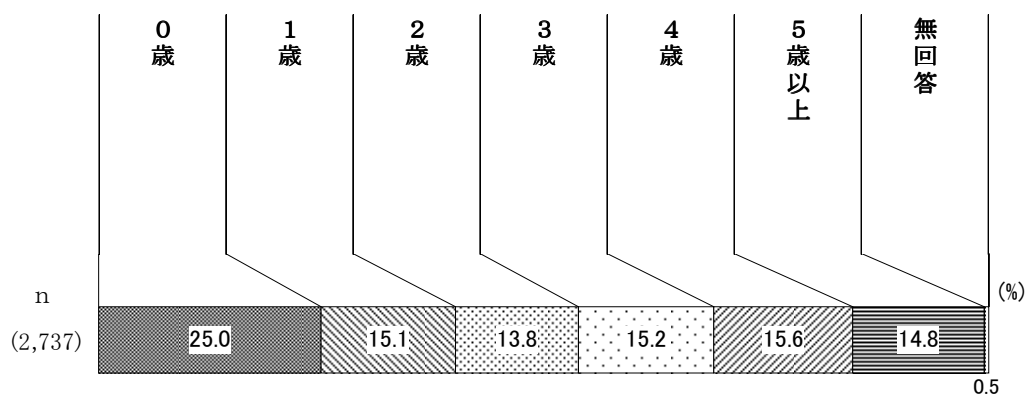
地区名	人口数 (就学前)	割合	発送数	割合
辻堂	1, 9 5 6	1 0 . 4 %	6 3 8	1 0 . 6 %
鶴沼	2, 2 8 1	1 2 . 1 %	7 4 8	1 2 . 5 %
藤沢	2, 0 4 7	1 0 . 9 %	5 8 3	9 . 7 %
善行	1, 8 6 3	9 . 9 %	6 0 6	1 0 . 1 %
湘南台	1, 2 9 4	6 . 9 %	4 1 5	6 . 9 %
村岡	1, 4 9 5	8 . 0 %	4 8 5	8 . 1 %
六会	1, 6 0 8	8 . 6 %	5 2 4	8 . 7 %
明治	1, 5 2 5	8 . 1 %	4 9 4	8 . 2 %
長後	1, 3 0 6	7 . 0 %	4 2 2	7 . 0 %
湘南大庭	1, 4 2 0	7 . 6 %	4 5 9	7 . 7 %
遠藤	5 1 4	2 . 7 %	1 5 9	2 . 7 %
片瀬	7 3 9	3 . 9 %	2 3 4	3 . 9 %
御所見	7 3 4	3 . 9 %	2 3 3	3 . 9 %
計	1 8, 7 8 2	1 0 0 %	6, 0 0 0	1 0 0 %

2. 対象の子どもと家族の状況について

(1) 対象の子どもの年齢構成

問2【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんの生年月月をご記入ください。



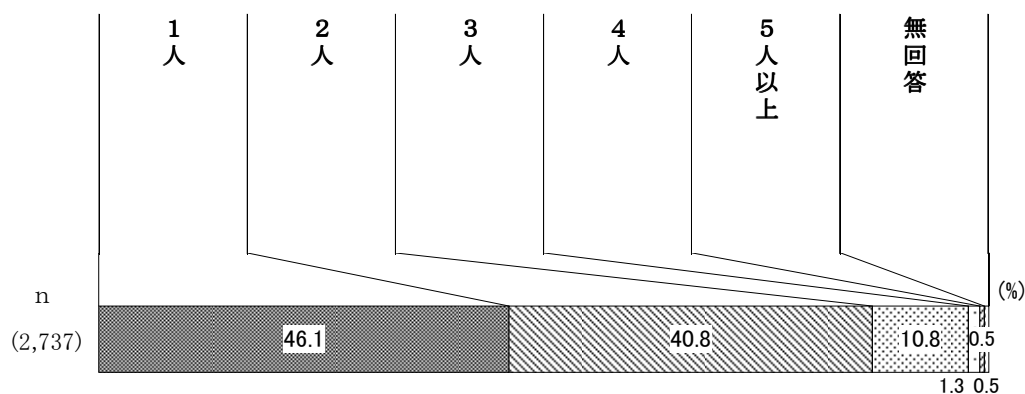
子どもの年齢は、「0歳」が2割台半ば、次いで「4歳」「3歳」「1歳」「2歳」となっている。

(2) きょうだい数、末子の年齢

問3 【すべての方におたずねします】

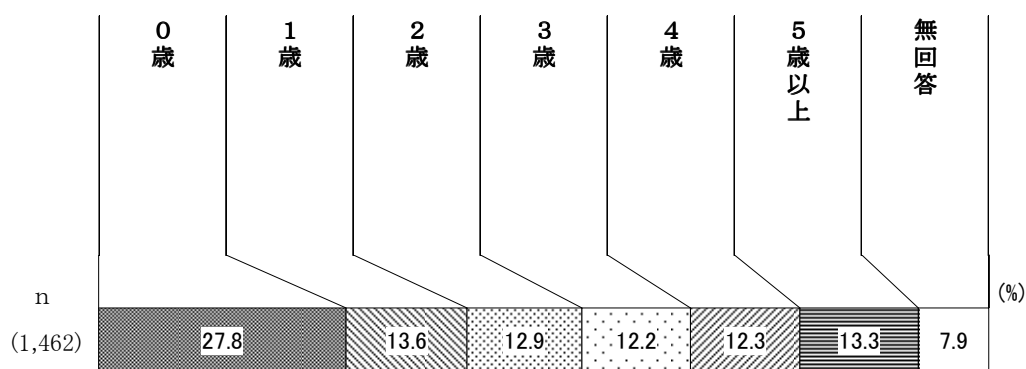
あて名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。あて名のお子さんを含めた人数を口内に数字でご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

■ きょうだい数



きょうだい数は、「1人」が4割台後半、次いで「2人」が約4割となっている。

■ 末子の年齢

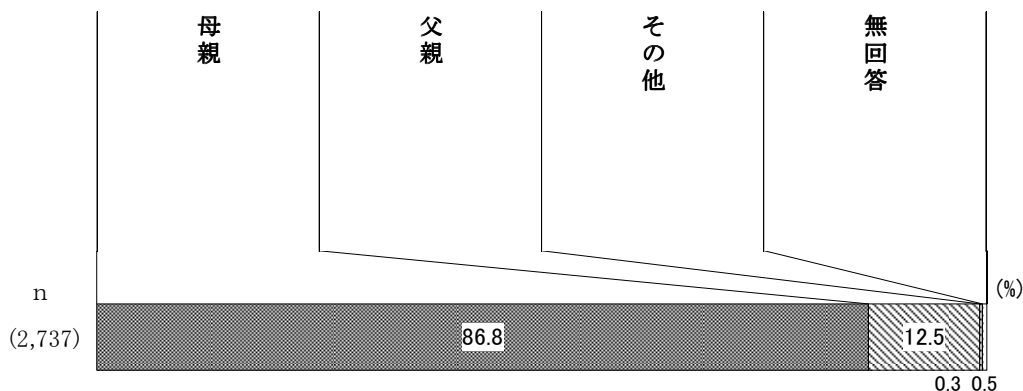


末子の年齢は、「0歳」が2割台後半、1歳以上の各年齢で1割台前半となっている。

(3) 回答者

問4【すべての方におたずねします】

この調査票にご回答いただいている方はどなたですか。あて名のお子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

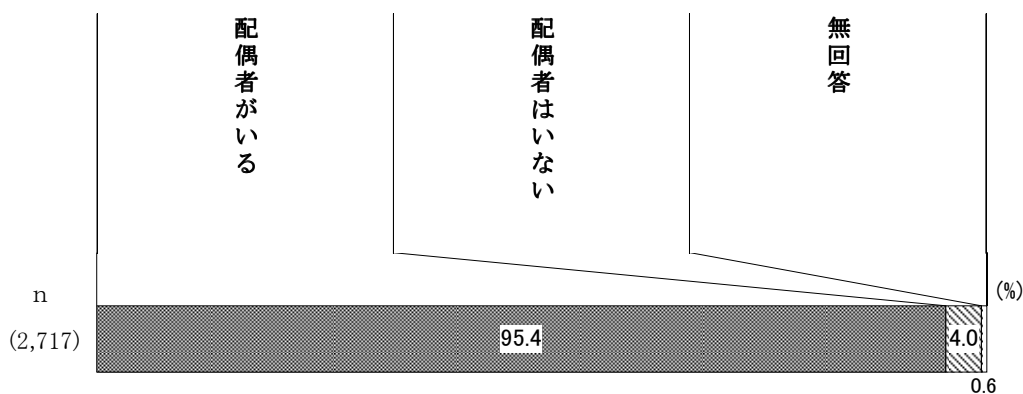


回答者は、「母親」が8割台後半で多く、「父親」は1割台前半となっている。

(4) 回答者の配偶関係

問5【問4で「1. 母親」または「2. 父親」に○をつけた方におたずねします】

この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

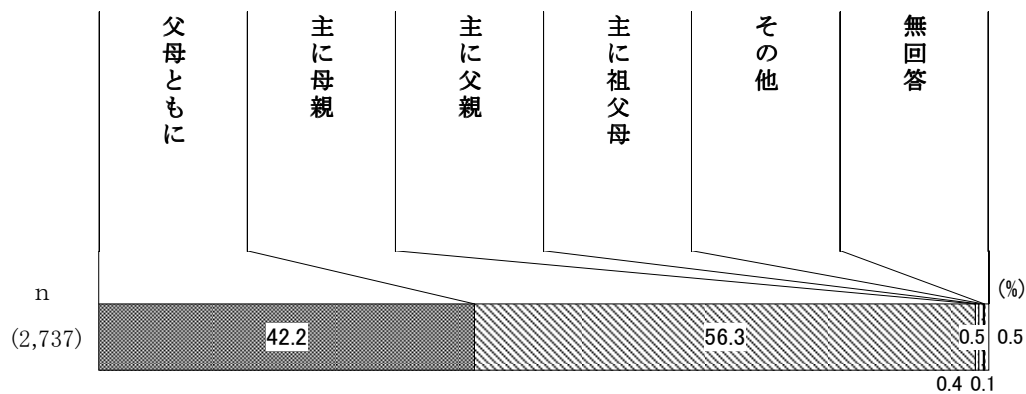


回答者の配偶関係は、9割台半ばが「配偶者がいる」と回答している。

(5) 子育て（教育を含む）を主に行っている人

問6【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんの子育て（身の回りの世話や教育などを含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。



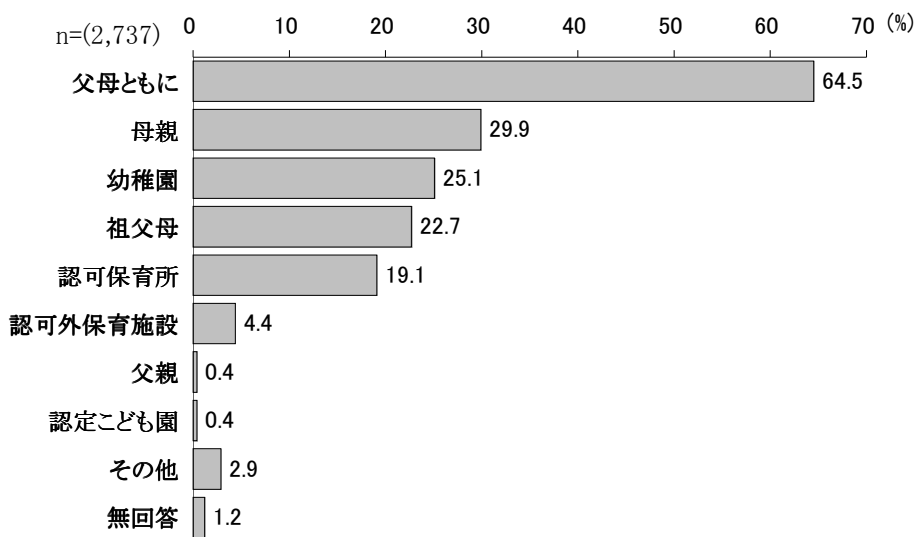
子育て（身の回りの世話や教育などを含む）を主に行っているのは、「主に母親」が5割台半ば、次いで「父母ともに」が4割台前半となっている。

3. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人

問7【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんの子育て（身の回りの世話や教育などを含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

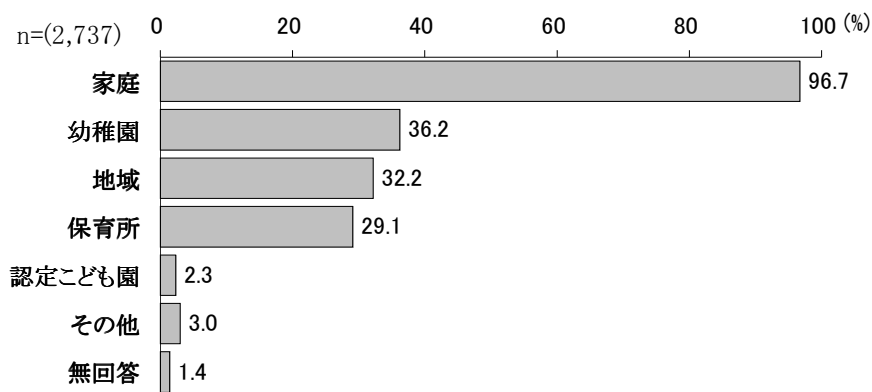


子育て（身の回りの世話や教育などを含む）に日常的に関わっているのは、「父母ともに」が最も多く6割台前半、次いで「母親」が約3割、「幼稚園」が2割台半ば、「祖父母」「認可保育所」と続いている。

(2) 子育て（教育を含む）にもっとも影響すると思われる環境

問8【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんの子育て（身の回りの世話や教育などを含む）に、もっとも影響すると思われる環境すべてに○をつけてください。

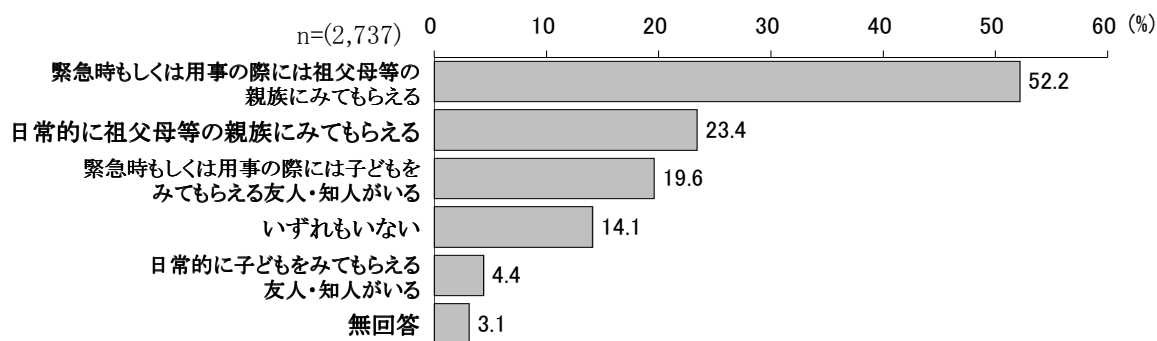


子どもの子育て（身の回りの世話や教育などを含む）に、もっとも影響すると思われる環境は、「家庭」が9割台後半で最も多く、次いで「幼稚園」「地域」「保育所」が3割台となっている。

(3) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問9【すべての方におたずねします】

日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族や友人・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

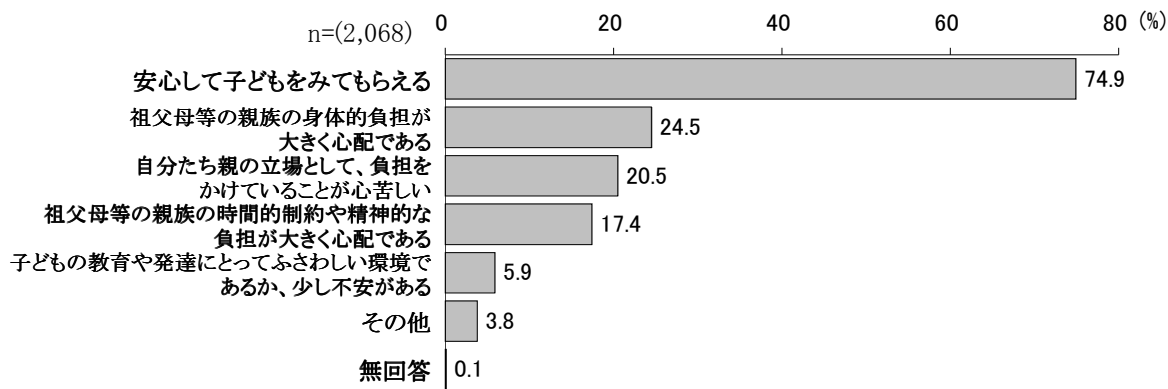


日頃、子どもをみてもらえる親族や友人・知人の有無は、親族については「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が5割台前半、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が2割台前半となっている。友人・知人については、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が約2割となっている。一方、「いずれもない」は1割台前半となっている。

(4) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況

問10【問9で「1」または「2」に○をつけた方におたずねします】

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

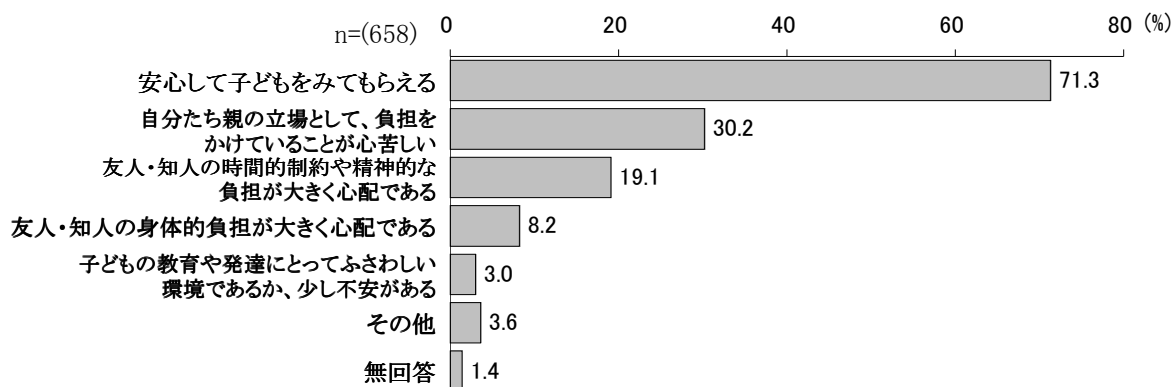


祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況については、「安心して子どもをみてもらえる」が7割台前半、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が2割台前半、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が約2割となっている。

(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

問11【問9で「3」または「4」に○をつけた方におたずねします】

友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

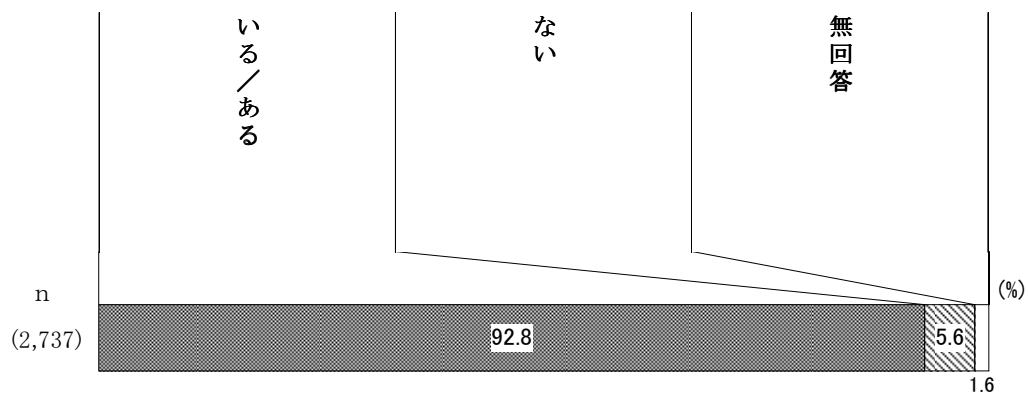


友人・知人に子どもをみてもらっている状況については、「安心して子どもをみてもらえる」が7割台前半、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が約3割、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が約2割と続いている。

(6) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる人の有無

問12【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。
また、相談できる場所がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

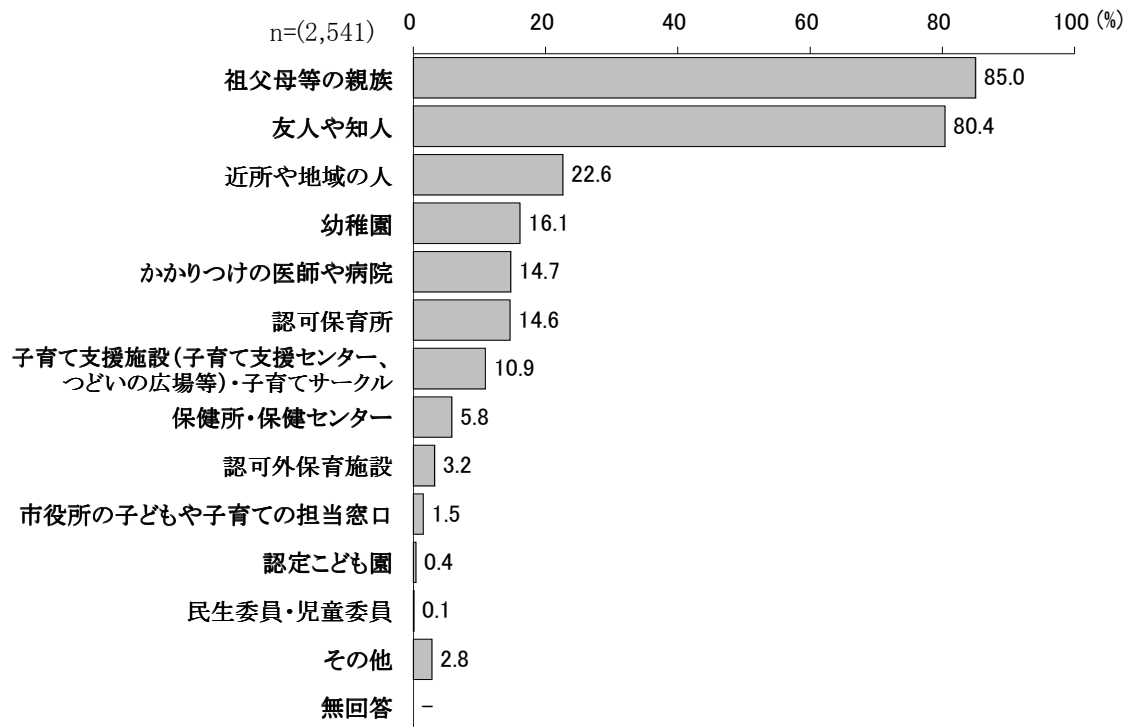


子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人の有無は、9割台前半が「いる／ある」と回答している。一方、「ない」は1割未満となっている。

(7) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる相談先

問13【問12で「1. いる／ある」に○をつけた方におたずねします】

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

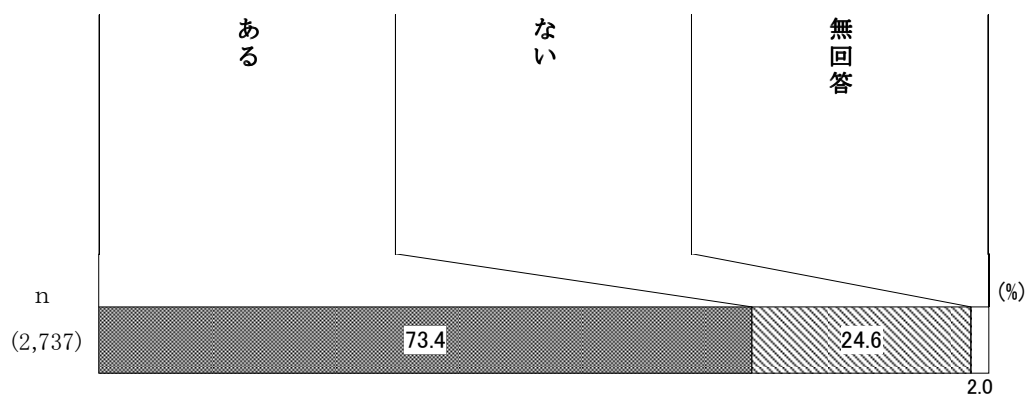


子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先については、「祖父母等の親族」が8割台半ば、「友人・知人」が約8割となっている。次いで「近所や地域の人」は2割台前半となっている。

(8) 子育てをされていて不安になった経験の有無

問14【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんに限らず、妊娠中あるいは出産後、子育てをされていて不安になったことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

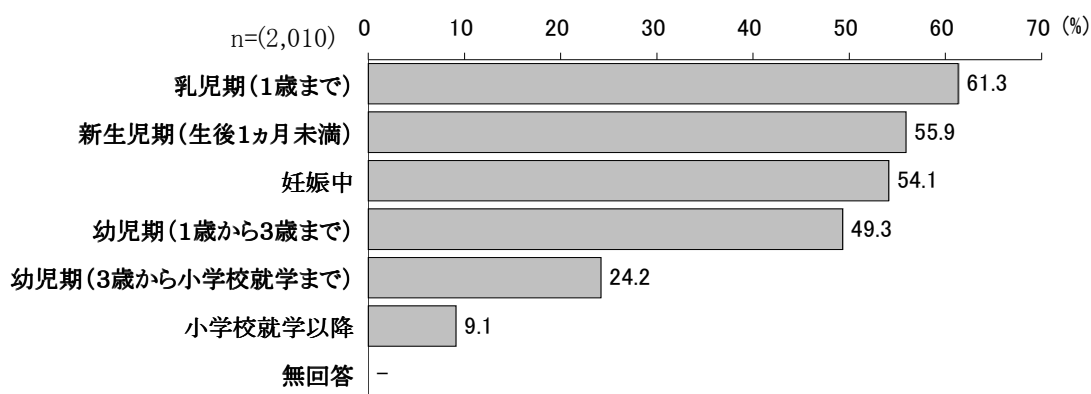


妊娠中あるいは出産後、子育てをされていて不安になったことの有無は、7割前半が「ある」と回答している。一方、「ない」は2割前半である。

(9) 子育てをされていて不安になった時期

問15【問14で「1. ある」に○をつけた方におたずねします】

不安になった時期はいつごろですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



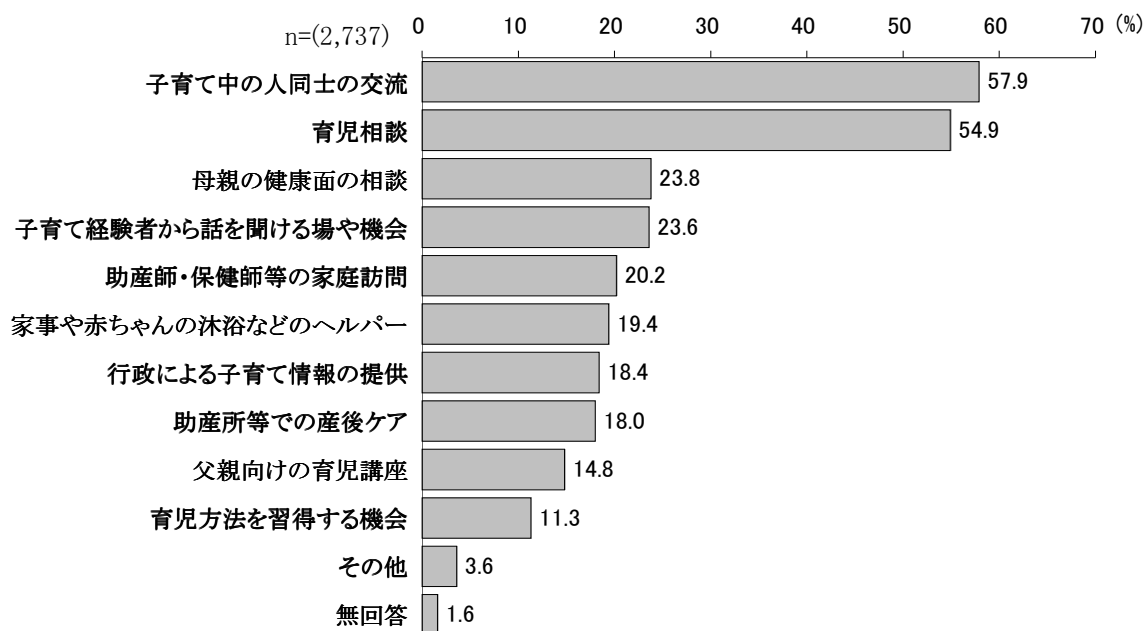
問14で「ある」と回答した方の不安になった時期は、「乳児期(1歳まで)」が6割前半、「新生児期(生後1ヵ月未満)」「妊娠中」「幼児期(1歳から3歳まで)」が5割台前後となっている。

第2章 調査結果の詳細

(10) 妊娠中や出産後に重要なサポート

問16【すべての方におたずねします】

妊娠中や出産後に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。主なものに3つまで○をつけてください。

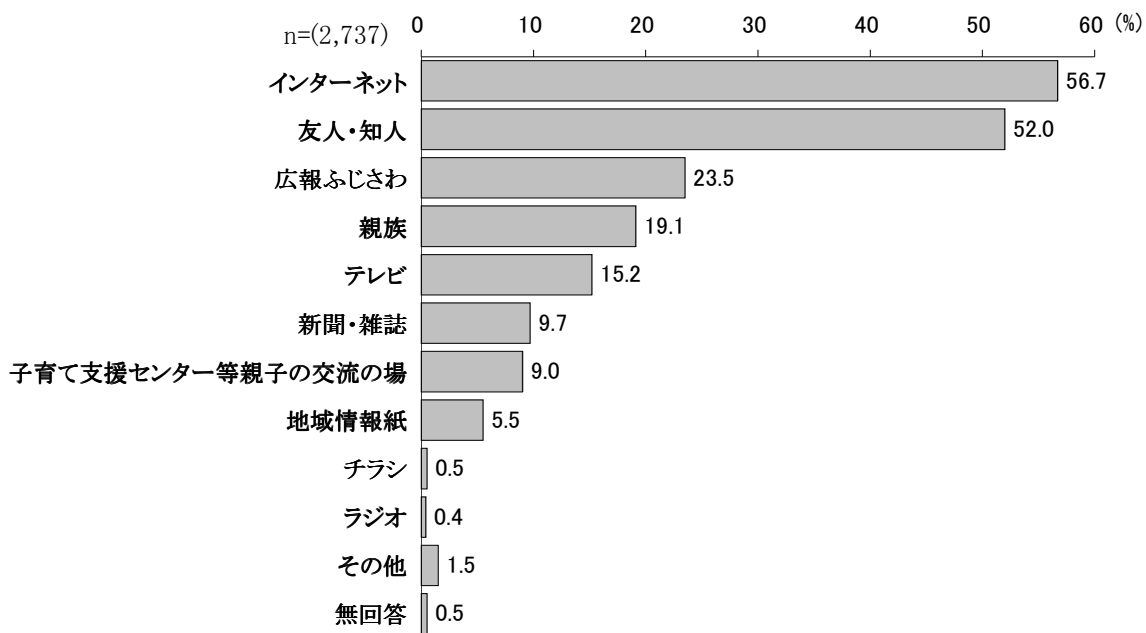


妊娠中や出産後に重要なサポートについては、「子育て中の人同士の交流」が5割台後半、「育児相談」が5割台前半と高く、「母親の健康面の相談」「子育て経験者から話を聞ける場や機会」「助産師・保健師等の家庭訪問」と続いている。

(11) 子ども・子育てに関する情報の入手先

問17【すべての方におたずねします】

子ども・子育てに関する情報の入手先についてお答えください。主なものに2つまで○をつけてください。



子ども・子育てに関する情報の入手先については、「インターネット」が5割台後半、「友人・知人」が5割台前半と高く、次いで「広報ふじさわ」が2割台前半、「親族」が約2割と続いている。

(12) 子育てをする上で必要な周囲（身近な人、行政担当者など）からのサポート

問18【すべての方におたずねします】

子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

4. 保護者の就労状況

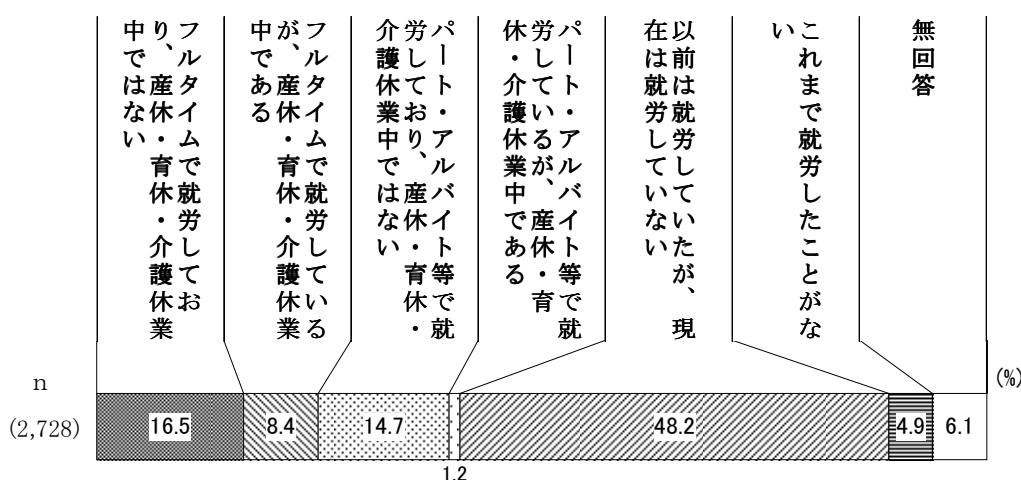
(1) 母親の就労状況

問19-①【母親の現在の就労状況（自営業、家族従業者含む）をおたずねします】

父子家庭などで、母親がいない場合は回答不要です。

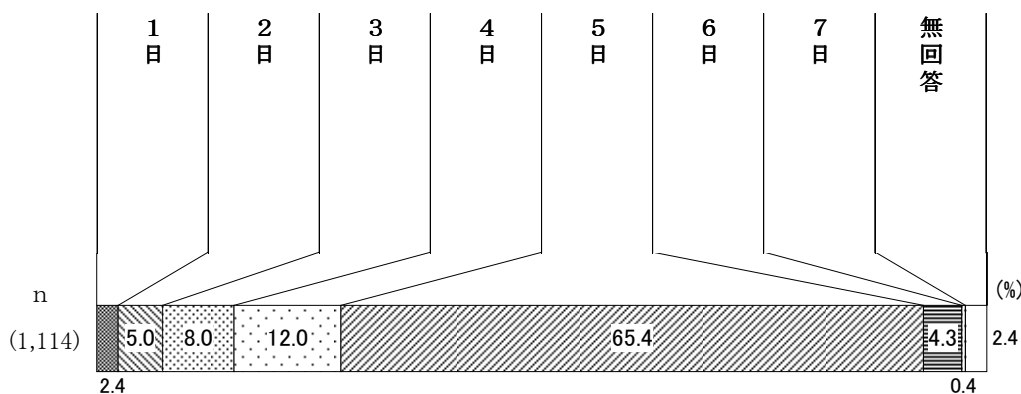
就労状況と就労時間をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況でお答えください。時間(時刻)は24時間制(例：午後6時→18時)でご記入ください。

■ 就労状況



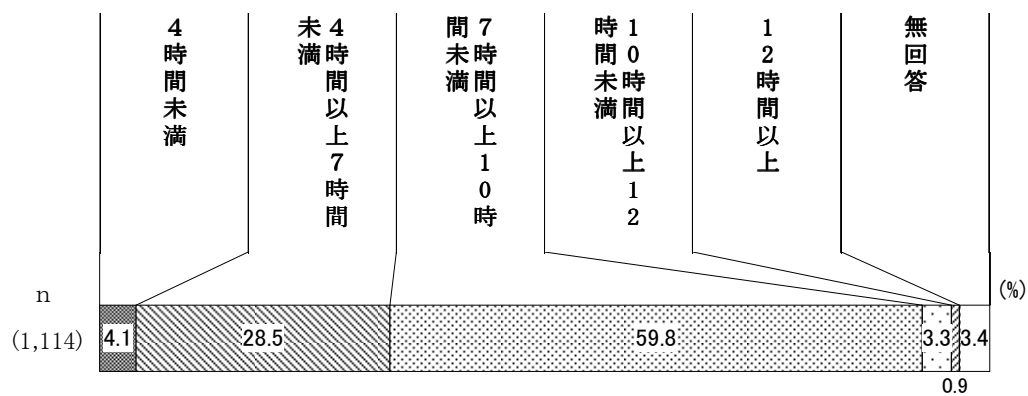
母親の就労状況は、4割台後半が「以前は就労していたが、現在は就労していない」と回答し、次いで、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1割台後半、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1割台前半となっている。フルタイム、パート・アルバイト等で就労を合わせると、3割台前半が就労中と回答している。

■ 就労日数（1週当たり）



1週当たりの就労日数は、「5日」が6割台半ば、次いで「4日」が1割台前半となっている。

■就労時間（1日当たり）



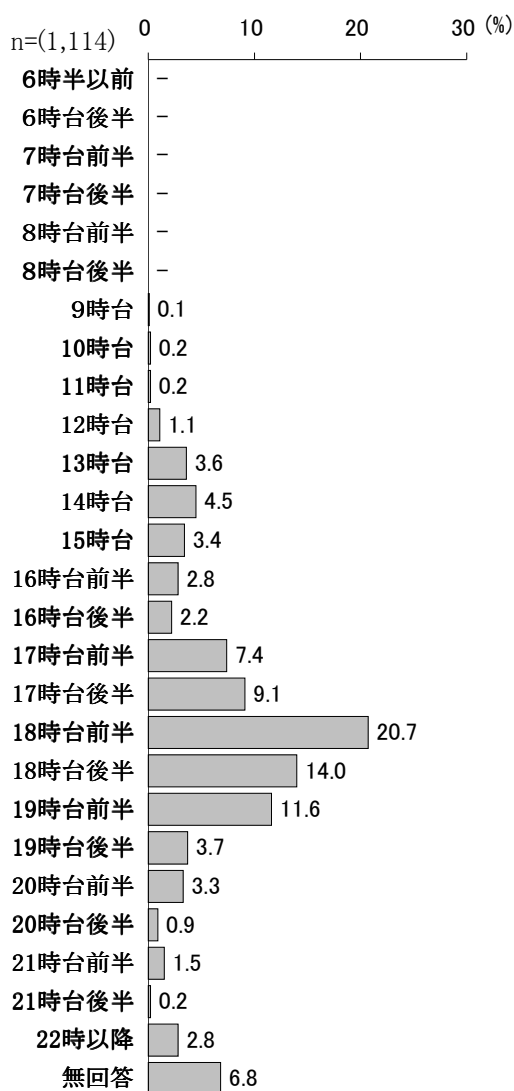
1日当たりの就労時間は、「7時間以上10時間未満」が約6割と最も多く、次いで「4時間以上7時間未満」が2割台後半となっている。

第2章 調査結果の詳細

家を出る時刻

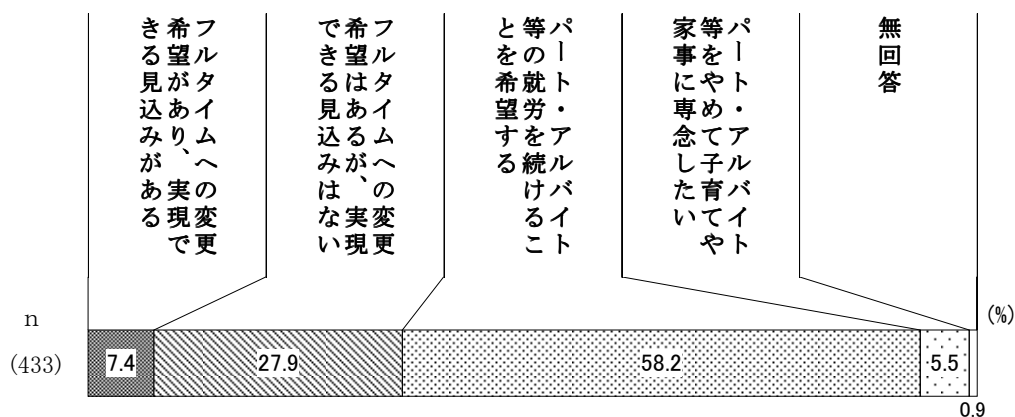


帰宅時刻



母親が家を出る時刻は、「8時台前半」「7時台後半」が2割台前半～半ば、「7時台前半」が1割台半ばとなっている。帰宅時刻は、「18時台前半」が約2割、「18時台後半」「19時台」が1割台前半となっている。帰宅時刻はばらつきが見られる。

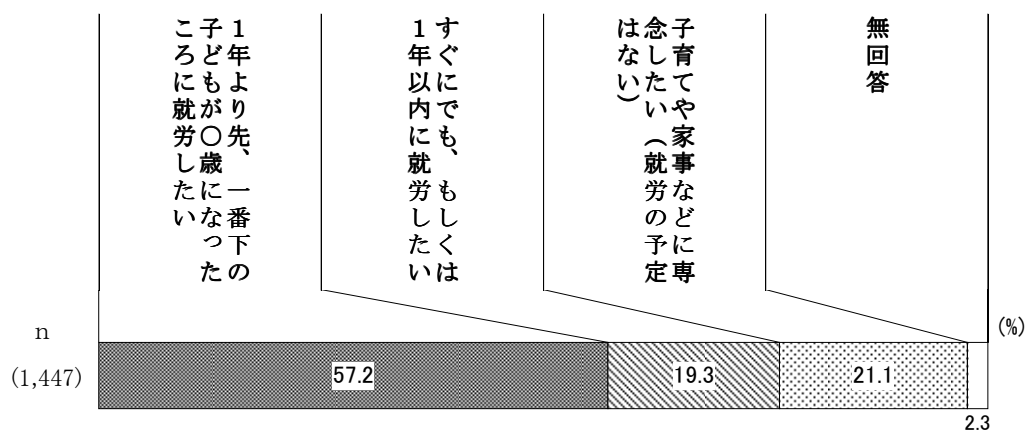
問19-②【問19-①で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）を選んだ方にのみおたずねします】
フルタイムへの変更希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



パート・アルバイト等で就労していると回答した方のフルタイムへの変更希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が5割台後半、「フルタイムへの変更希望はあるが、実現できる見込みはない」が2割台後半となっている。

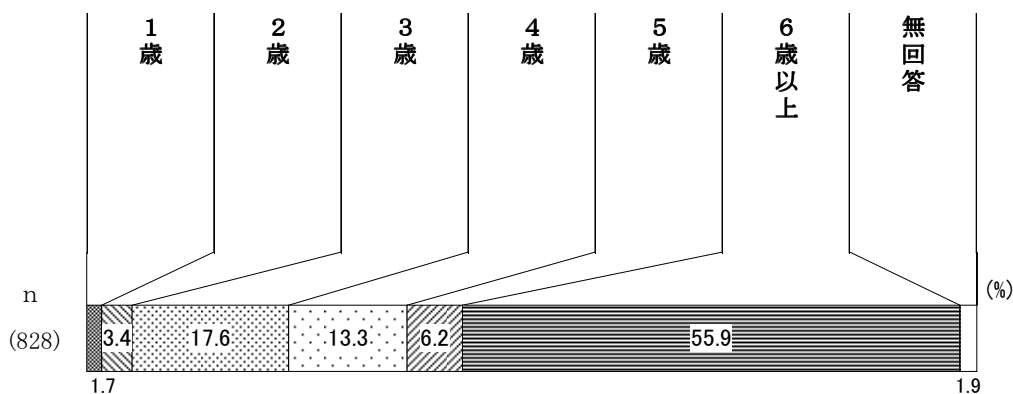
問19-③【問19-①で「5」または「6」（現在就労していない）を選んだ方にをたずねします】
 就労したいという希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

■就労希望



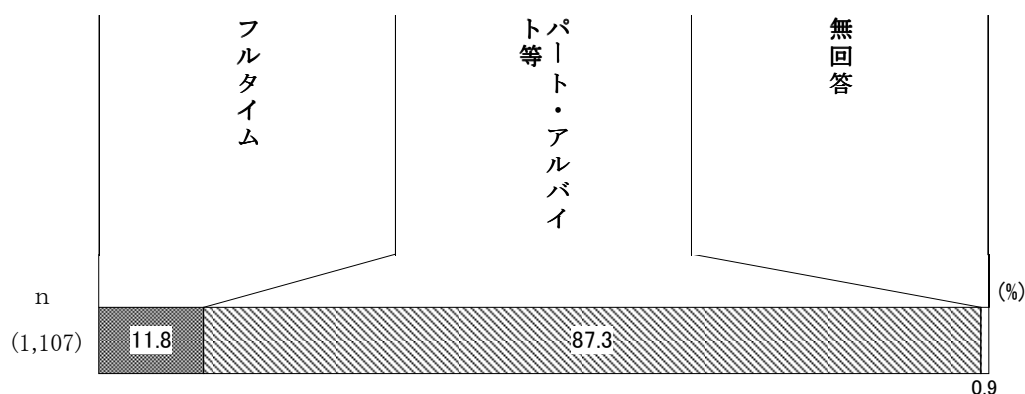
現在就労していないと回答した方の就労希望は、「1年より先、一番下の子どもが0歳になったころに就労したい」が5割台後半、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が約2割となっている。一方、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」は2割台前半となっている。

■就労したい子供の年齢



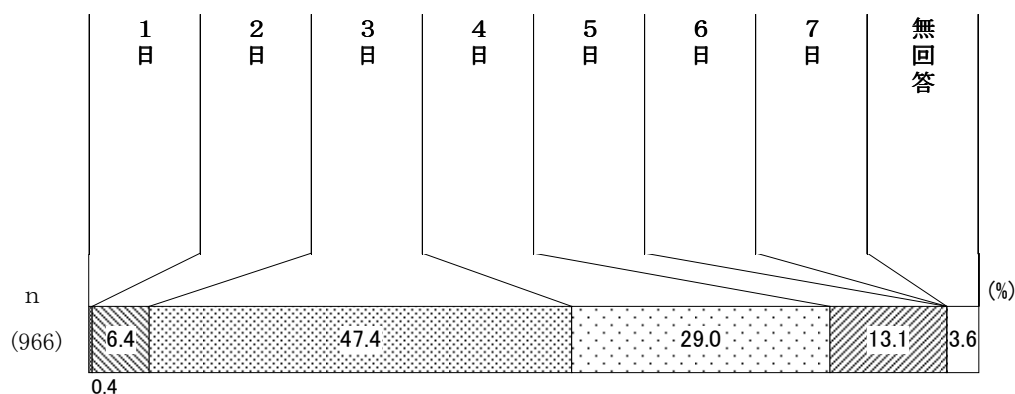
就労していない方が就労したいと思うのは、子どもが何歳になった時かは「6歳以上」が5割台半ばで最も多く、次いで「3歳」「4歳」が1割台で続いている。

■希望する就労形態



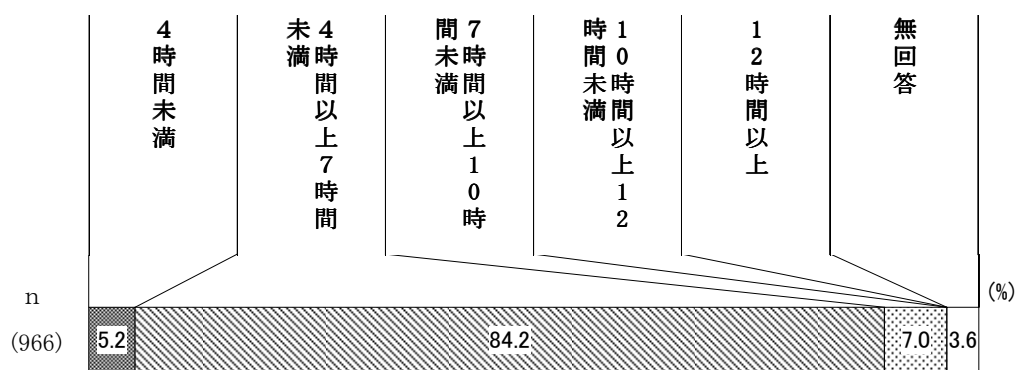
希望する就労形態は、8割台後半が「パート・アルバイト等」と回答し、1割台前半が「フルタイム」と回答している。

■就労希望日数（1週当たり）



1週当たりの就労希望日数は、「3日」が4割台後半、「4日」が約3割となっている。

■就労希望時間（1日当たり）



1日当たりの就労希望時間は、8割台前半が「4時間以上7時間未満」と回答している。

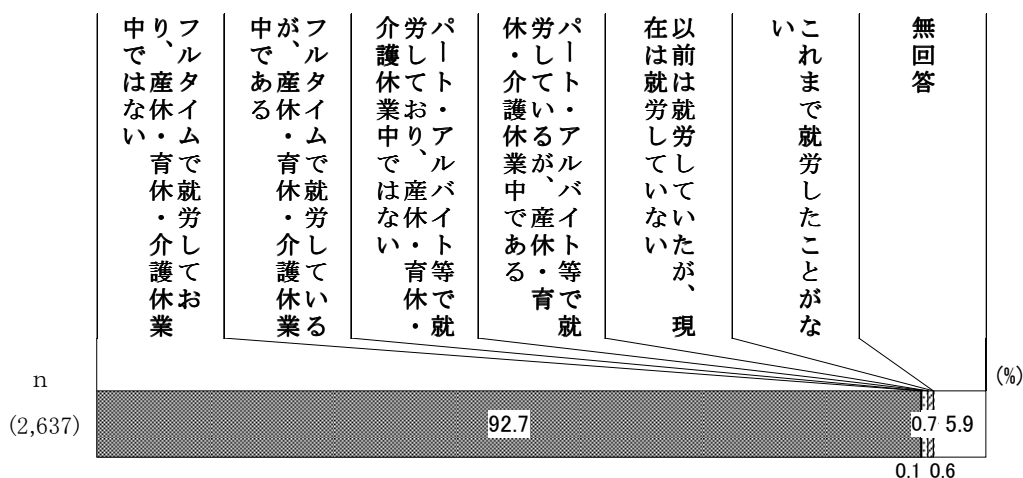
(2) 父親の就労状況

問20-①【父親の現在の就労状況（自営業、家族従業者含む）をおたずねします】

母子家庭などで、父親がいない場合は回答不要です

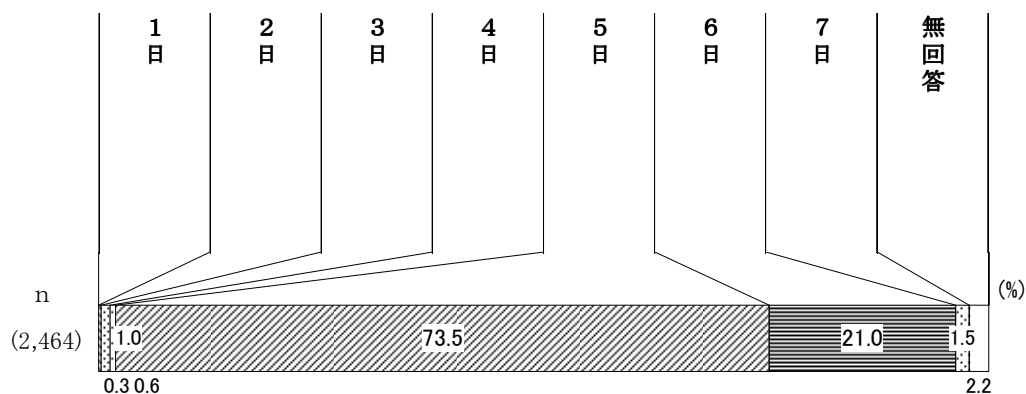
就労状況と就労時間をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、育休（産休）・介護休業中の方は、休業に入る前の状況でお答えください。時間(時刻)は24時間制(例：午後6時→18時)でご記入ください。

■就労状況



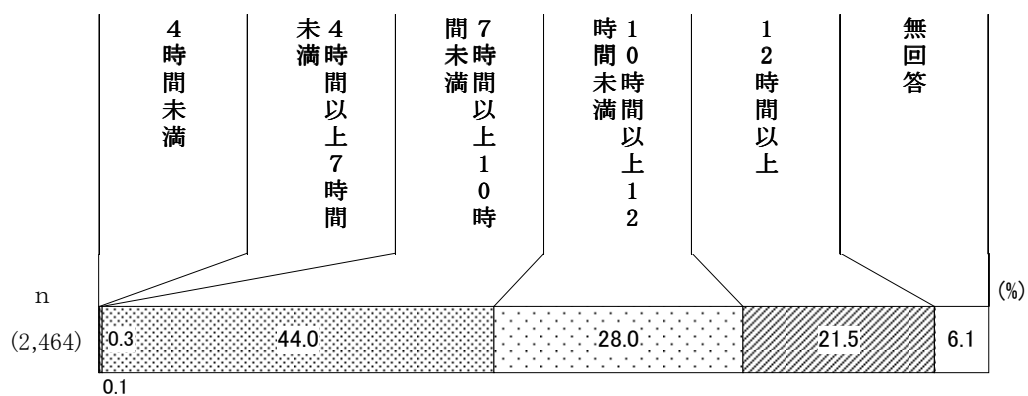
父親の就労状況は、9割台前半が「フルタイムで就労しており、育休（産休）・介護休業中ではない」と回答している。

■就労日数（1週当たり）



1週当たりの就労日数は、「5日」が7割台前半、次いで「6日」が2割台前半となっている。

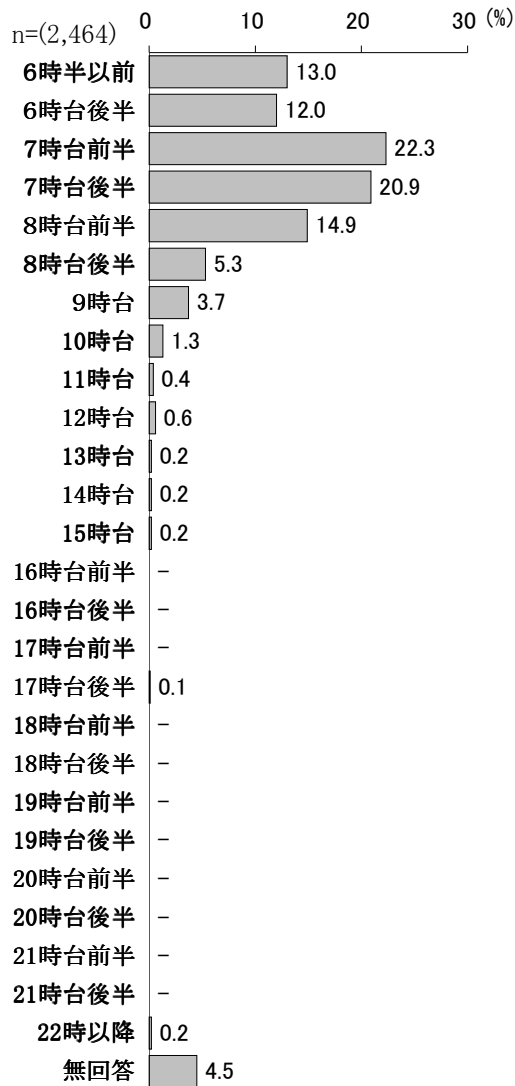
■就労時間（1日当たり）



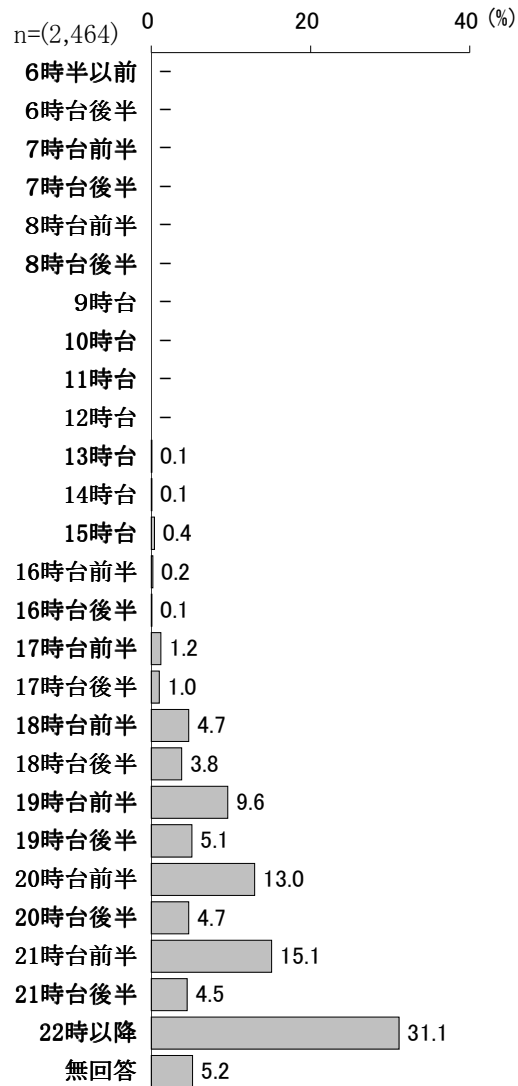
1日当たりの就労時間は、「7時間以上10時間未満」が4割台前半、「10時間以上12時間未満」が2割台後半、「12時間以上」が2割台前半となっている。

第2章 調査結果の詳細

家を出る時刻

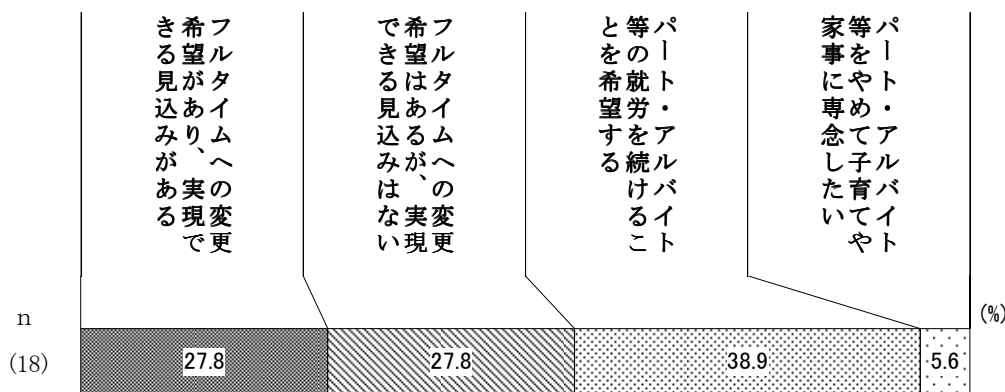


帰宅時刻



父親が家を出る時刻は、「7時台」が2割台前半、「8時台前半」「6時半以前」「6時台後半」が1割台前半となっている。帰宅時刻は、「22時以降」が3割台前半と多く、「21時台前半」「20時台前半」が1割台半ば～前半となっている。

問20-②【問20-①で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）を選んだ方にを問わずねします】
フルタイムへの変更希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

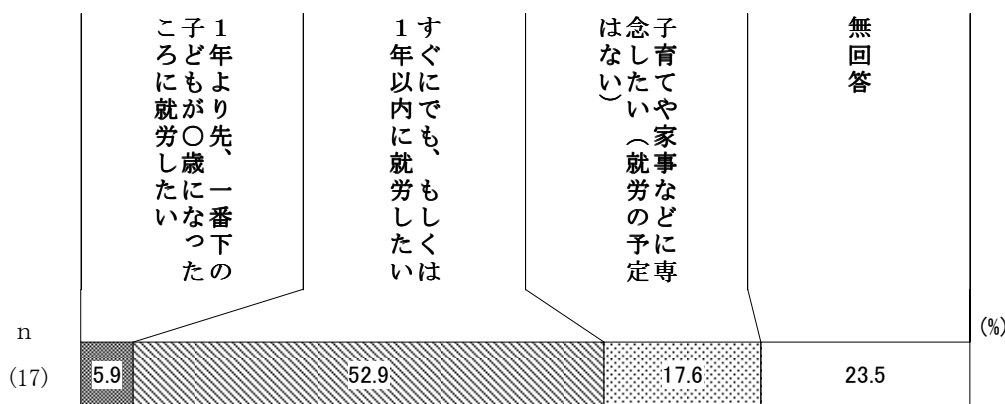


※回答数が少ないため分析は参考として掲載する。

パート・アルバイト等で就労していると回答した方のフルタイムへの変更希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が3割台後半、「フルタイムへの変更希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの変更希望はあるが、実現できる見込みはない」が2割台後半となっている。

問20-③【問20-①で「5」または「6」（現在就労していない）を選んだ方にを問わずねします】
就労したいという希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

■ 就労希望

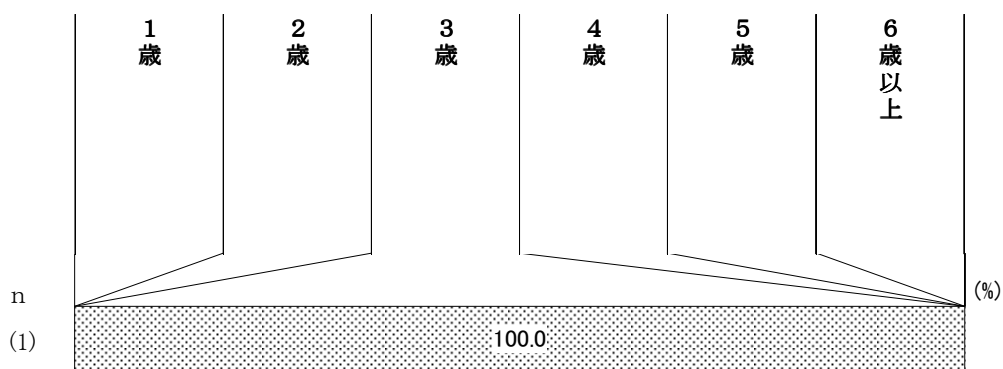


※回答数が少ないため分析は参考として掲載する。

現在就労していないと回答した方の就労希望は、「1年以内でも、もしくは1年以内に就労したい」が5割台前半となっている。

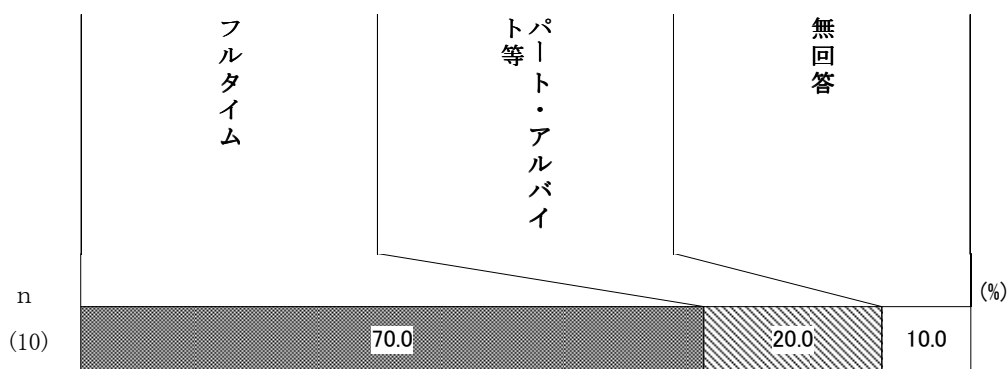
第2章 調査結果の詳細

■就労したい子供の年齢



※回答数が少ないため参考にとどめる。

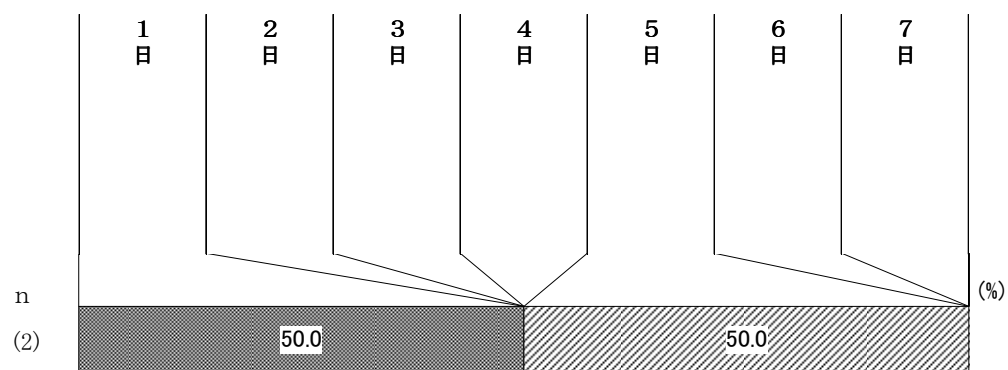
■希望する就労形態



※回答数が少ないため分析は参考として掲載する。

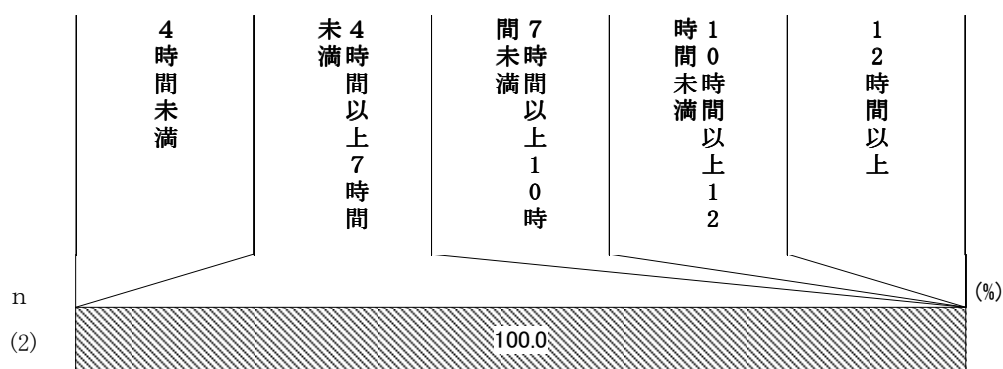
希望する就労形態は、7割が「フルタイム」と回答している。

■ 希望日数（1週当たり）



※回答数が少ないため参考にとどめる。

■ 希望時間（1日当たり）



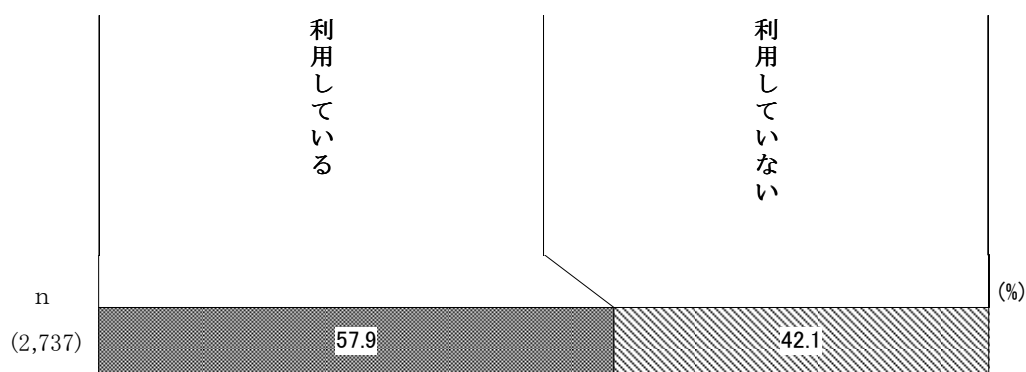
※回答数が少ないため参考にとどめる。

5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用

(1) 定期的な保育事業の利用の有無

問21【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などを利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

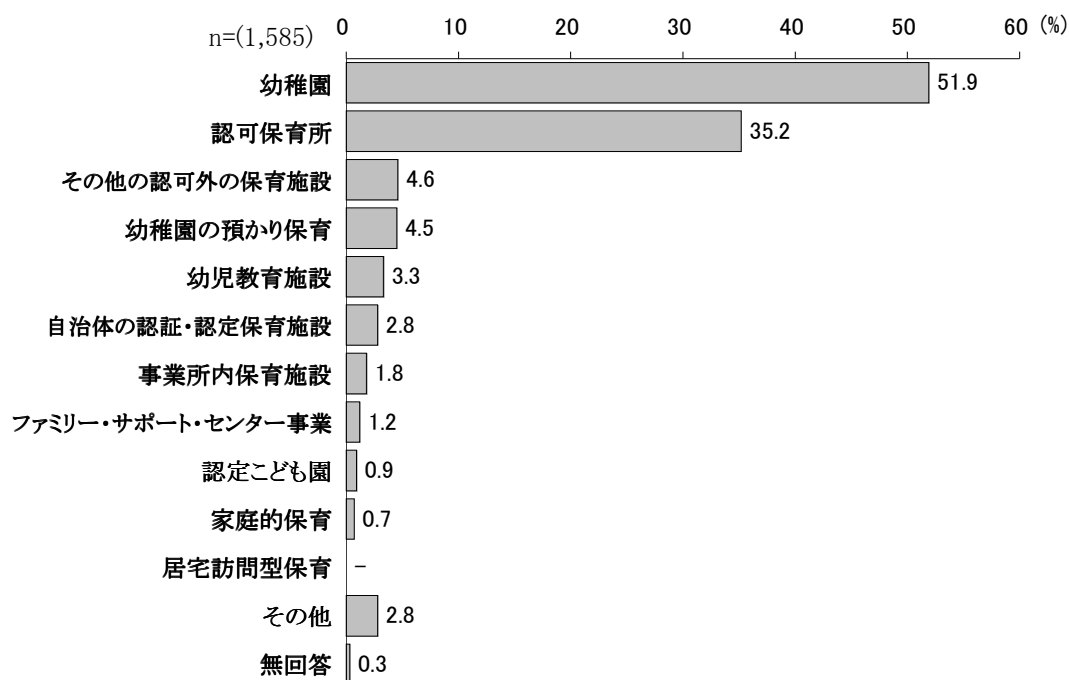


定期的な保育事業の利用の有無は、5割台後半が「利用している」と回答し、4割台前半が「利用していない」と回答している。

(2) 教育・保育事業の利用状況

問22【問21で「1. 利用している」に○をつけた方におたずねします】

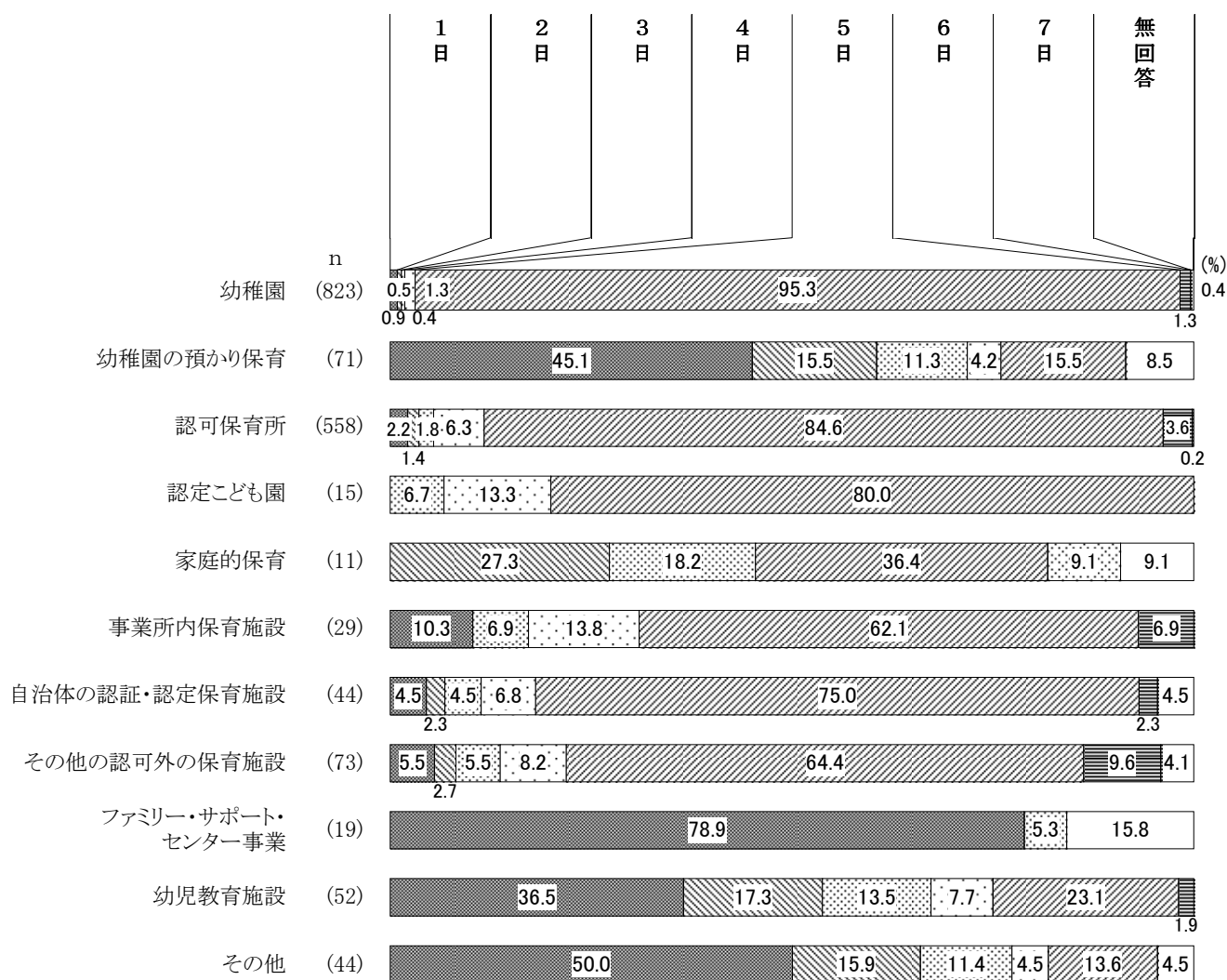
あて名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、○をした事業について、どのくらい利用していますか。現在の利用状況が1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを口内に具体的な数字でご記入ください。



平日利用している事業は「幼稚園」が5割前半で最も多く、次いで「認可保育所」が3割台半ばとなっている。

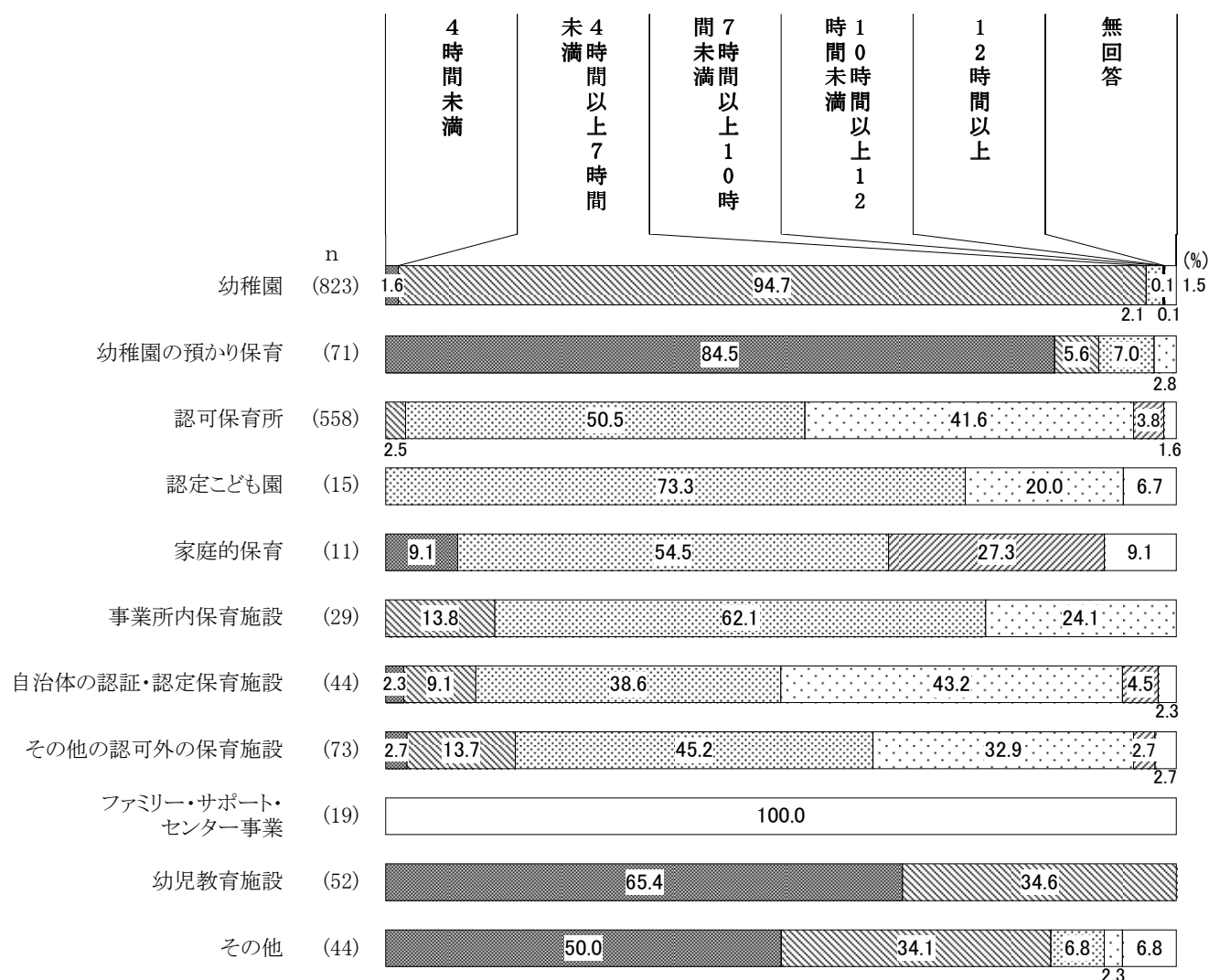
第2章 調査結果の詳細

■利用している日数（1週当たり）



1週当たりの利用日数は、「5日」は幼稚園が9割台半ば、認可保育所が8割台前半、認定こども園が8割、自治体の認証・認定保育施設が7割台半ば、その他の認可外保育施設と事業所内保育施設が6割台となっている。「1日」は幼稚園の預かり保育が4割台半ば、幼児教育施設が3割台後半となっている。

■利用している時間（1日当たり）



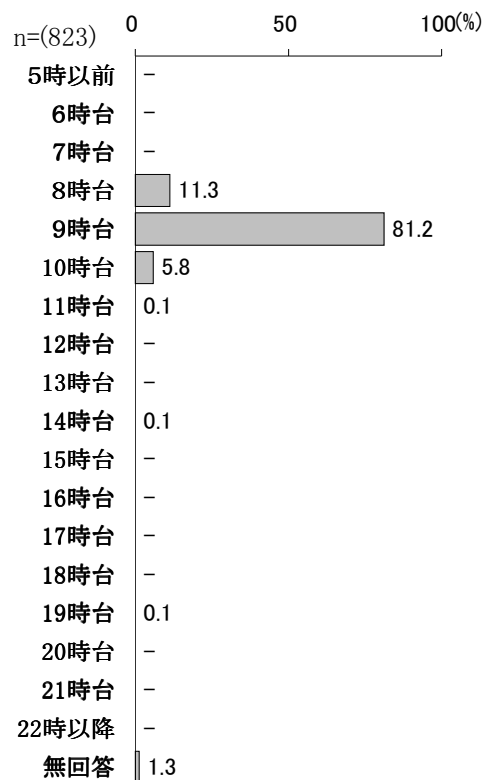
1日当たりの利用時間は、「4時間以上7時間未満」は幼稚園が9割前半と多い。「4時間未満」は幼稚園の預かり保育が8割前半、幼児教育施設が6割半ばとなっている。認可保育所は「7時間以上10時間未満」が約5割、「10時間以上12時間未満」が4割前半で利用時間が長くなっている。

第2章 調査結果の詳細

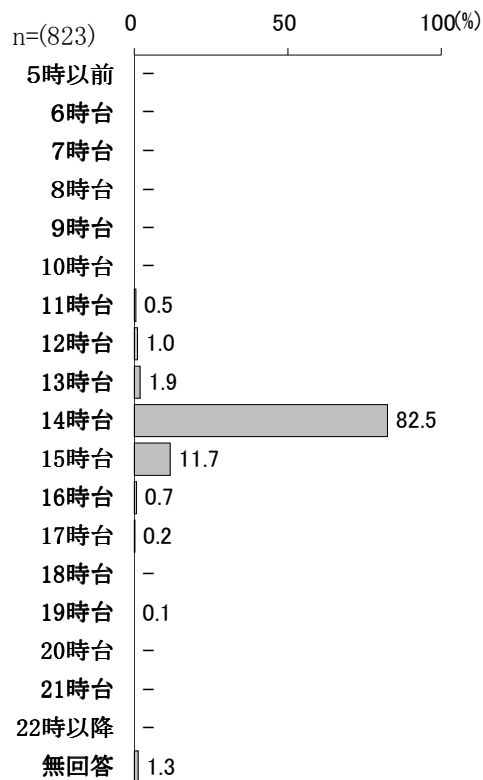
■利用時間

1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）

開始時間



終了時間

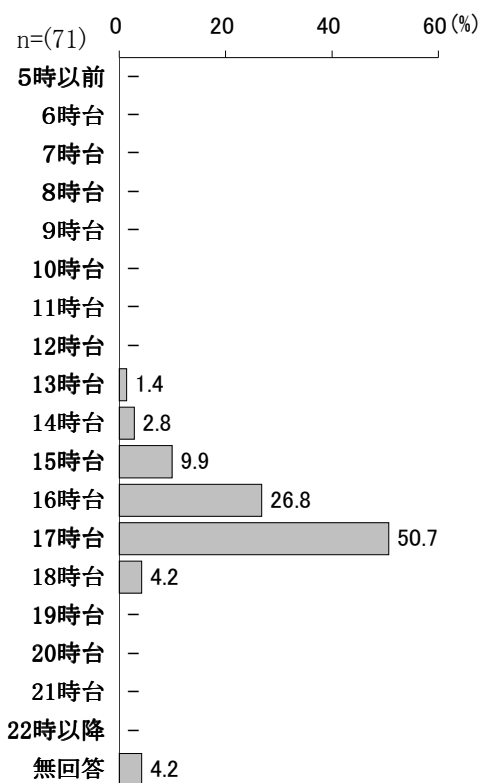
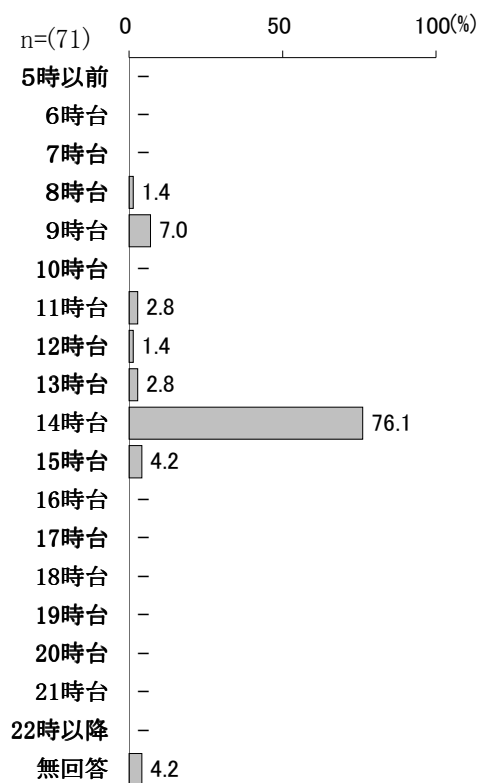


幼稚園の利用時間については、開始時間は8割台前半が「9時台」となっている。終了時間は、8割台前半が「14時台」となっている。

2. 幼稚園の預かり保育

開始時間

終了時間

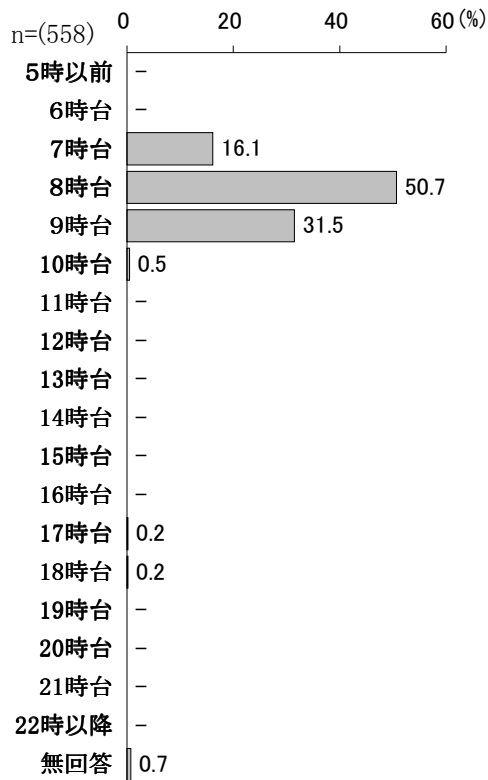


幼稚園の預かり保育の利用時間については、開始時間は「14時台」が7割台後半、終了時間は「17時台」が約5割、「16時台」が2割台後半となっている。

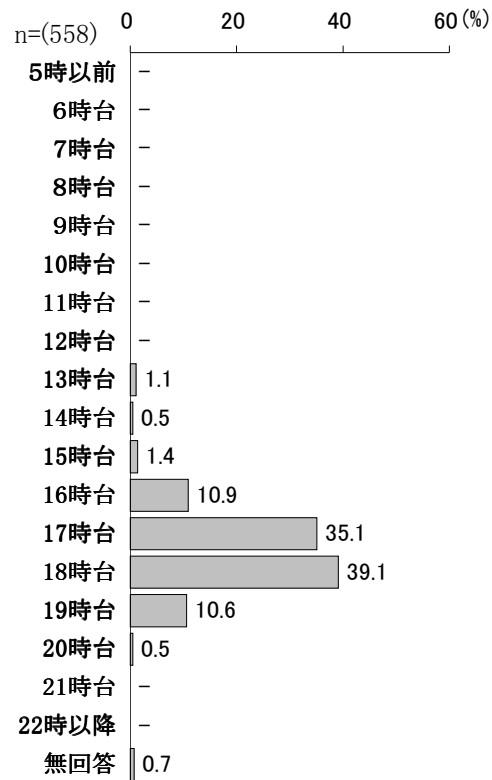
第2章 調査結果の詳細

3. 認可保育所

開始時間



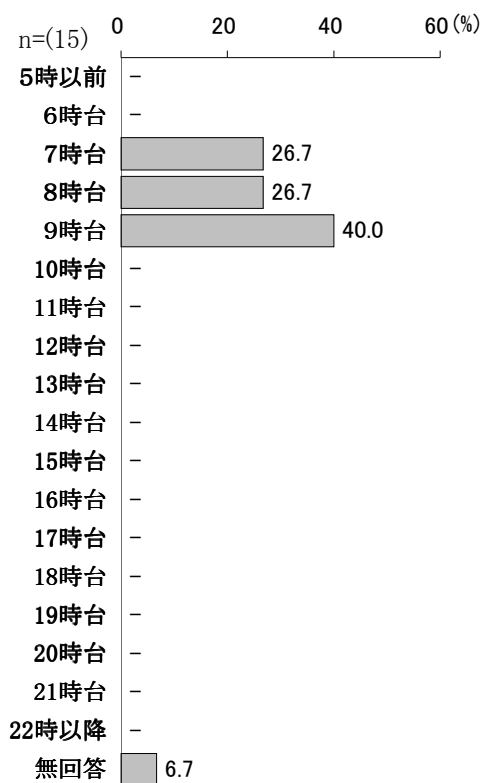
終了時間



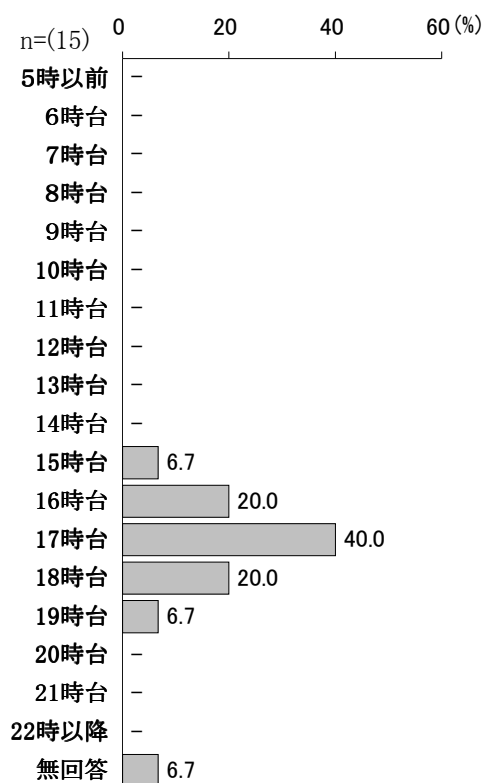
認可保育所の利用時間については、開始時間は「8時台」が約5割、「9時台」が3割前半、「7時台」が1割後半となっている。終了時間は、「18時台」が約4割、「17時台」が3割半ば、「16時台」が約1割となっている。

4. 認定こども園

開始時間



終了時間



※回答数が少ないため分析は参考として掲載する。

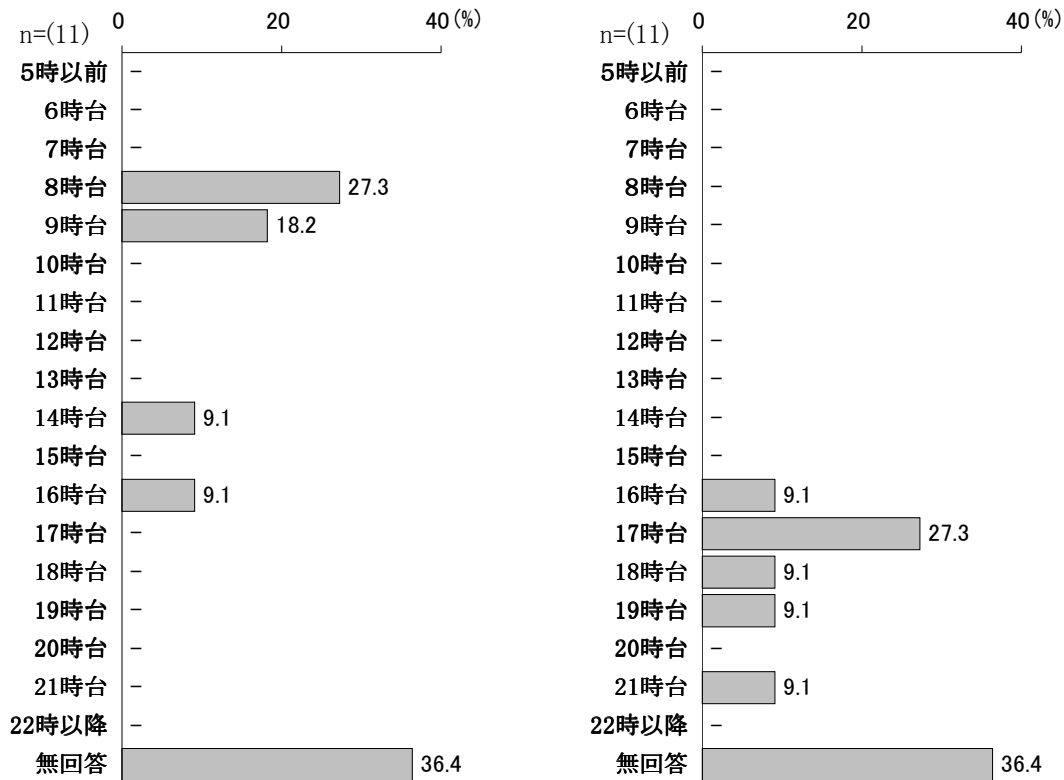
認定こども園の利用時間については、開始時間は「9時台」が4割、「7時台」「8時台」が2割台後半となっている。終了時間は「17時台」が4割、「16時台」「18時台」がともに2割となっている。

第2章 調査結果の詳細

5. 家庭的保育

開始時間

終了時間

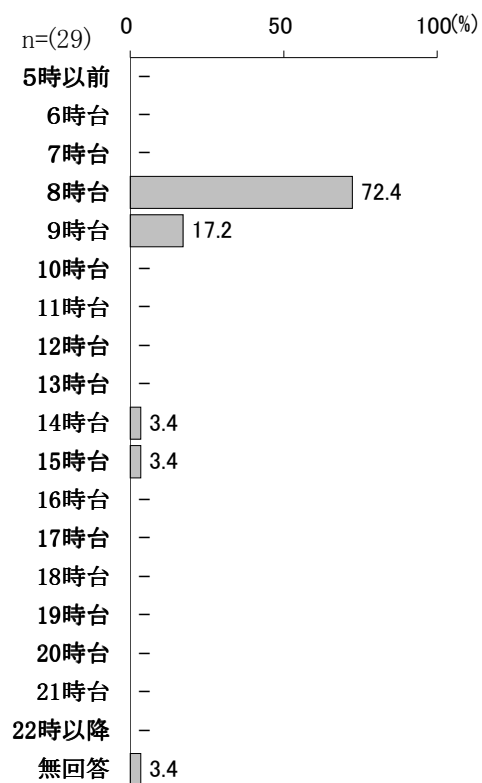


※回答数が少ないため分析は参考として掲載する。

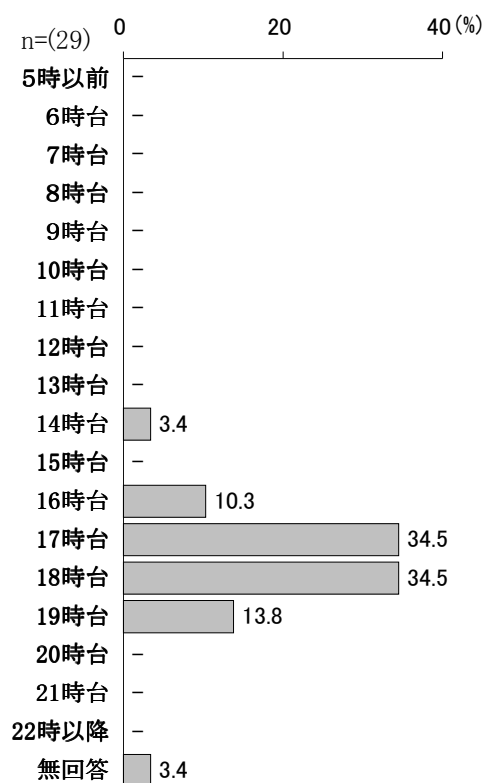
家庭的保育の利用時間については、開始時間は「8時台」が2割台後半、「9時台」が1割台後半、「14時台」「16時台」が約1割となっている。終了時間は「17時台」が2割台後半、「16時台」「18時台」「19時台」「21時台」が約1割となっている。

6. 事業所内保育施設

開始時間



終了時間

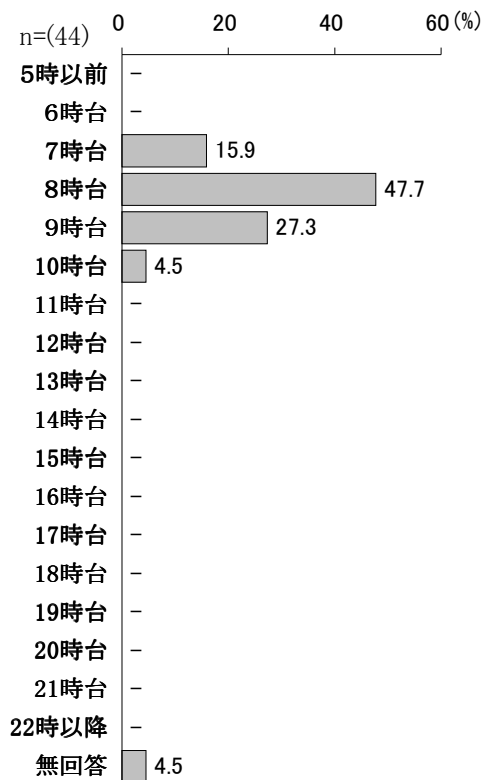


事業所内保育施設の利用時間については、開始時間は「8時台」が7割台前半、「9時台」が1割台後半となっている。終了時間は「17時台」「18時台」が3割台前半、「16時台」「19時台」が約1割～1割台前半となっている。

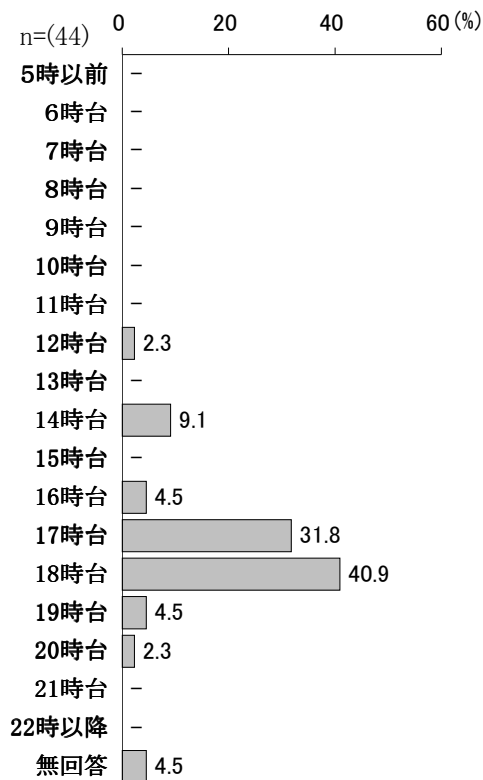
第2章 調査結果の詳細

7. 自治体の認証・認定保育施設

開始時間



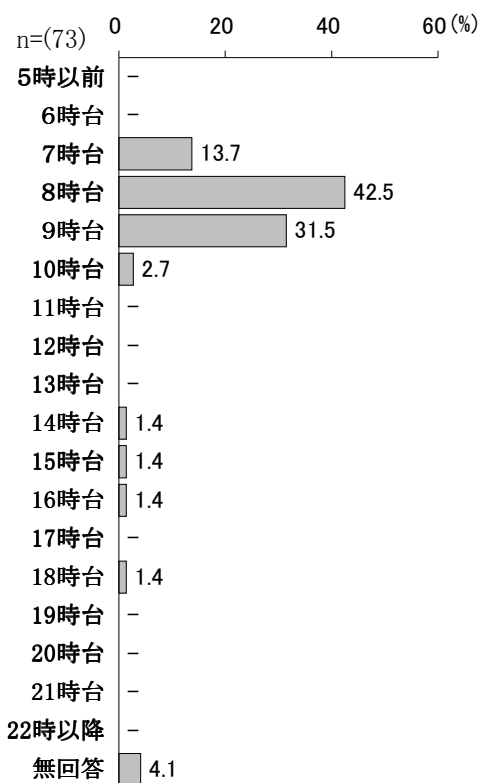
終了時間



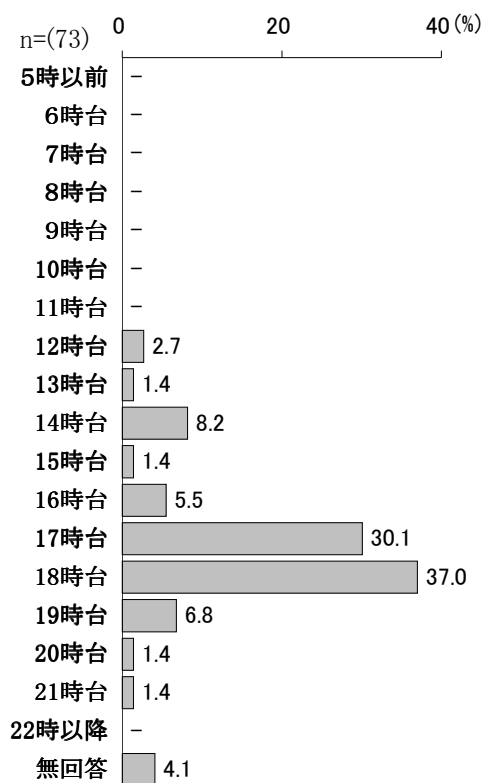
自治体の認証・認定保育施設の利用時間は、利用開始時間は「8時台」が4割後半、「9時台」が2割後半、「7時台」が1割半ばとなっている。終了時間は、「18時台」が約4割、「17時台」は3割前半となっている。

8. その他の認可外の保育施設

開始時間



終了時間



その他の認可外の保育施設の利用時間については、利用開始時間は「8時台」が4割前半、「9時台」が3割前半、「7時台」が1割前半となっている。終了時間は「18時台」が3割後半、「17時台」が約3割となっている。

9. 居宅訪問型保育

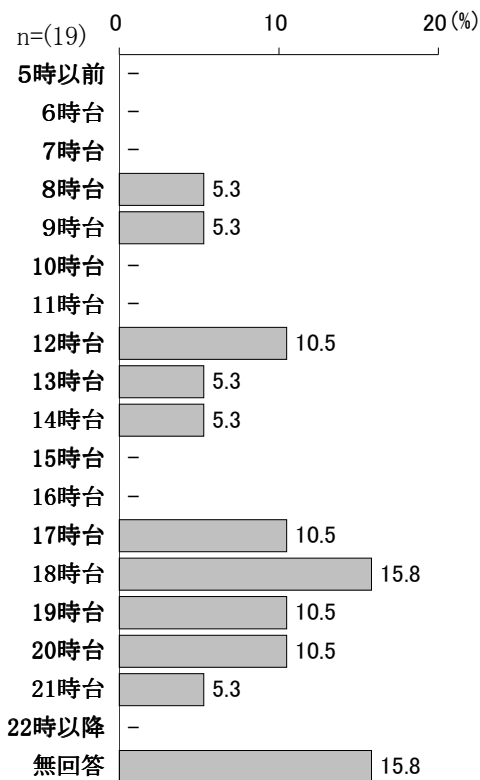
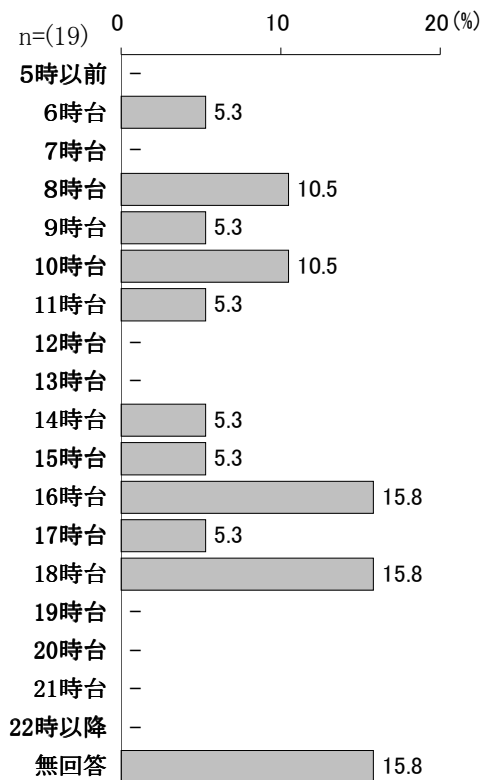
※回答数が0人であった。

第2章 調査結果の詳細

10. ファミリー・サポート・センター事業

開始時間

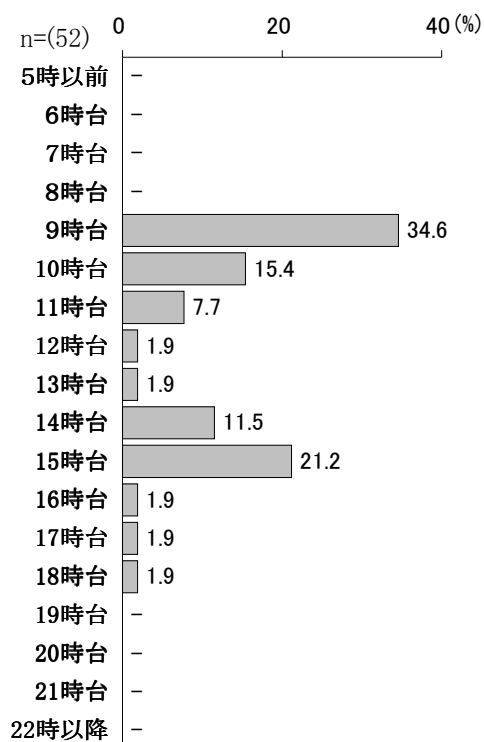
終了時間



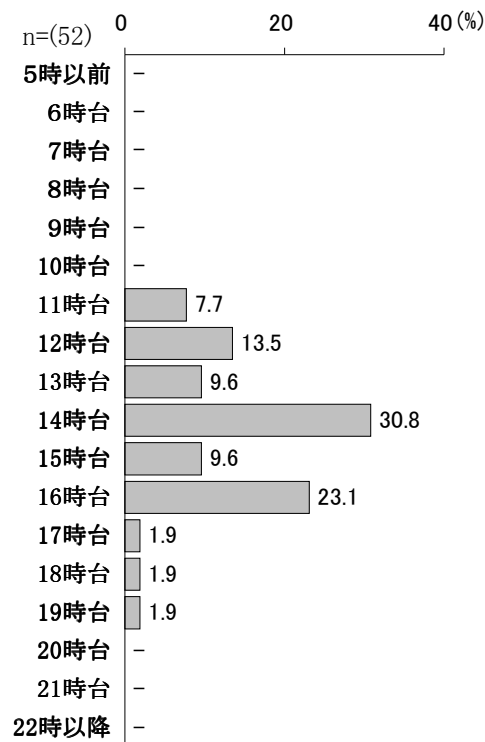
ファミリー・サポート・センター事業の利用時間については、開始時間は「午前6時台」、「8時台～11時台」、「午後は14時台～18時台」に分散しており、午前では「8時台」「10時台」が約1割、午後では「16時台」「18時台」が1割台半ばとなっている。終了時間も「午前8時台～9時台」、「午後12時台～14時台」、「17時台～21時台」に分散していて、「18時台」が1割台半ば、「12時台」「17時台」「19時～20時台」が約1割となっている。

11. 幼児教育施設

開始時間



終了時間

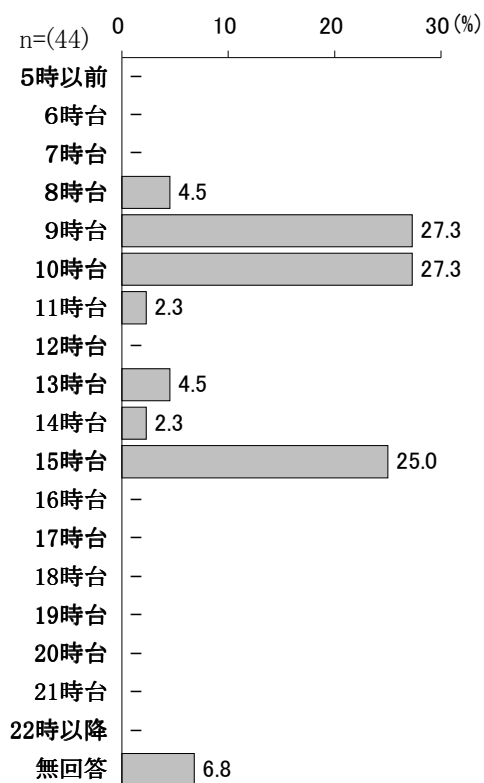


幼児教育施設の利用時間については、開始時間は午前「9時台」が3割前半、「10時台」が1割前半、午後は「15時台」が2割前半、「14時台」が1割前半となっている。終了時間は、「14時台」が約3割、「16時台」が2割前半、「12時台」が1割前半となっている。

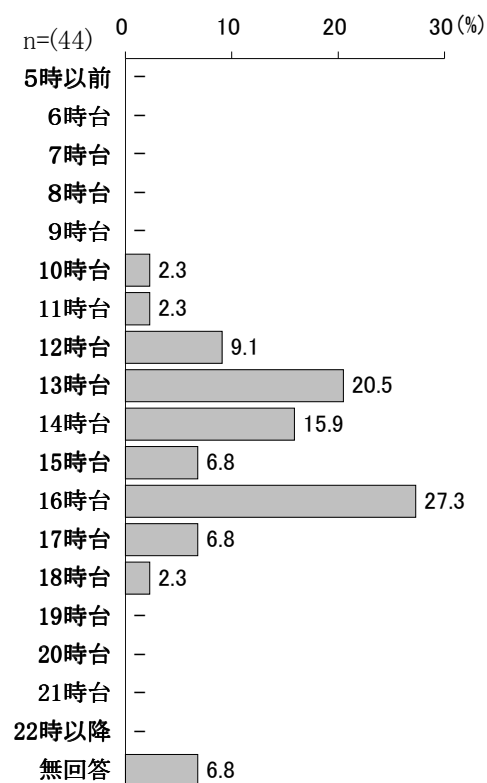
第2章 調査結果の詳細

12. その他

開始時間



終了時間



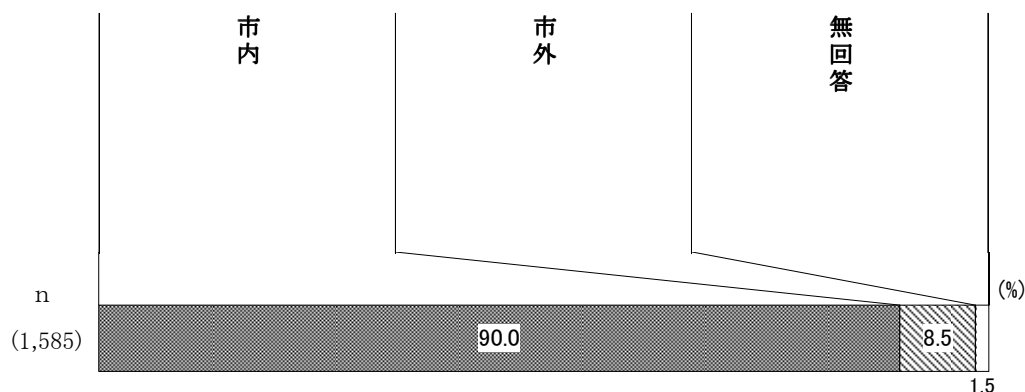
その他の教育保育事業の利用時間については、開始時間は「9時台」「10時台」が2割台後半、「15時台」は2割台後半となっている。終了時間は「16時台」が2割台後半、「13時台」が約2割、「14時台」が1割台半ばとなっている。

(3) 利用している教育・保育事業の実施場所

問23【問21で「1. 利用している」に○をつけた方におたずねします】

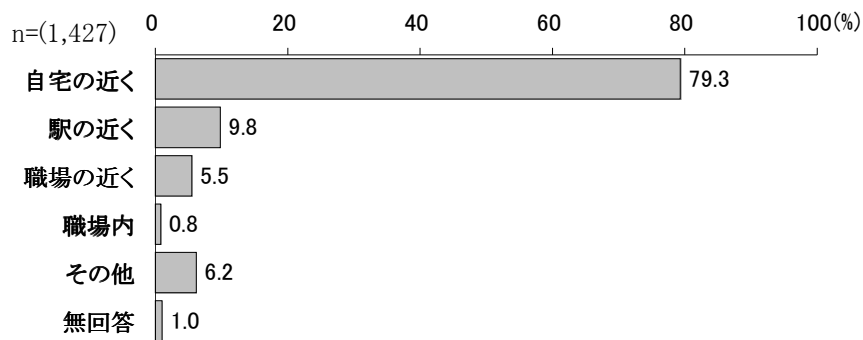
現在、利用している教育・保育事業の実施場所についておたずねします。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、該当する場所に☑をしてください。「市外」を選んだ場合は、実施場所の市町村名を記入してください。

■教育・保育事業の実施場所



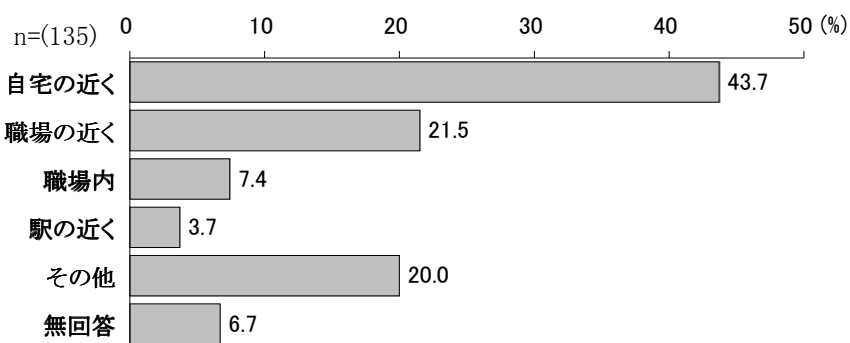
利用している教育・保育事業の実施場所は、9割が「市内」と回答し、「市外」は1割未満となっている。

■具体的な場所（市内）



市内の具体的な場所は、「自宅の近く」が約8割と多い。

■具体的な場所（市外）

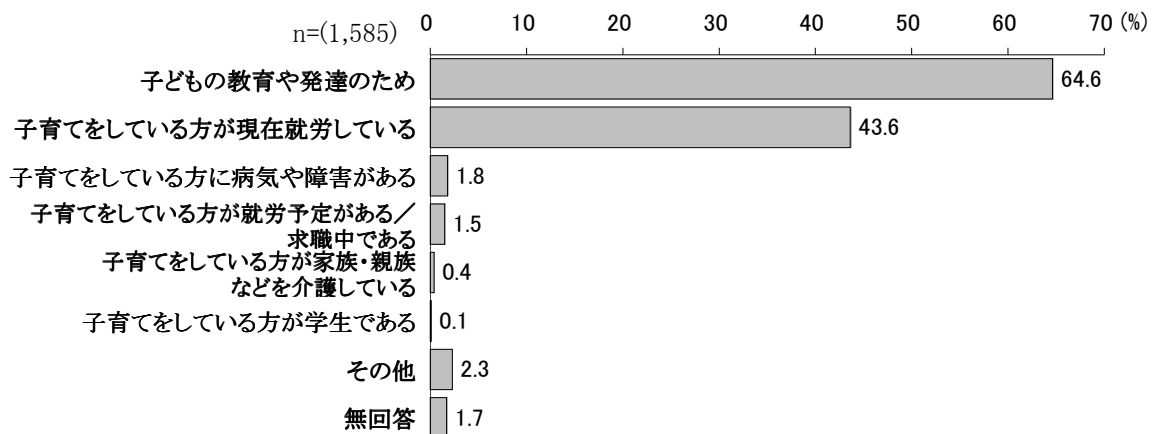


市外の具体的な場所は、「自宅の近く」が4割台前半、次いで「職場の近く」が2割台前半となっている。

(4) 教育・保育事業を利用している理由

問24 【問21で「1. 利用している」に○をつけた方におたずねします】

平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由についておたずねします。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

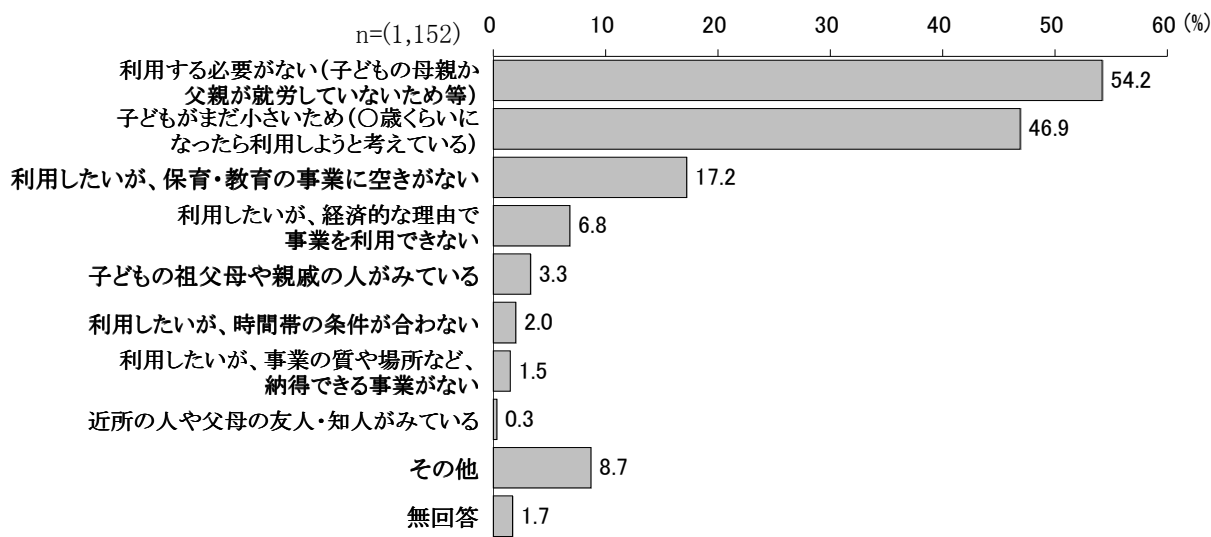


平日に教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」が6割台前半、次いで「子育てをしている方が現在就労している」が4割台前半と続いている。

(5) 教育・保育事業を利用していない理由

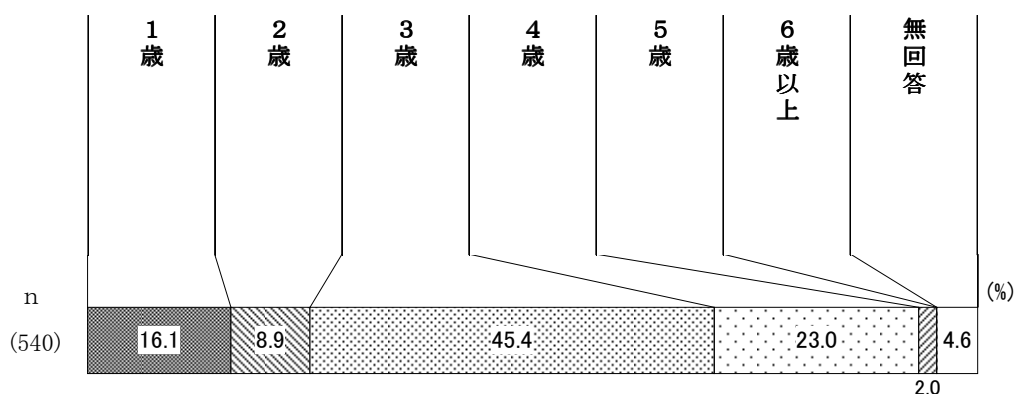
問25【問21で「2. 利用していない」に○をつけた方におたずねします】

利用していない理由は何ですか。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。



平日に教育・保育事業を利用していない理由は、「利用する必要がない(子どもの母親か父親が就労していないため等)」が5割台前半、次いで「子どもがまだ小さいため(○歳くらいになったら利用しようと考えている)」が4割台後半となっている。また、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」は1割台後半となっている。

■利用を考えている年齢

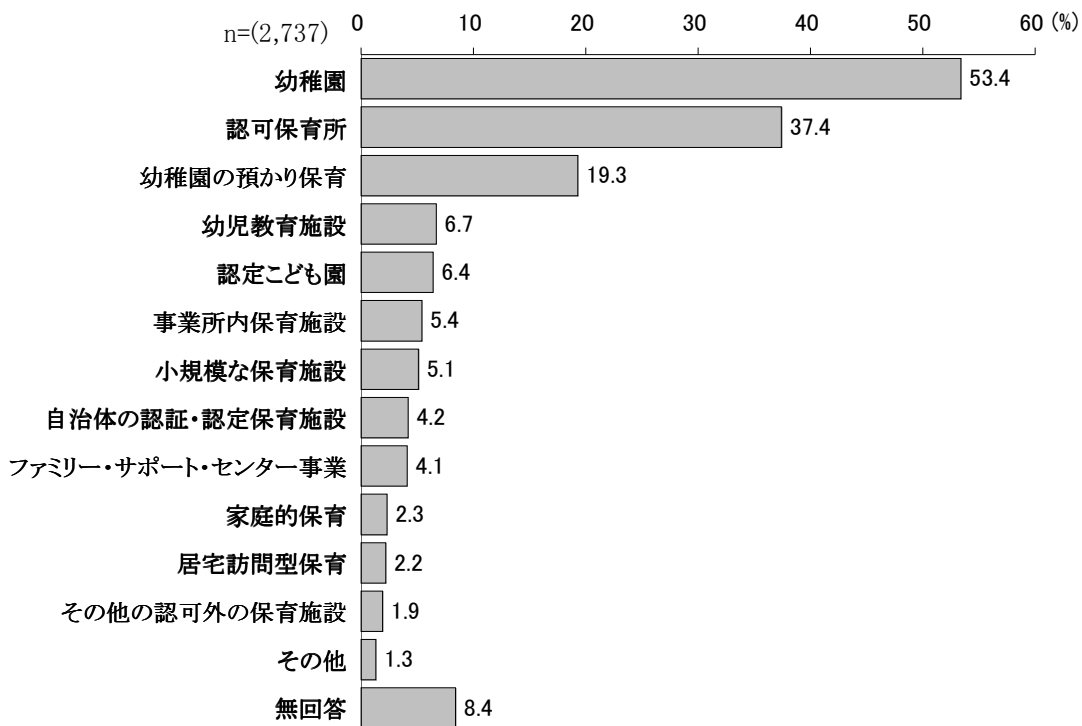


子どもがまだ小さいため○歳くらいになったら利用しようと考えていると回答した方が利用しようと考えている子どもの年齢は、「3歳」が4割台半ばと最も多く、次いで「4歳」が2割台前半、「1歳」が1割台後半となっている。

(6) 今後、定期的に利用したい事業

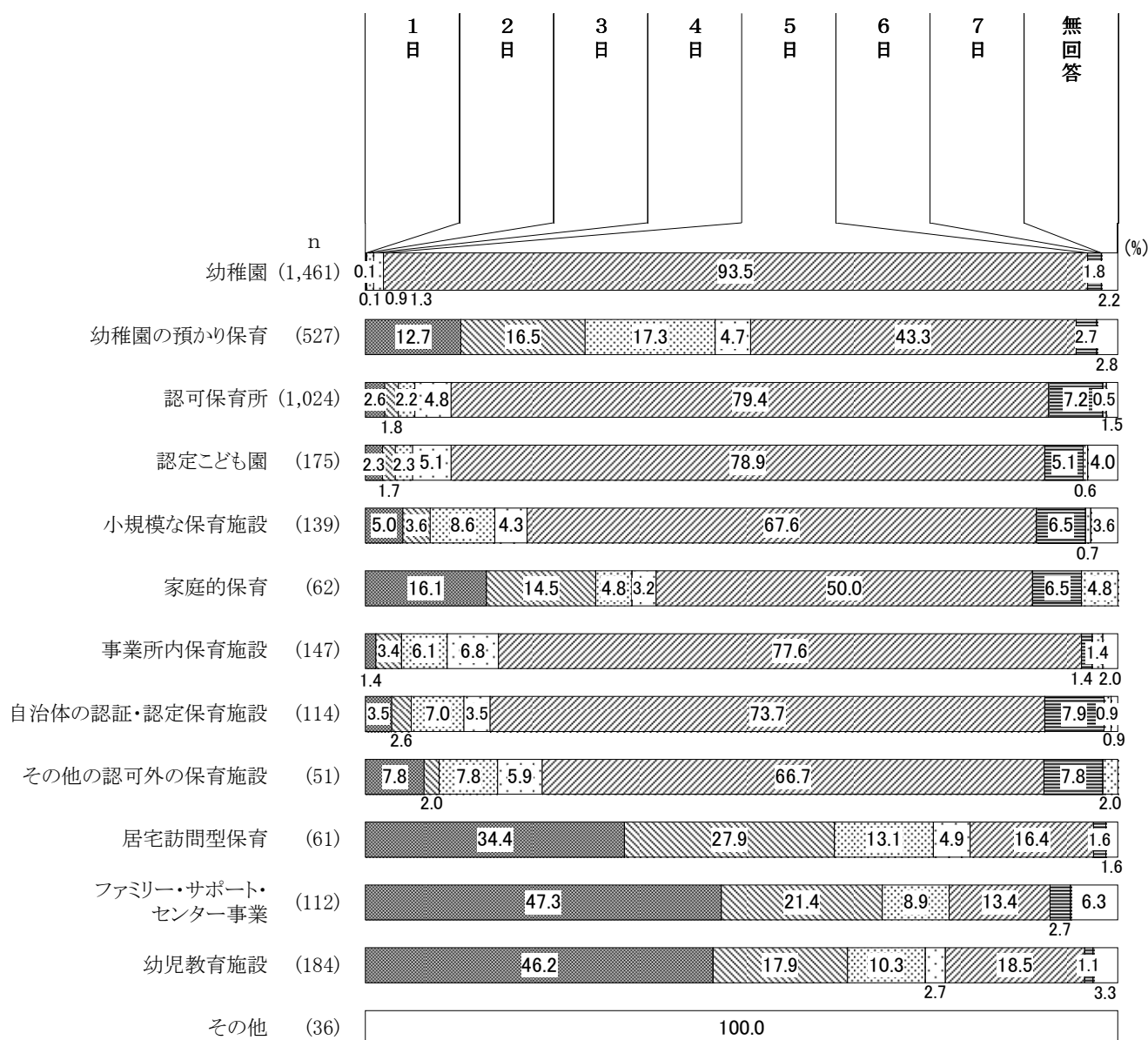
問26【すべての方におたずねします】

現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、定期的にご利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。利用希望が1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを口内に具体的な数字でご記入ください。



今後、定期的にご利用したい事業は、「幼稚園」が5割台前半、次いで「認可保育所」が3割台後半、「幼稚園の預かり保育」が約2割となっている。

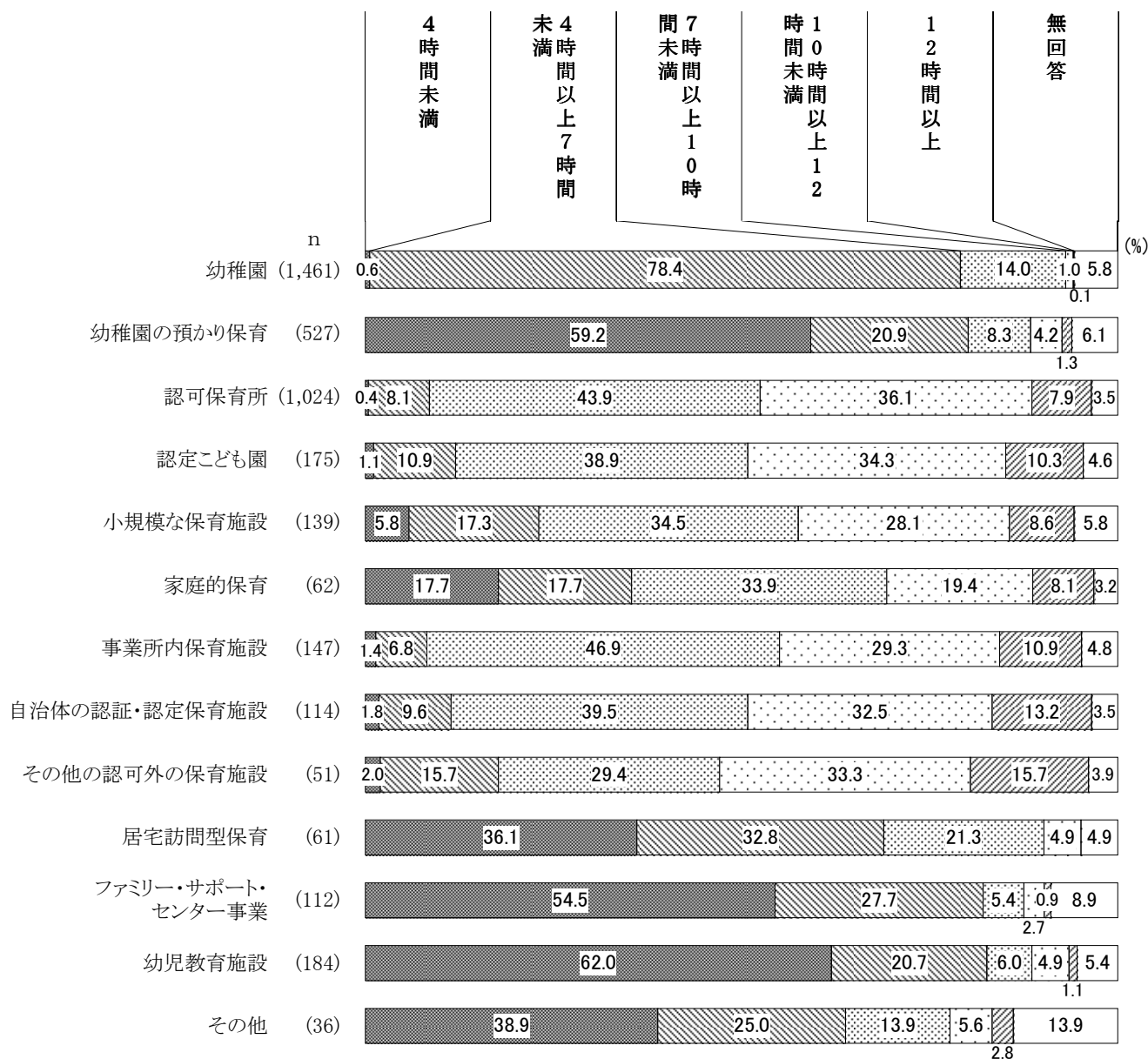
■利用希望日数（1週当たり）



1週当たりの利用希望日数は、「5日」を希望する事業は、幼稚園が9割台前半、認可保育所、認定こども園、事業所内保育所が7割台後半、自治体の認証・認定保育施設が7割台前半、その他の認可外の保育施設が6割台後半、家庭的保育が5割で、多くの事業で1週当たり「5日」の希望の割合が多い。「1日」はファミリー・サポート・センター事業、幼児教育施設が4割台後半、居宅訪問型保育が3割台前半となっている。

第2章 調査結果の詳細

■利用希望時間（1日当たり）

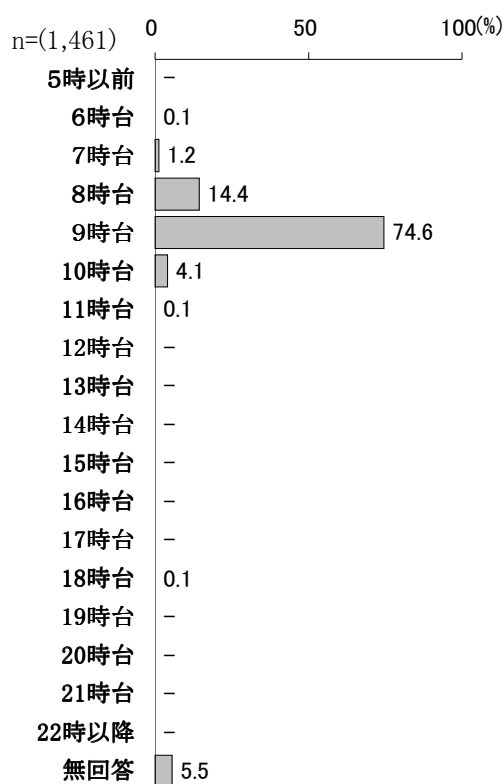


1日当たりの利用希望時間は、「4時間未満」は幼児教育施設が6割台前半、幼稚園の預かり保育が約6割、ファミリー・サポート・センター事業が5割台前半となっている。「4時間以上7時間未満」は幼稚園が7割台後半と多く、幼稚園の預かり保育は約2割となっている。「7時間以上10時間未満」は認可保育所、事業所内保育所が4割台前半～後半、自治体の認証・認定保育施設、認定こども園が3割台後半～約4割、小規模な保育施設、家庭的保育が3割台前半となっている。「10時間以上12時間未満」は、認可保育所、認定こども園、自治体の認証・認定保育施設、その他の認可外保育施設で3割台前半～後半となっている。「12時間以上」の利用希望は、その他の認可外保育施設で1割台半ば、自治体の認証・認定保育施設で1割台前半となっている。

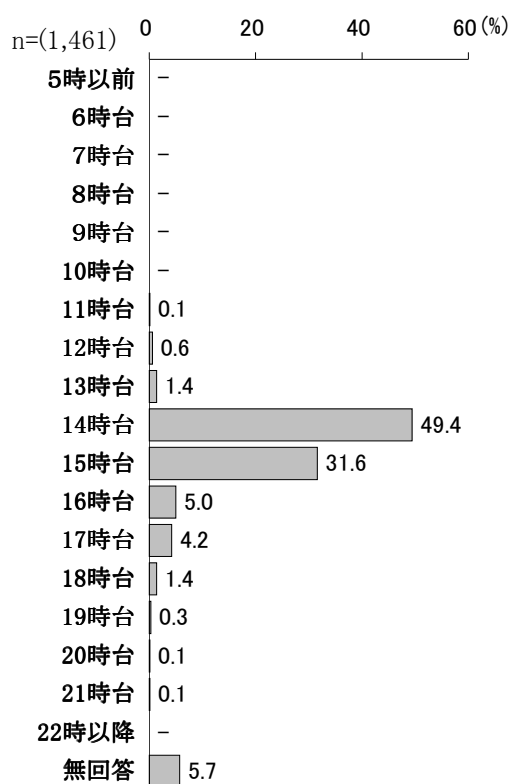
■利用希望

1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）

開始時間



終了時間



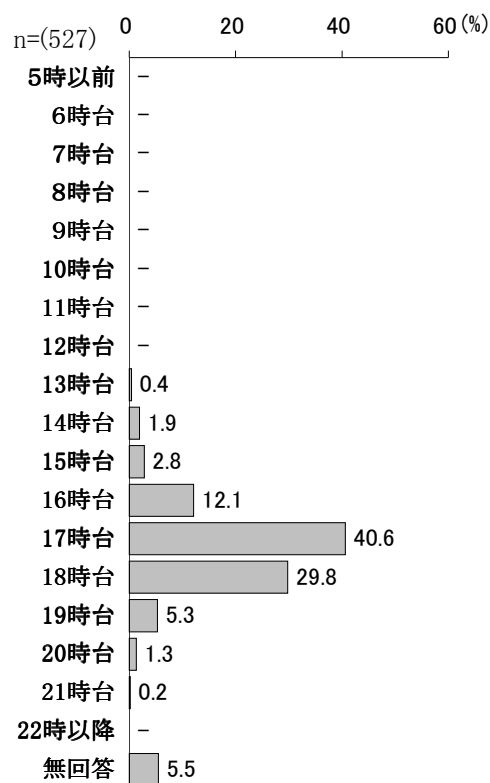
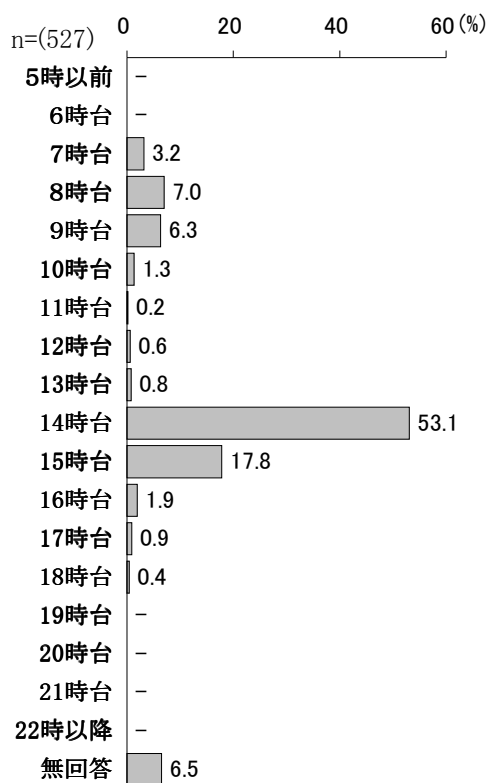
幼稚園の利用希望時間については、開始時間は「9時台」が7割台前半、「8時台」は1割台前半となっている。終了時間は「14時台」が約5割、「15時台」は3割台前半となっている。

第2章 調査結果の詳細

2. 幼稚園の預かり保育

開始時間

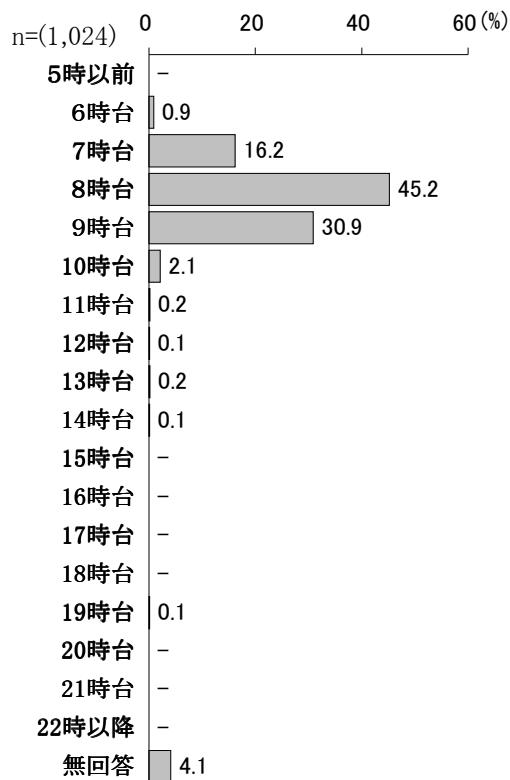
終了時間



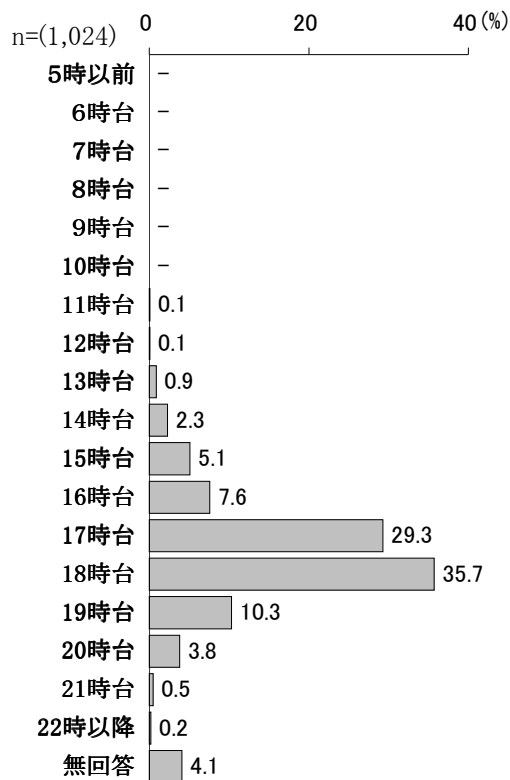
幼稚園の預かり保育の利用希望時間については、開始時間は、「14時台」が5割台前半、「15時台」が1割台後半となっている。終了時間は、「17時台」が約4割、「18時台」が約3割となっている。

3. 認可保育所

開始時間



終了時間

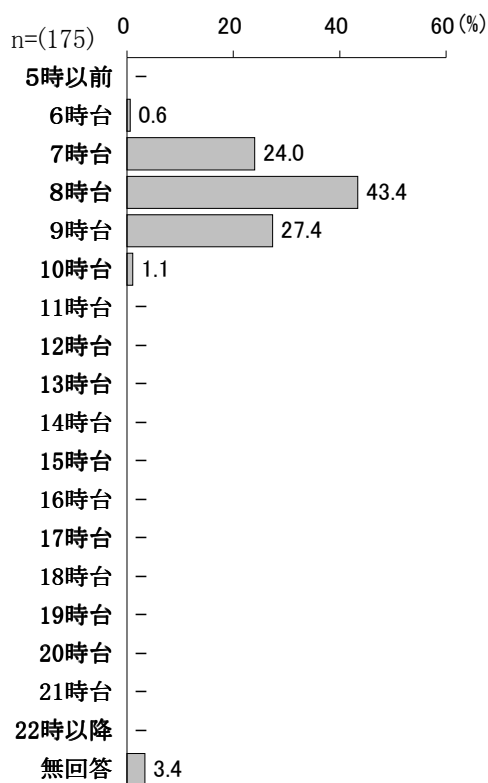


認可保育所の利用希望時間については、開始時間は「8時台」が4割台半ば、「9時台」が約3割、「7時台」が1割台後半となっている。終了時間は「18時台」が3割台後半、「17時台」が約3割となっている。

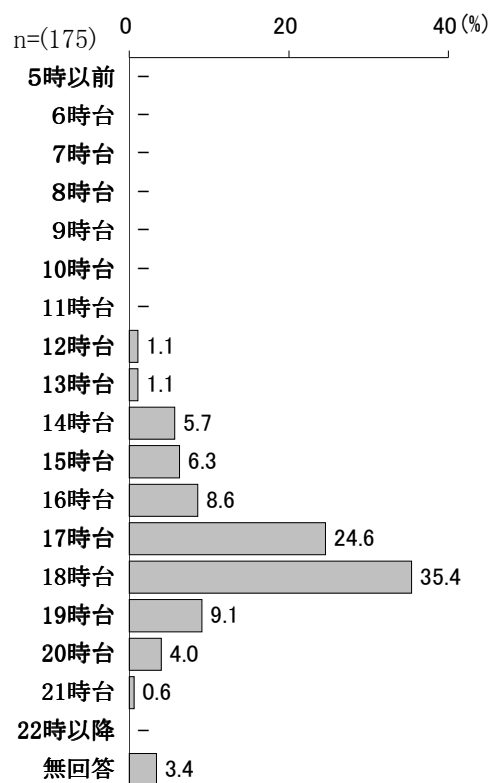
第2章 調査結果の詳細

4. 認定こども園

開始時間



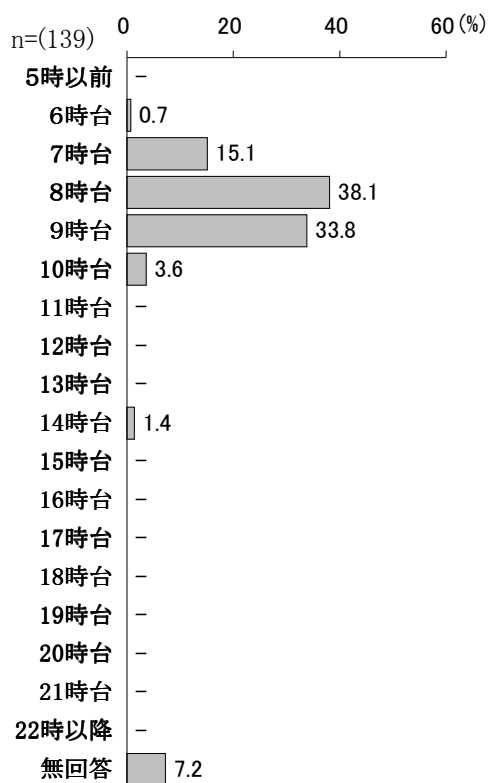
終了時間



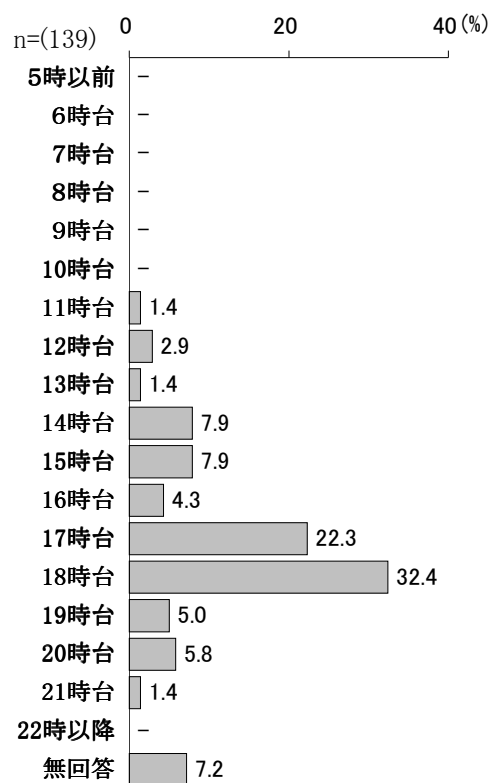
認定こども園の利用希望時間については、開始時間は「18時台」が3割台半ば、「17時台」が2割台前半となっている。終了時間は12時台以降各時間に利用希望が分散しており、「18時台」が3割台半ば、「17時台」が2割台前半と多くなっている。

5. 小規模な保育施設

開始時間



終了時間



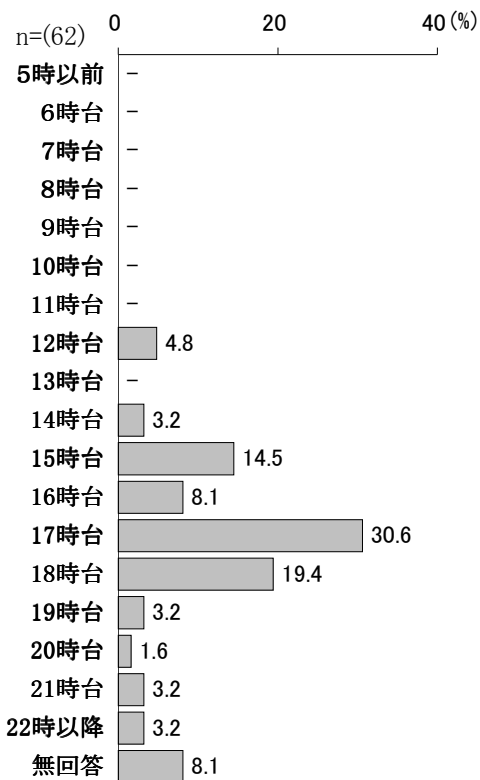
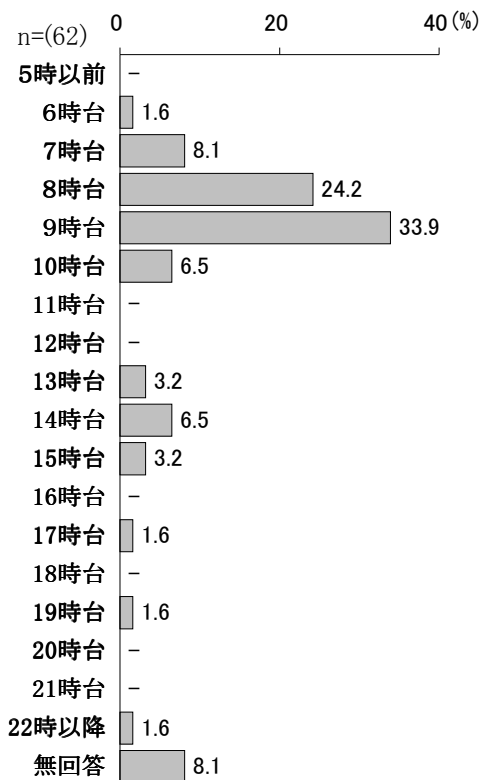
小規模な保育施設の利用希望時間については、開始時間は「8時台」が3割台後半、「9時台」が3割台前半、「7時台」が1割台半ばとなっている。終了時間は11時台以降各時間に利用希望が分散しており、「18時台」が3割台前半、「17時台」は2割台前半と多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

6. 家庭的保育

開始時間

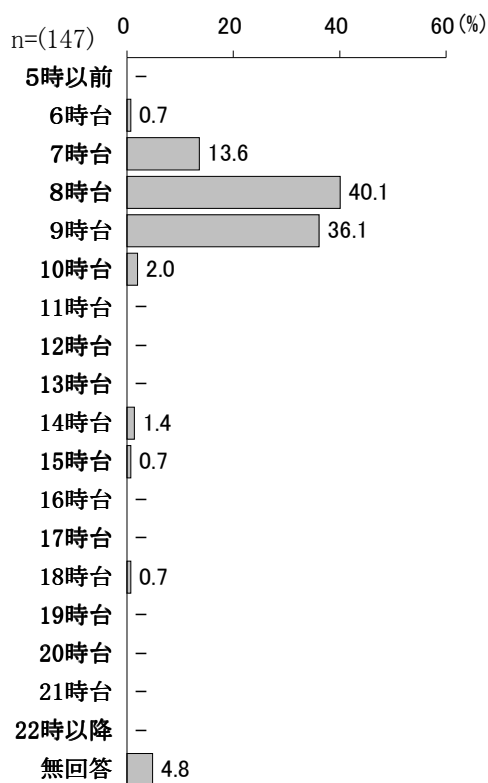
終了時間



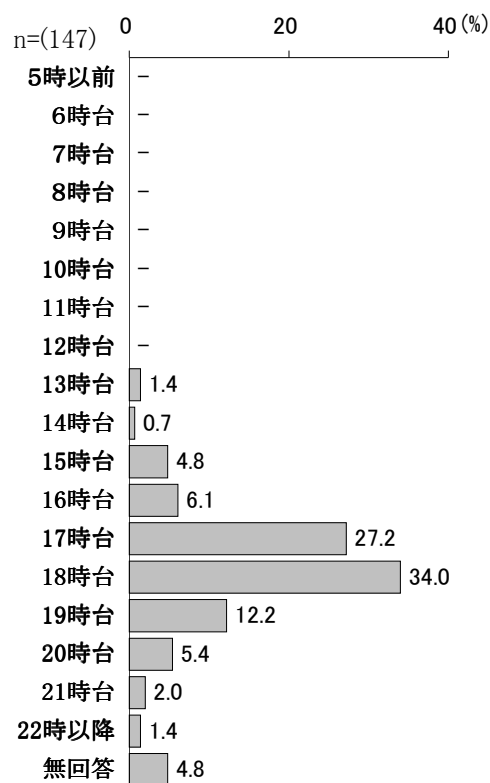
家庭的保育の利用希望時間については、開始時間は「9時台」が3割台前半、「8時台」が2割台前半で多いが、「6時台～9時台」「13時台～15時台」「17時台」「19時台」「22時以降」で分散している。終了時間は「17時台」が約3割、「18時台」が約2割で多いが、「12時台」「14時台～22時以降」で分散している。

7. 事業所内保育施設

開始時間



終了時間



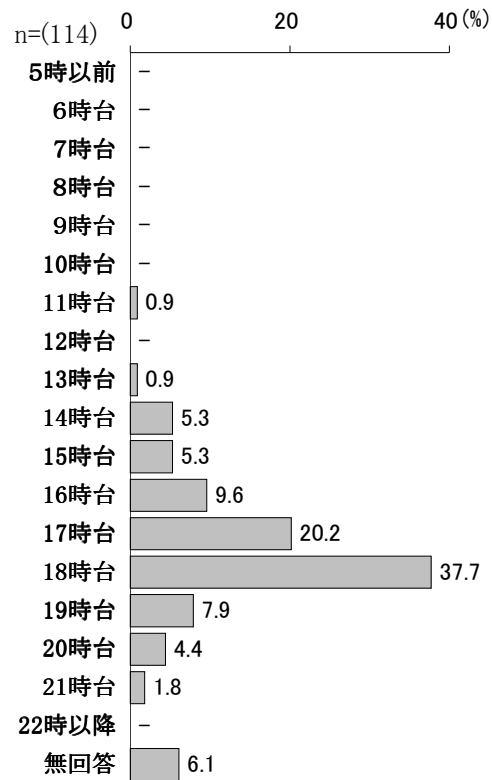
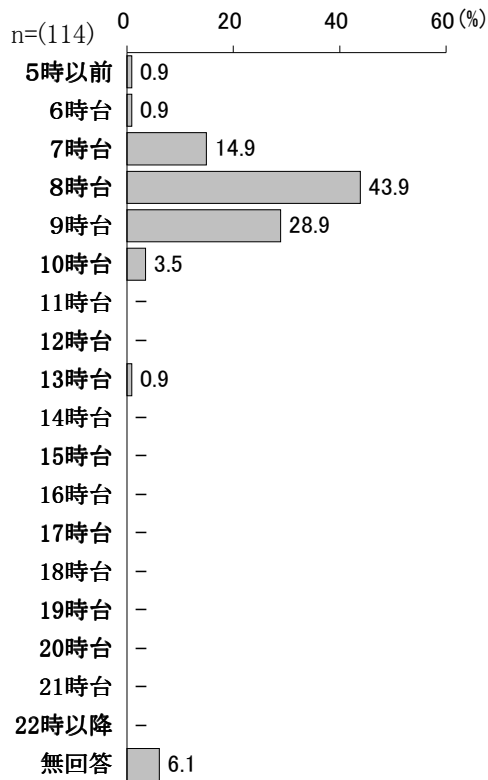
事業所内保育施設の利用希望時間については、開始時間は「8時台」が約4割、「9時台」が3割台後半、「7時台」が1割台前半となっている。終了時間は「18時台」が3割台前半、「17時台」が2割台後半で多いが、「13時台～22時以降」で利用希望時間は分散している。

第2章 調査結果の詳細

8. 自治体の認証・認定保育施設

開始時間

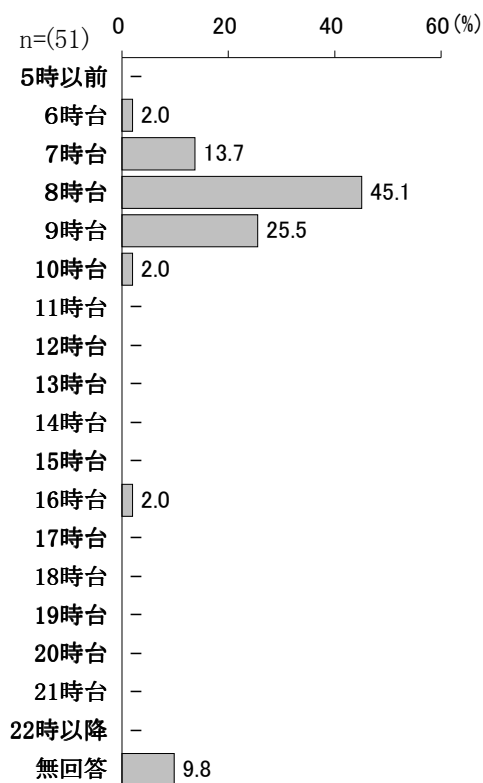
終了時間



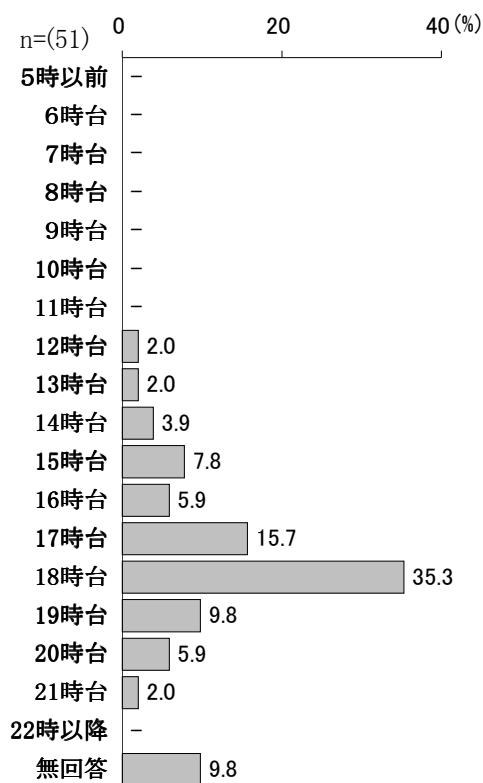
自治体の認証・認定保育施設の利用希望時間については、開始時間は「8時台」は4割前半、「9時台」が2割後半、「7時台」は1割前半となっている。終了時間は「18時台」が3割後半、「17時台」が約2割であるが、14時台以降利用希望時間は分散している。

9. その他の認可外の保育施設

開始時間



終了時間



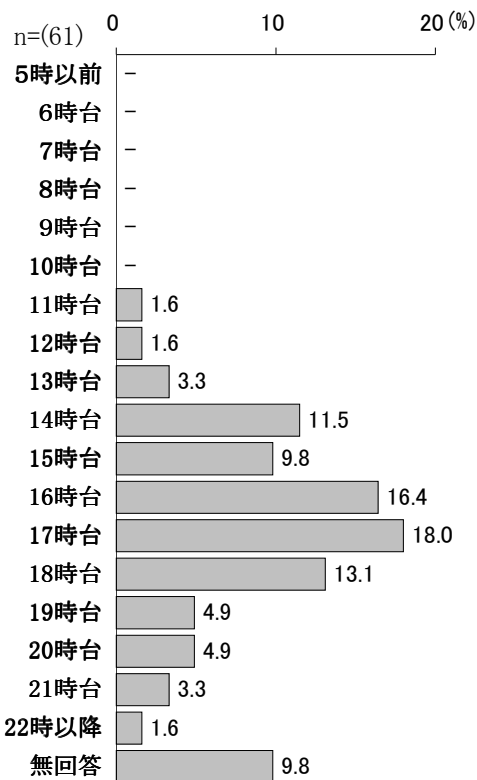
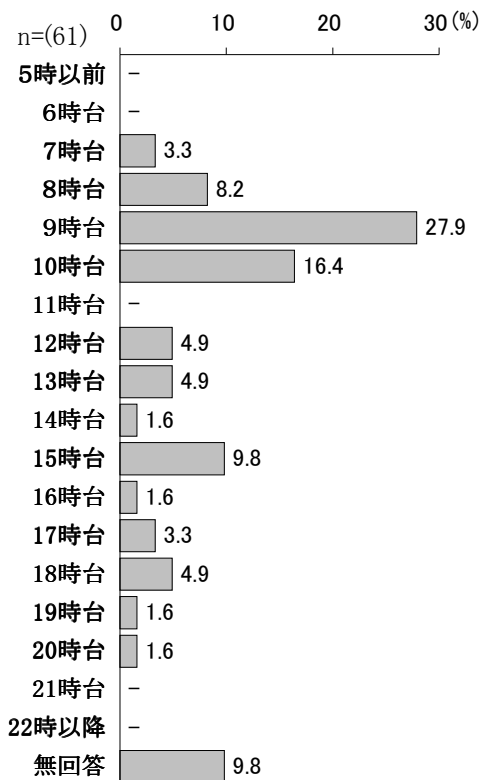
その他の認可外の保育施設の利用希望時間については、開始時間は「8時台」が4割台半ば、「9時台」が2割台半ば、「7時台」が1割台前半となっている。終了時間は「18時台」が3割台半ばで最も多く、「17時台」が1割台半ばとなっているが、「12時台～21時台」で分散している。

第2章 調査結果の詳細

10. 居宅訪問型保育

開始時間

終了時間

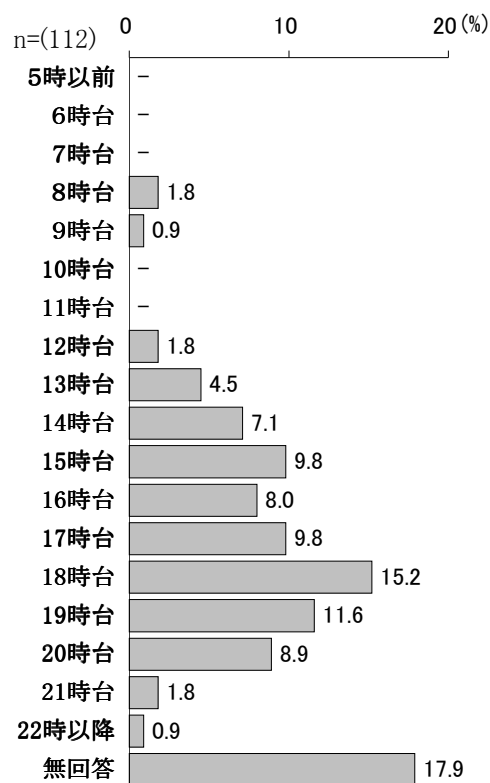
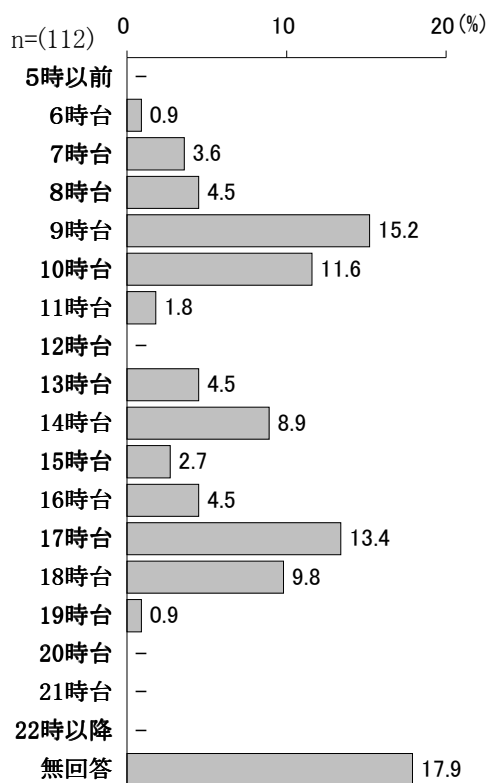


居宅訪問型保育の利用希望時間については、開始時間は「9時台」が2割台後半、「10時台」が1割台後半、「15時台」が約1割となっている。終了時間は「17時台」「16時台」が1割台後半、「18時台」「14時台」が1割台前半となっているが、「11時台～22時以降」で利用希望時間は分散している。

11. ファミリー・サポート・センター事業

開始時間

終了時間



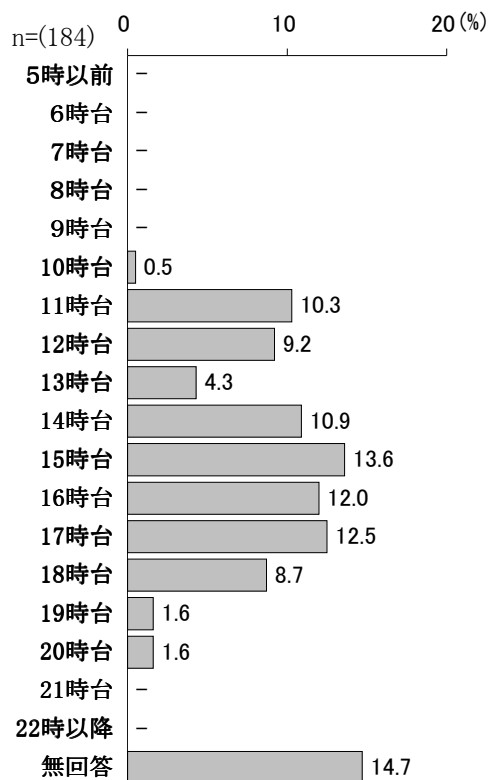
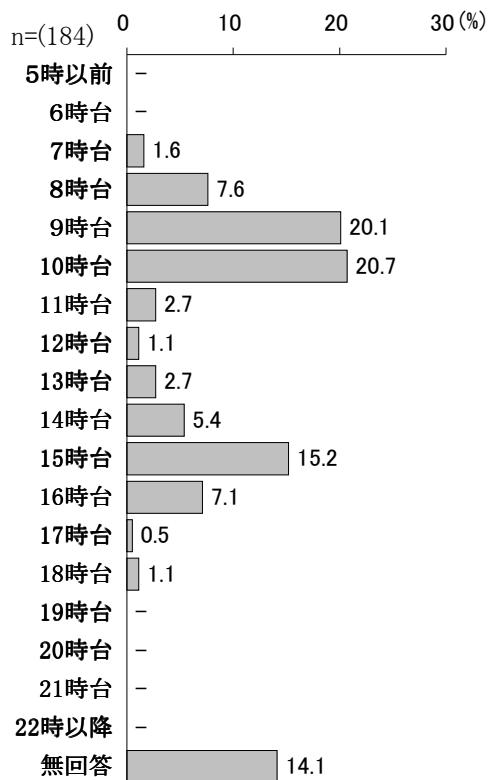
ファミリー・サポート・センター事業の利用希望時間については、開始時間は「6時台～11時台」、「13時台～19時台」で分散しており、午前では「9時台」が1割台半ば、「10時台」が1割台前半、午後では「17時台」が1割台前半、「18時台」が約1割となっている。終了時間についても「8時台」「9時台」「12時台～22時以降」で分散しており、「18時台」が1割台半ばで最も多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

12. 幼児教育施設

開始時間

終了時間

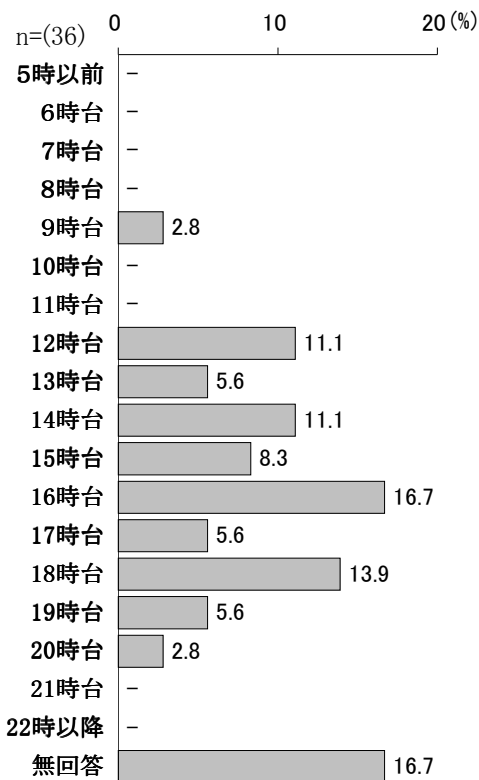
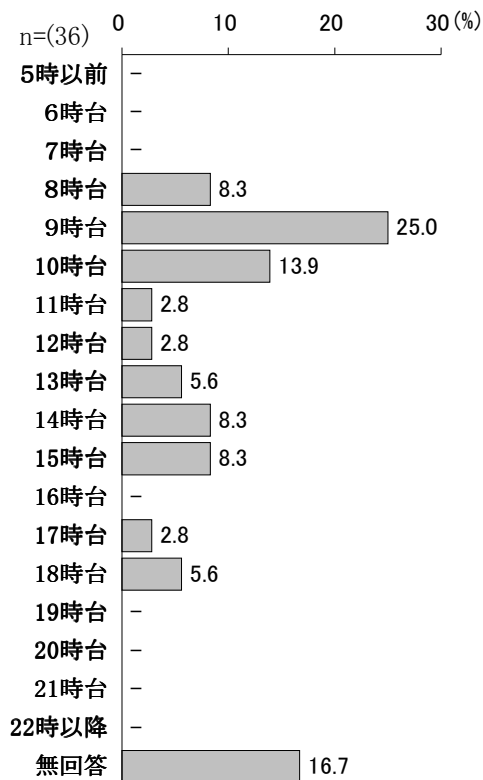


幼児教育施設の利用希望時間については、開始時間は午前では7時台～18時台で分散しており、午前は「10時台」と「9時台」が約2割、午後は「15時台」が1割台半ばとなっている。終了時間は、「10時台～20時台」で分散しており、午前は「11時台」「12時台」で約1割となっている。午後は「15時台～17時台」が1割台前半となっている。

13. その他

開始時間

終了時間



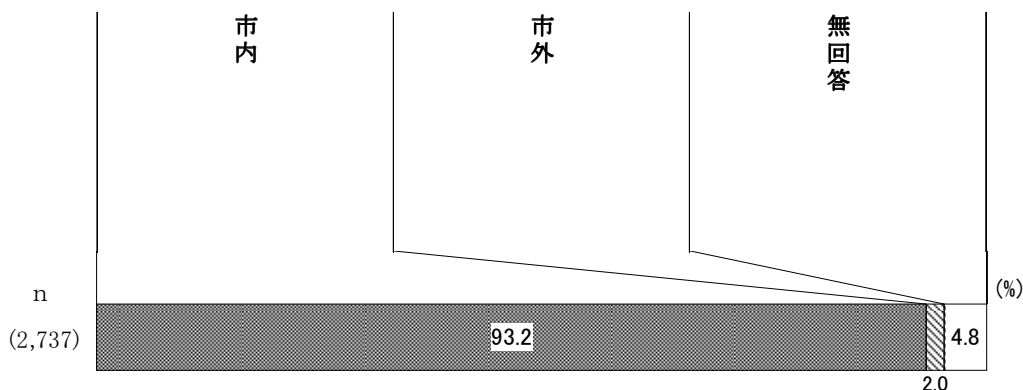
その他の教育・保育事業の利用希望時間については、開始時間は「8時台～18時台」で分散しており、「9時台」が2割台半ば、「10時台」が1割台前半となっている。終了時間は「9時台」「12時台～20時台」で分散しており、「16時台」が1割台後半、「18時台」「12時台」「14時台」が1割台前半となっている。

(7) 利用したい実施場所

問27【すべての方におたずねします】

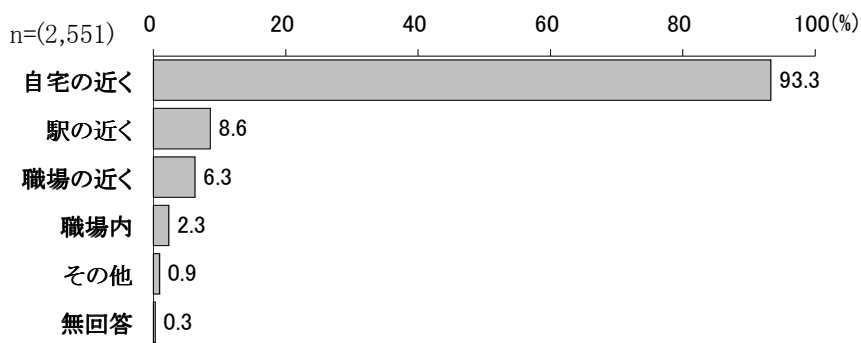
教育・保育事業を利用したい場所についておたずねします。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、該当する場所に☑をしてください。「市外」を選んだ場合は、実施場所の市町村名を記入してください。

■利用したい場所



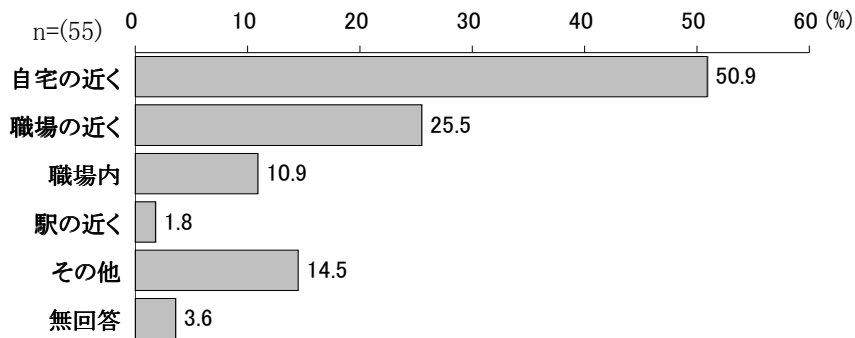
利用したい教育・保育事業の実施場所は、9割台前半が「市内」と回答している。

■具体的な場所（市内）



市内の具体的な場所は、「自宅の近く」が9割台前半と多い。

■具体的な場所（市外）



市外の具体的な場所は、「自宅の近く」が約5割、次いで「職場の近く」が2割台半ばとなっている。

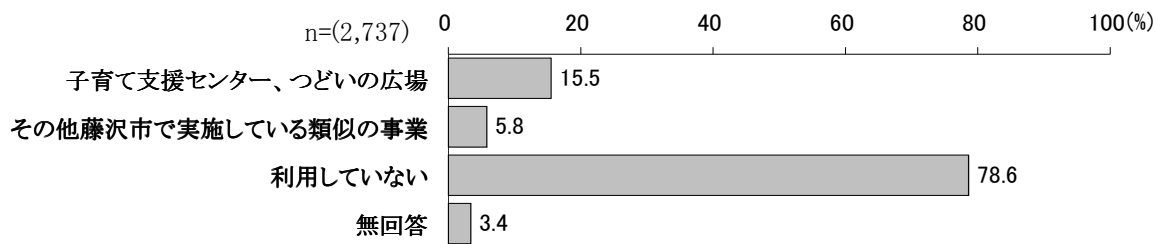
6. 地域の子育て支援事業の利用状況

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用の有無と利用回数

問28【すべての方におたずねします】

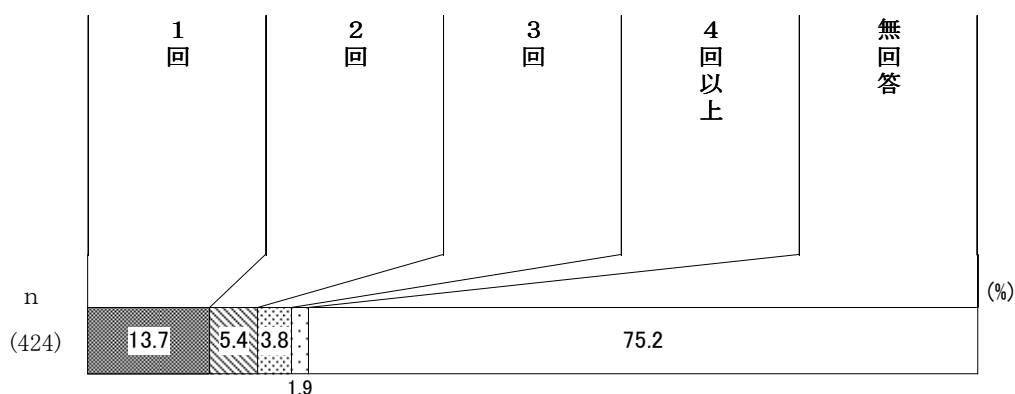
あて名のお子さんは、現在、「子育て支援センター」、「つどいの広場」等を利用していますか。次の中から利用されているものすべてに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）を口内に数字でご記入ください。

■利用状況



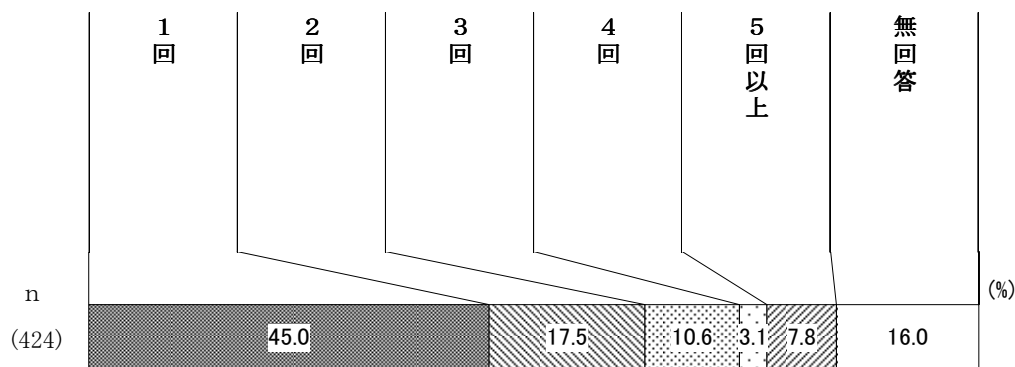
子育て支援センター、つどいの広場等の利用状況は、「子育て支援センター、つどいの広場」の利用が1割台半ばとなっている。一方、7割台後半が「利用していない」と回答している。

■子育て支援センター、つどいの広場の利用回数（1週当たり）



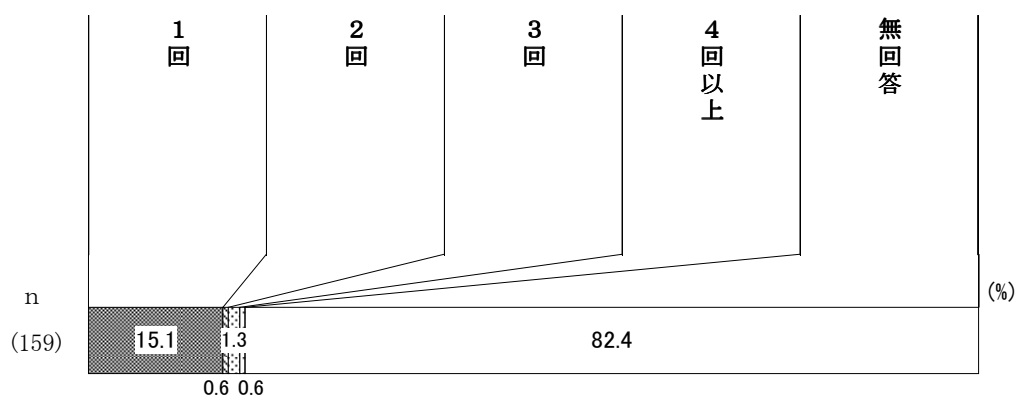
1週当たりの利用回数は、「1回」が1割台前半となっている。

■子育て支援センター、つどいの広場の利用回数（1ヶ月当たり）



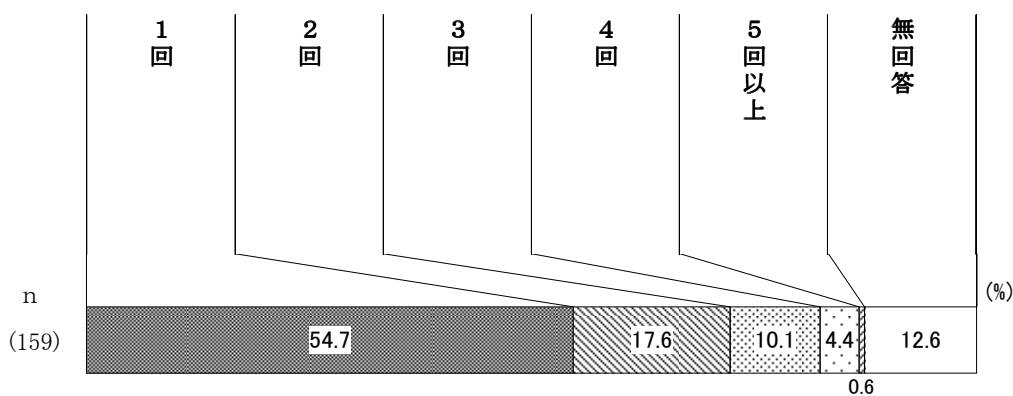
1ヶ月当たりの利用回数は、「1回」が4割台半ば、「2回」が1割台後半となっている。

■その他藤沢市で実施している類似事業の利用回数（1週当たり）



その他藤沢市で実施している類似事業の1週当たりの利用回数は、「1回」が1割台半ばとなっている。

■その他藤沢市で実施している類似事業の利用回数（1ヶ月当たり）

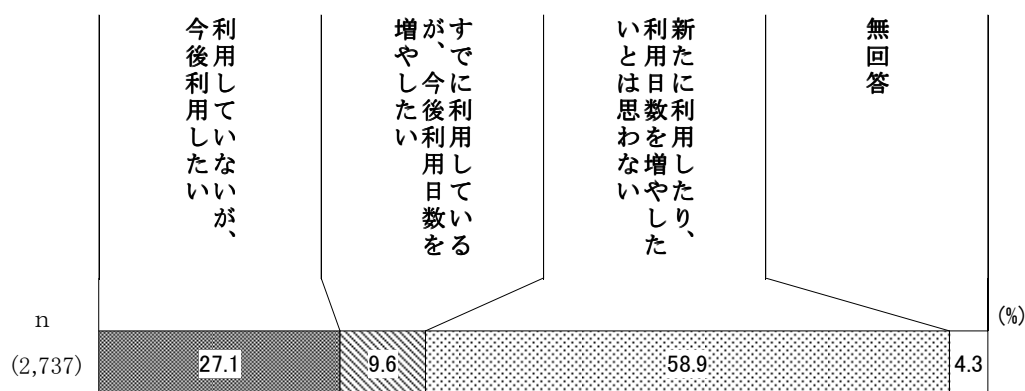


1ヶ月当たりの利用回数は、「1回」が5割台前半、「2回」が1割台後半となっている。

(2) 今後の利用希望、利用回数

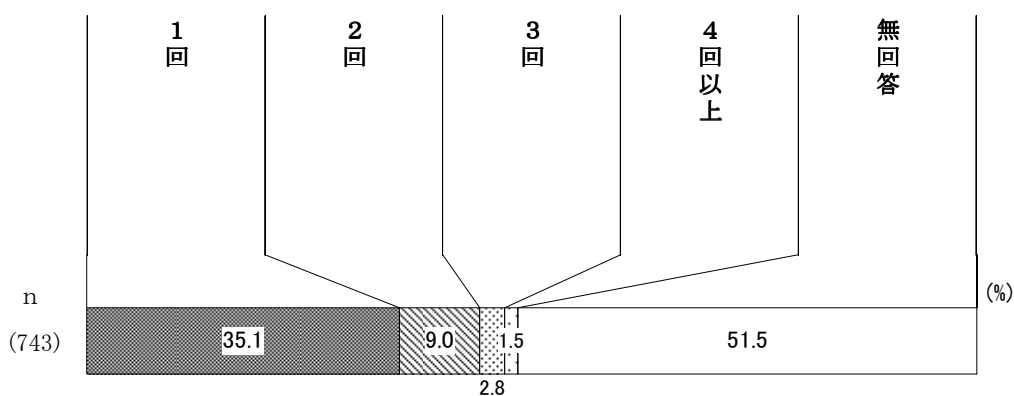
問29【すべての方におたずねします】

問28のような事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは利用日数を増やしたいと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけて、おおよその利用回数（頻度）を口内に数字でご記入ください。



今後の地域子育て支援事業の利用希望は、「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を合わせた「利用したい」は3割台後半となっている。一方、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は5割台後半となっている。

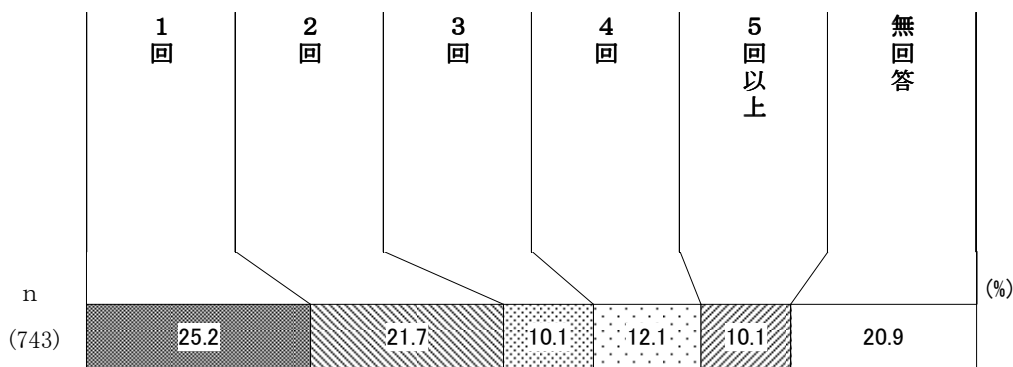
■今後利用したい回数（1週当たり）



利用していないが、今後利用したいと回答した方の利用したい希望回数は、1週当たり「1回」が3割台半ば、「2回」が1割未満となっている。

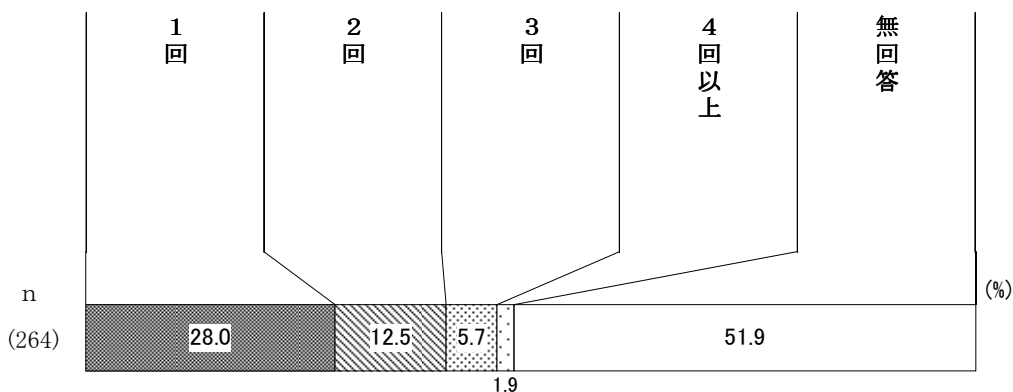
第2章 調査結果の詳細

■ 今後利用したい回数（1ヶ月当たり）



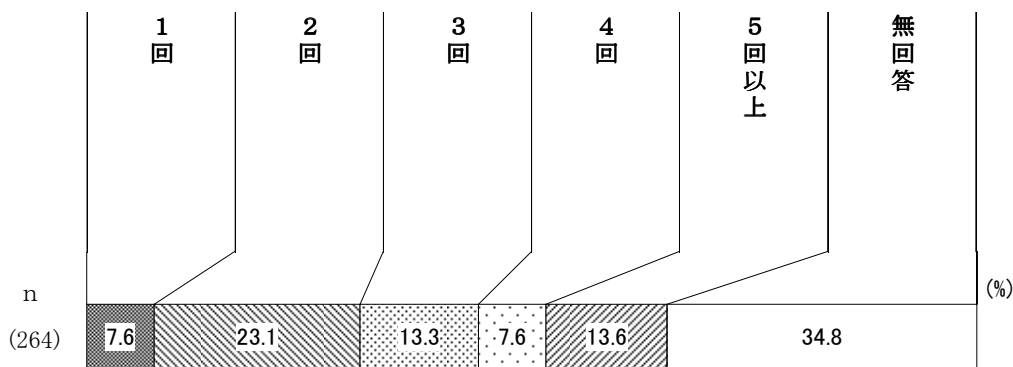
1ヶ月当たりでは、「1回」が2割台半ば、「2回」が2割台前半、「4回」「3回」「5回以上」が1割台前半で続いている。

■ 今後利用日数を増やしたい（1週当たり）



すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたいと回答した方の今後の利用回数は1週当たり、「1回」が2割台後半、「2回」が1割台前半となっている。

■ 今後利用日数を増やしたい（1ヶ月当たり）



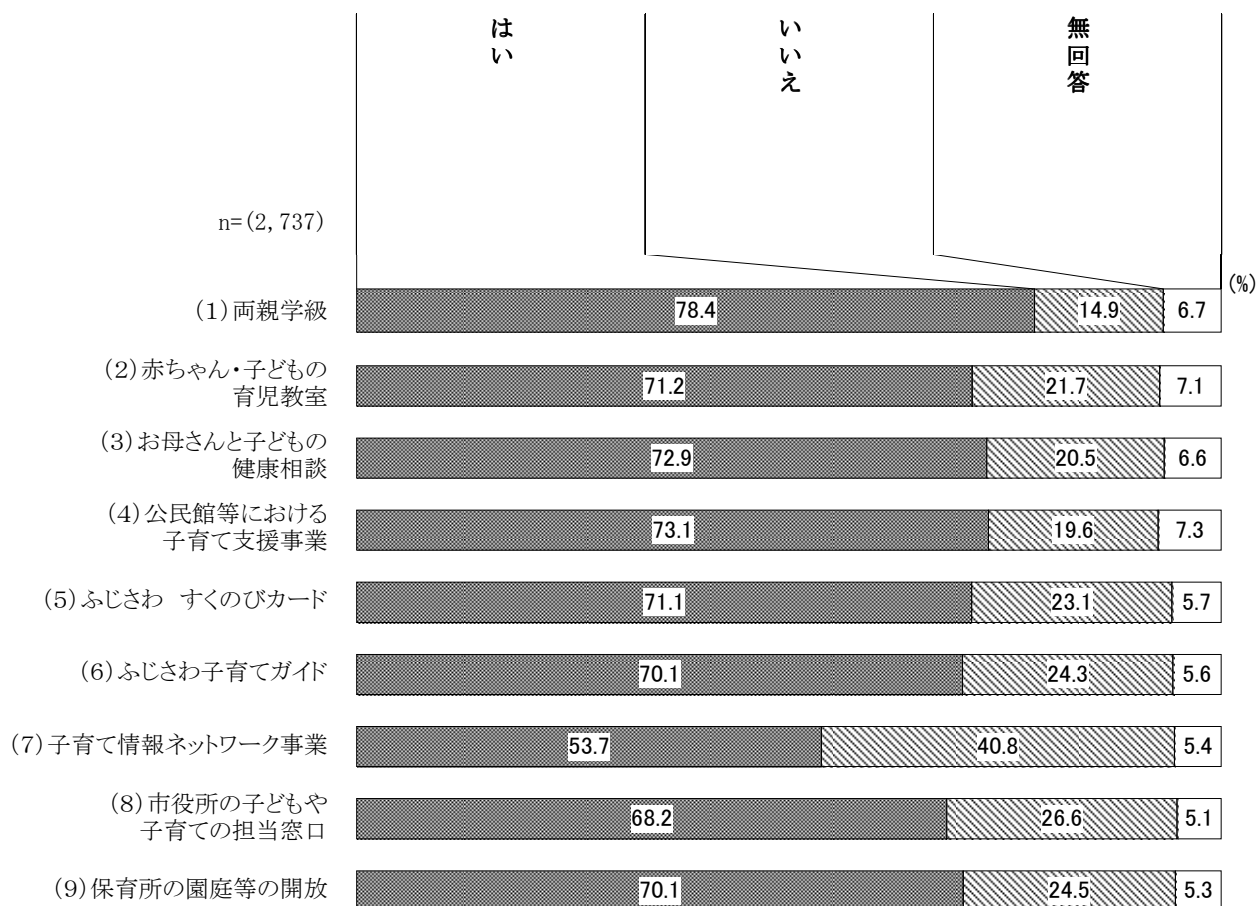
1ヶ月当たりでは、「2回」が2割台前半、「3回」「5回以上」が1割台前半となっている。

(3) 各種地域子育て支援事業の認知状況、利用状況、利用希望

問30【すべての方におたずねします】

本市では下記の事業を実施しています。知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。(1)～(9)の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

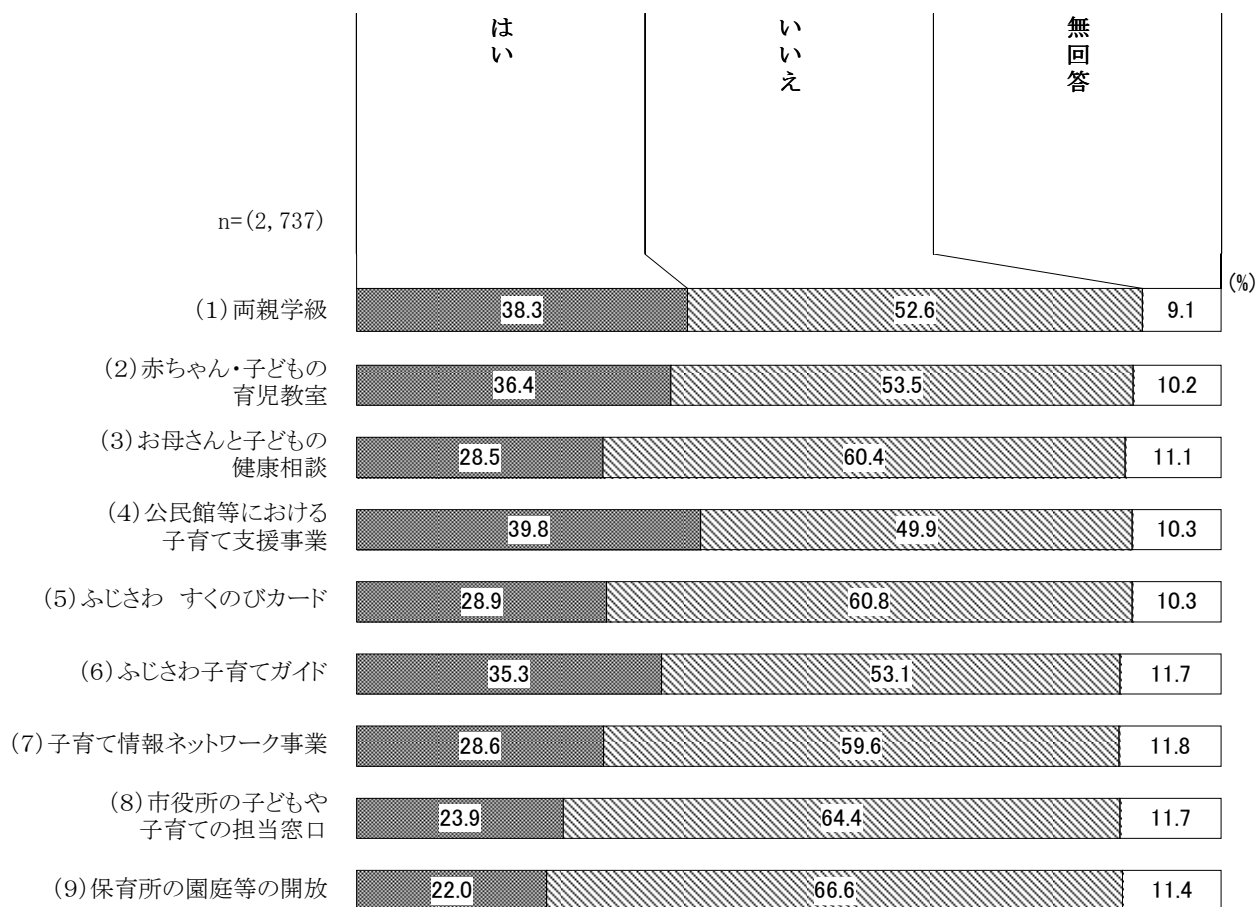
■事業の認知状況



各種地域子育て支援事業の認知状況は、子育て情報ネットワーク事業を除いたすべての事業で「はい」と回答した知っている人が6割台後半から7割台後半で割合が高く、特に両親学級は7割台後半と知っている割合が高い。

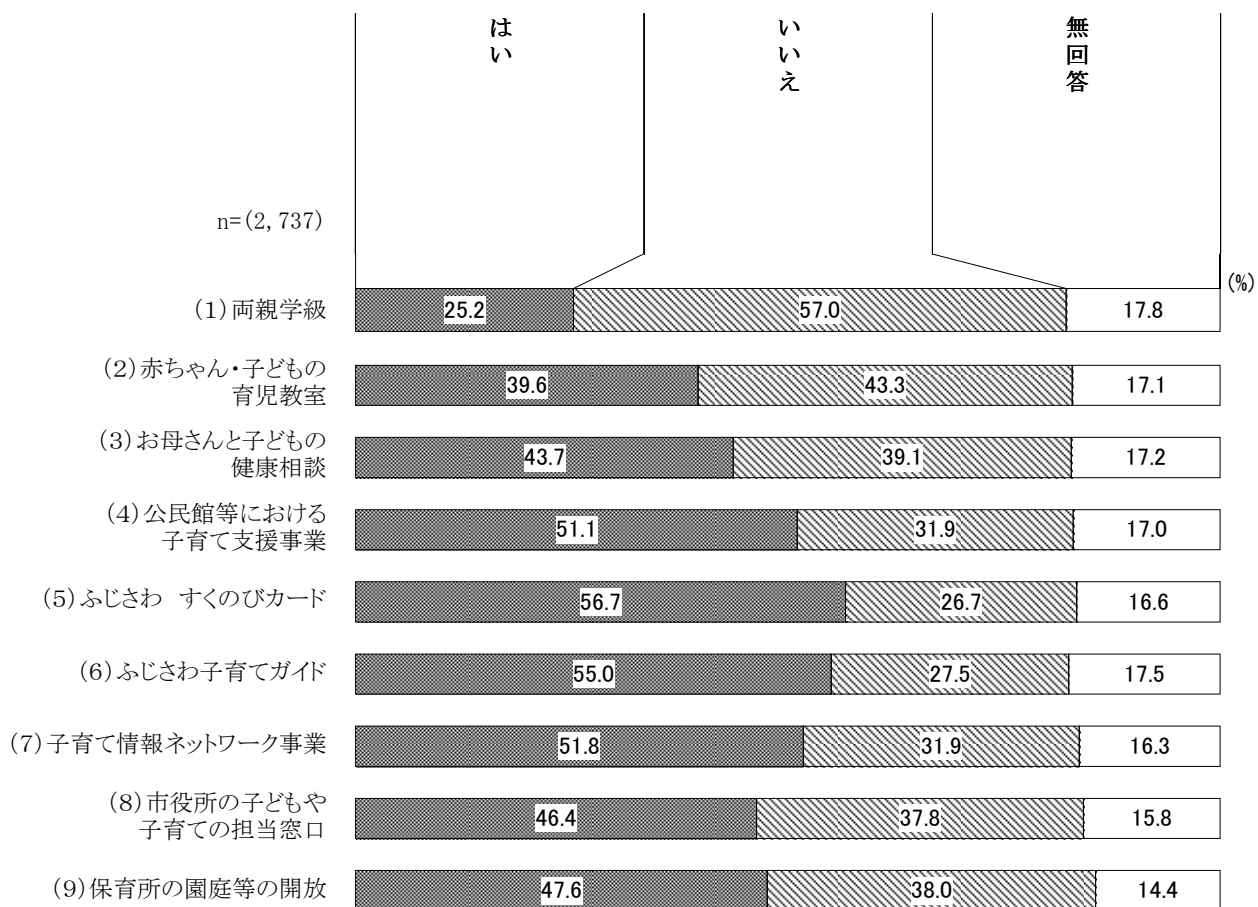
第2章 調査結果の詳細

■利用したことがある事業



今までに利用したことがある事業は、公民館等における子育て支援事業が約4割、ふじさわ子育てガイド、赤ちゃん・子どもの育児教室、両親学級が3割台前半～後半となっている。一方、「いいえ」と回答した利用したことがない人は、保育所の園庭等の開放、市役所の子どもや子育ての担当窓口が6割台前半～後半、ふじさわ すくのびカード、お母さんと子どもの健康相談が約6割となっている。

■ 今後利用したい事業



今後利用したい事業は、ふじさわ すくのびカード、ふじさわ子育てガイドが5割台半ば、子育て情報ネットワーク事業、公民館等における子育て支援事業が5割台前半となっている。

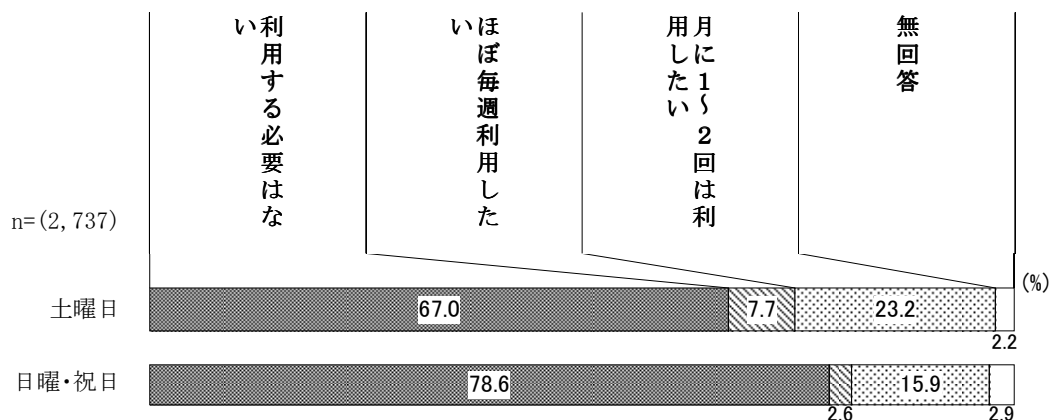
7. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日、日曜・祝日の利用希望と時間帯

問31【すべての方におたずねします】

あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。

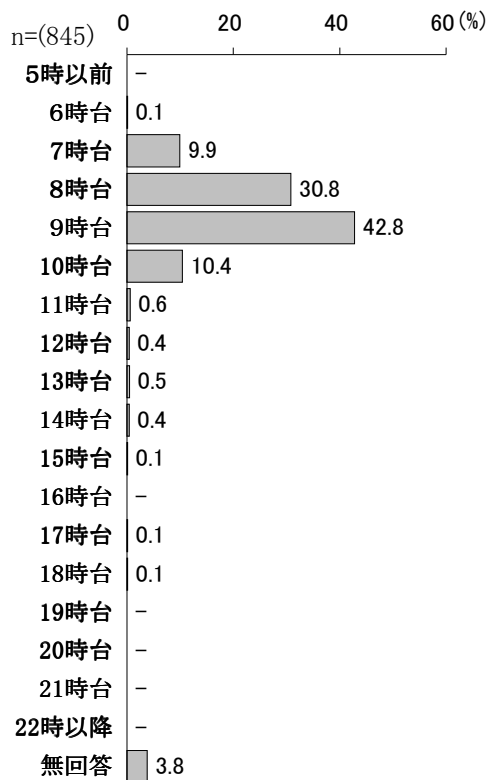
■利用希望



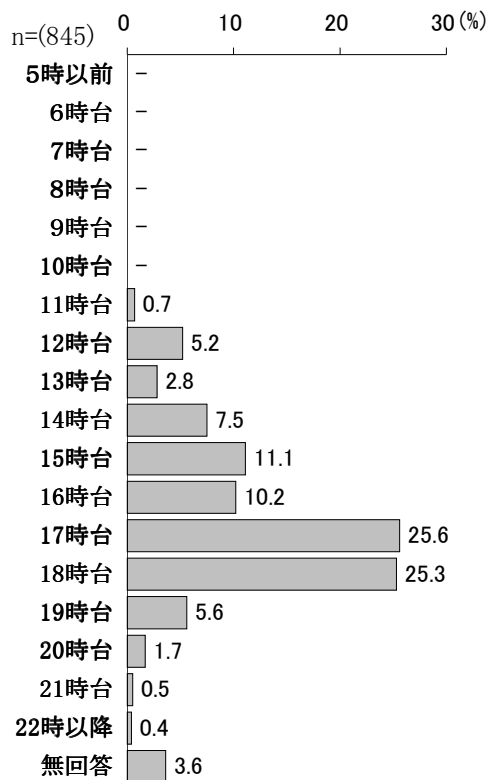
土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、土曜日は「月に1～2回は利用したい」と「ほぼ毎週利用したい」を合わせた「利用したい」は約3割、一方「利用する必要はない」は6割台後半となっている。日曜日・祝日も同様の回答で「利用したい」は1割台後半、「利用する必要はない」は7割台後半となっている。

■利用したい時間帯（土曜日）

希望開始時間



希望終了時間



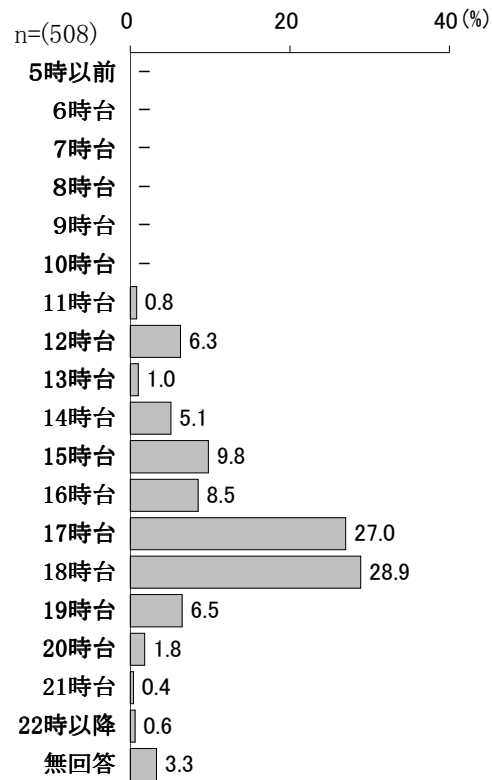
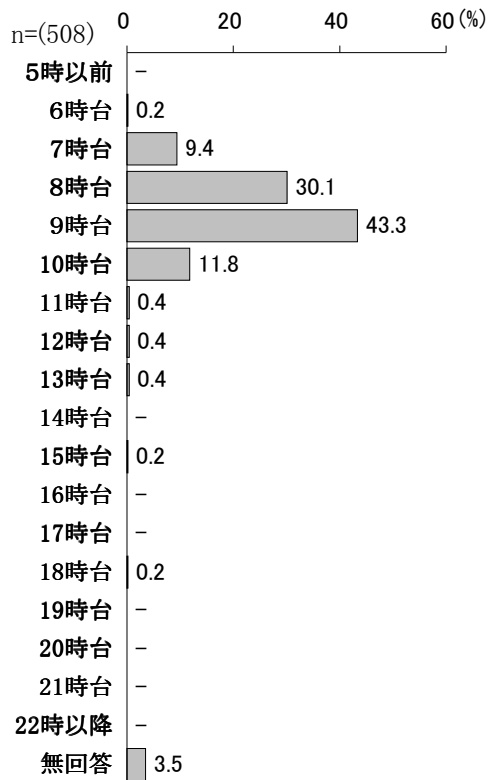
土曜日の利用希望開始時間は、「9時台」が4割前半、「8時台」が約3割、「10時台」が約1割となっている。終了時間は11時台～22時以降に分散しており、「17時台」「18時台」が2割台半ば、「15時台」「16時台」が1割前後となっている。

第2章 調査結果の詳細

■利用したい時間帯（日曜・祝日）

希望開始時間

希望終了時間

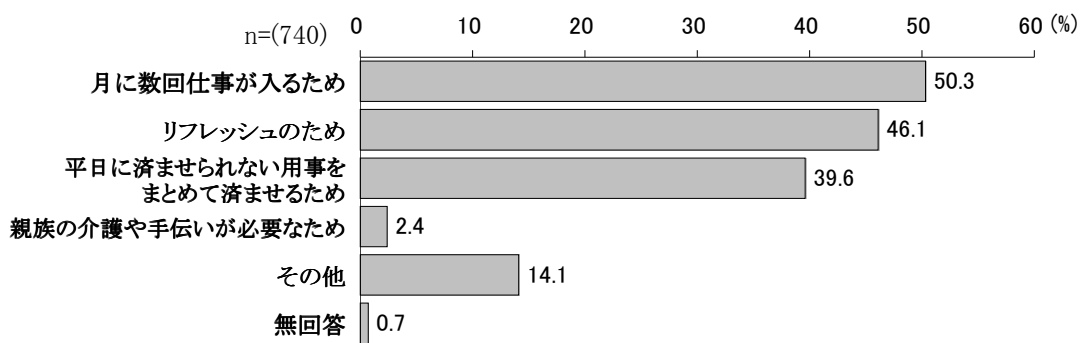


日曜日・祝日の利用希望開始時間は、「9時台」が4割台前半、「8時台」が約3割、「10時台」が1割台前半となっている。終了時間は「11時台～22時以降」に分散しており、「18時台」「17時台」が2割台後半となっている。

(2) たまに利用したい理由

問32【問31の(1)もしくは(2)で「3. 月に1～2回は利用したい」に○をつけた方におたずねします】

毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

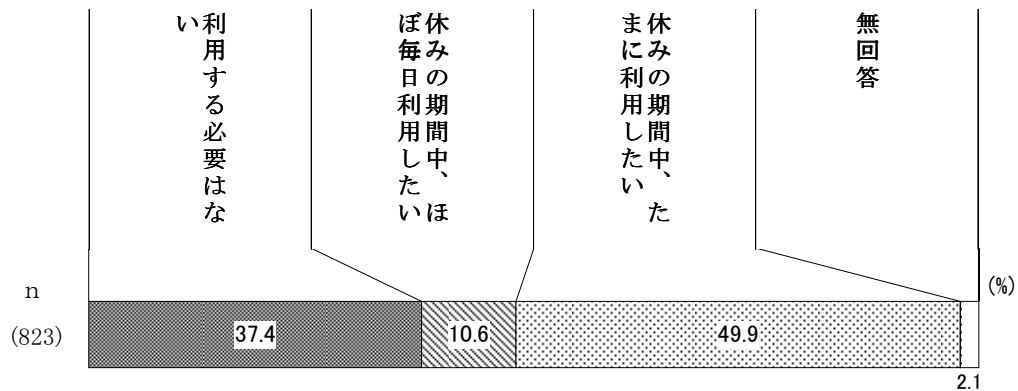


教育・保育事業を「月に1～2回は利用したい」と回答した方の理由は、「月に数回仕事が入るため」が約5割、次いで「リフレッシュのため」が4割台後半、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が約4割となっている。

(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望【幼稚園利用者】

問33 【「幼稚園」を利用している方におたずねします】

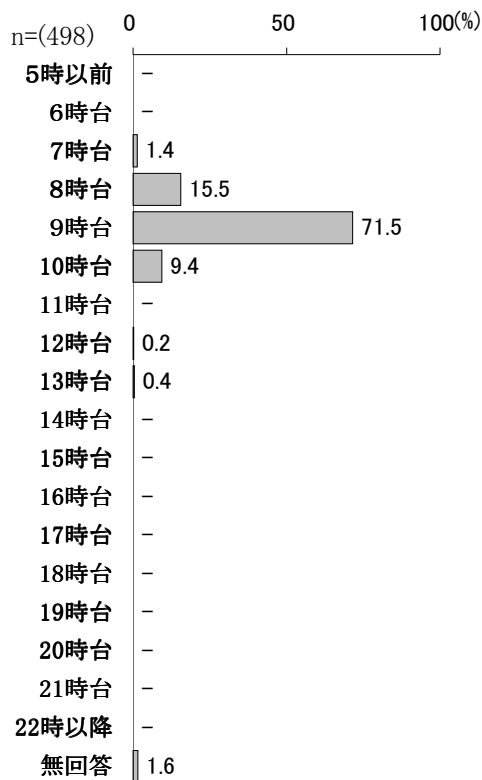
あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例) 09時～18時のように24時間制でご記入ください。



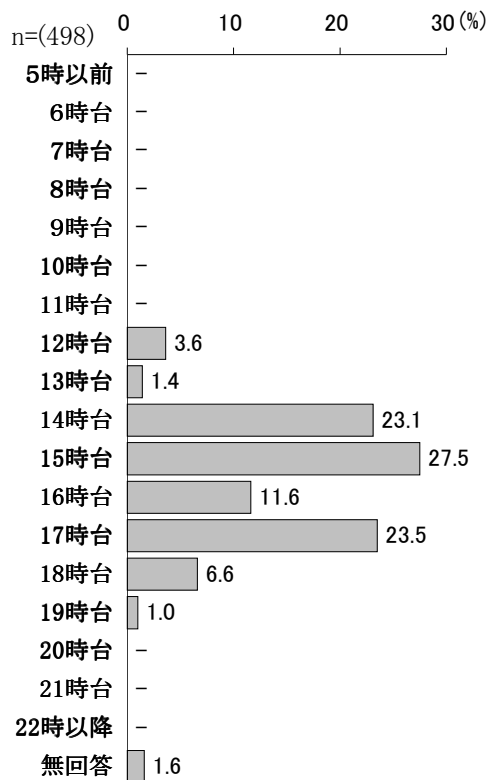
幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望については、「休みの期間中、たまに利用したい」「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」を合わせた「利用したい」は約6割と多い。一方、「利用する必要はない」は3割台後半となっている。

■利用したい時間帯

希望開始時間



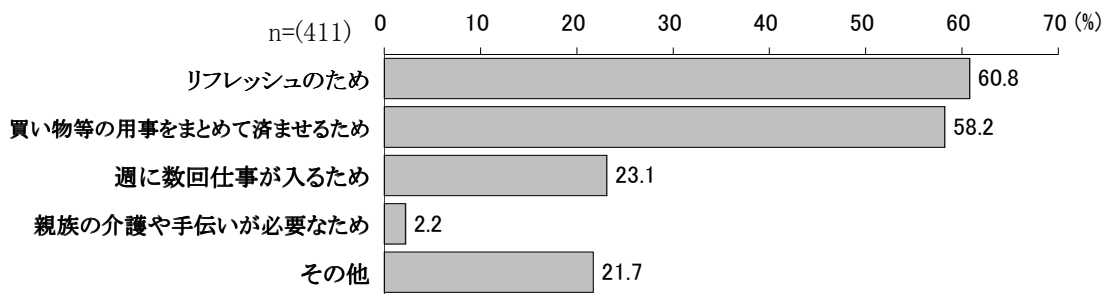
希望終了時間



幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望時間については、開始時間は「9時台」が7割前半、「8時台」が1割台半ばとなっている。終了時間は、「12時台～19時台」に分散しており、「15時台」が2割前半、「17時台」「14時台」が2割前半となっている。

(4) 長期休暇期間中の教育・保育事業の非定期的な利用希望【幼稚園利用者】

問34【問33で「3. 休みの期間中、たまに利用したい」と答えた方におたずねします。】
毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



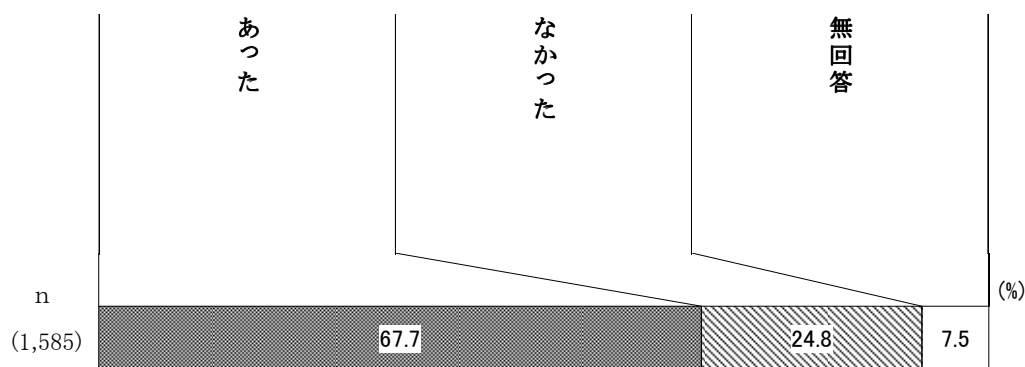
幼稚園利用者の教育・保育事業を「休みの期間中、たまに利用したい」と回答した方の理由は、「リフレッシュのため」が約6割、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が5割台後半、「週に数回仕事が入るため」が2割台前半となっている。

8. 病気の際の対応

(1) この1年間に病気やケガで通常の事業利用ができなかったことの有無

問35【問21で平日の定期的な教育・保育の事業を「1. 利用している」と答えた方におたずねします】利用していないと答えた方は、問42にお進みください。

この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

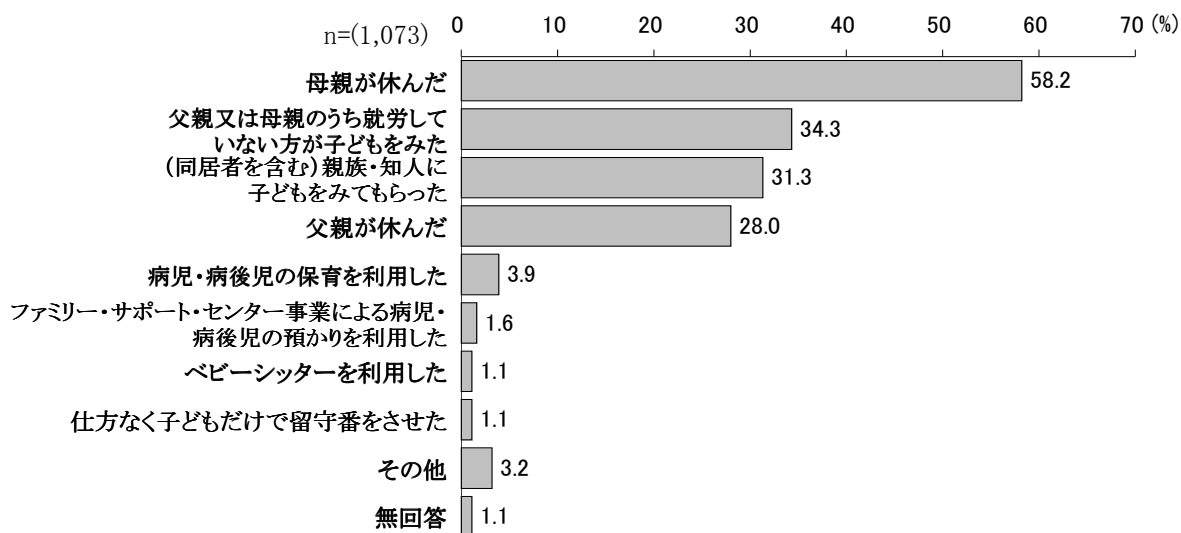


この1年間に病気やケガで通常の事業利用ができなかったことの有無は、「あった」が6割台後半、「なかった」が2割台前半となっている。

(2) その際の対処方法と日数

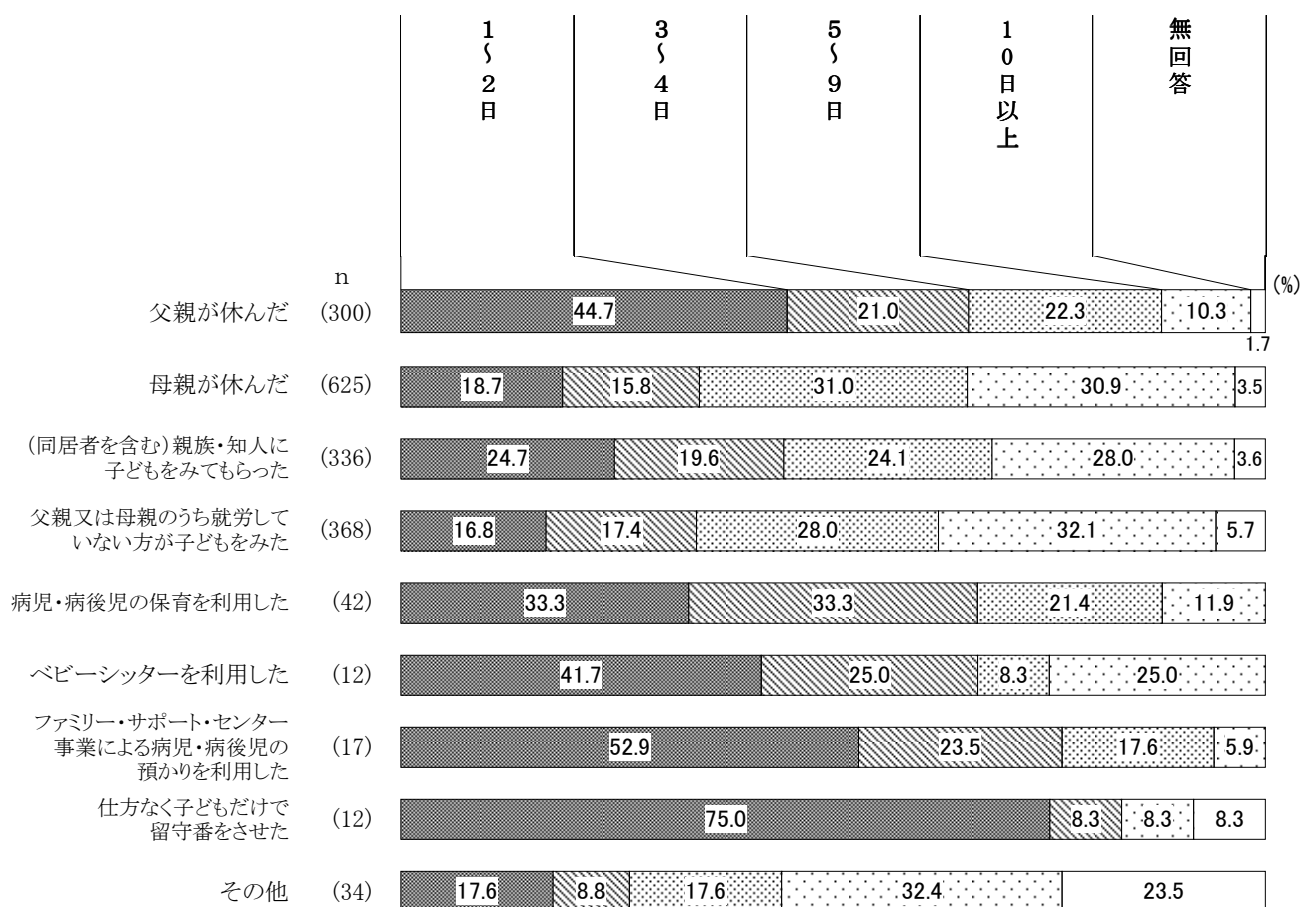
問36【問35で「1. あった」と答えた方におたずねします】

あて名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数も口内に数字でご記入ください（半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください）。



病気やケガで通常の事業利用ができなかったことが「あった」と回答した方の対処方法は、母親が休んだは5割台後半、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた、(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらったが3割台前半、父親が休んだが2割台後半となっている。

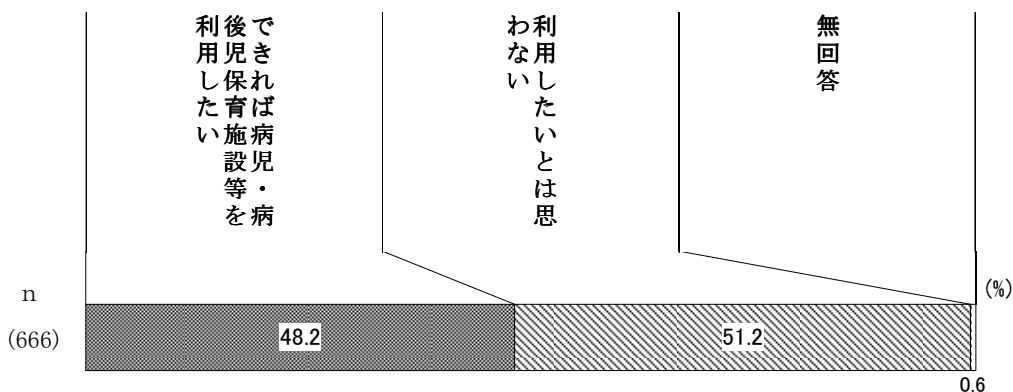
■ 対処方法別日数



対処方法別の対処日数については、「1～2日」は父親が休んだが4割台前半、(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらったが2割台前半、母親が休んだ、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみたが1割台後半となっている。「3～4日」は父親が休んだが2割台前半、(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらったが約2割となっている。「5～9日」は母親が休んだが、3割台前半、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみたが2割台後半となっている。「10日以上」は父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみたが3割台前半、母親が休んだが約3割となっている。

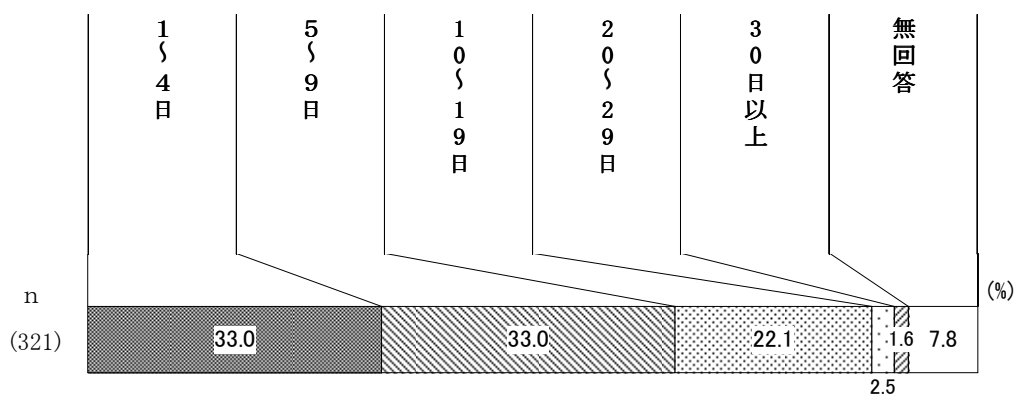
(3) 父母が休んで対処した場合の「病児・病後児保育施設」の利用希望の有無

問37【問36で「ア. 父親が休んだ」もしくは「イ. 母親が休んだ」のいずれかに回答した方におたずねします】
 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。
 当てはまる番号1つに○をつけ、日数についても□内に数字でご記入ください。



子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できず、父親が休んだ、もしくは母親が休んだと回答した方の病児・病後児等保育施設等の利用希望については、「できれば病児・病後児等保育施設等を利用したい」が4割台後半、一方「利用したいとは思わない」が5割台前半となっており、差はほとんどない。

■利用希望日数（1年間当たり）

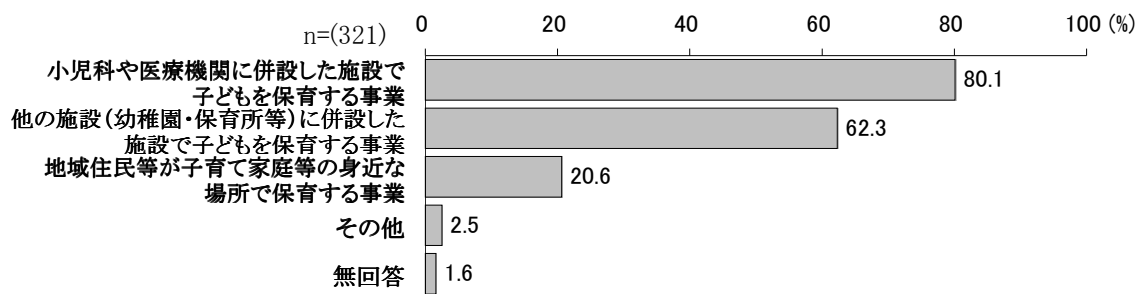


1年間の利用希望日数は、「1～4日」「5～9日」がともに3割台前半、次いで「10～19日」が2割台前半となっている。

(4) 望ましい事業形態

問38【問37で「1. できれば病児・病後児等保育施設等を利用したい」に○をつけた方におたずねします】

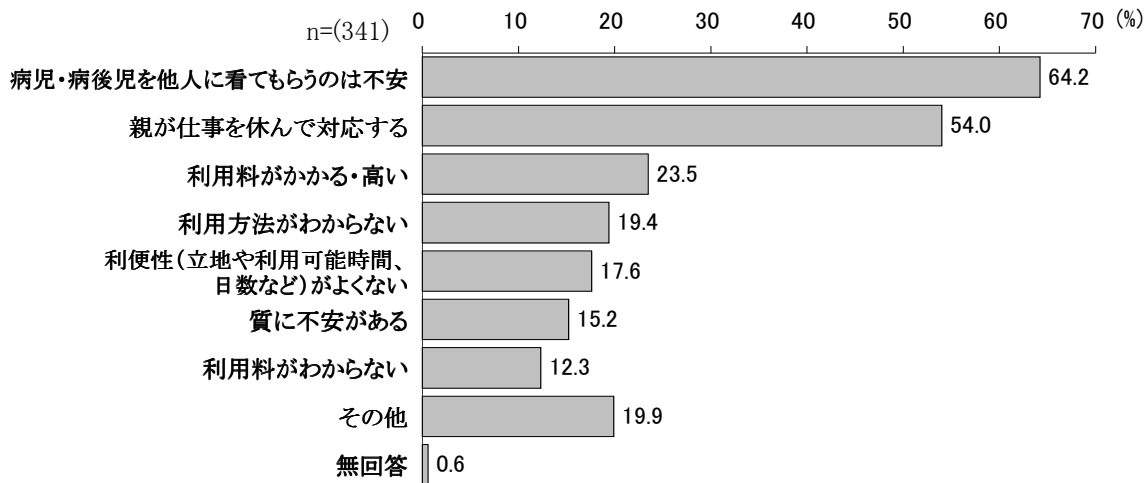
上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



できれば病児・病後児等保育施設等を利用したいと回答した方が望む事業形態は、「小児科や医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業」が約8割、「他の施設(幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業」が6割台前半、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業(ファミリー・サポート・センター事業等)」が約2割となっている。

(5) 利用したいと思わない理由

問39【問37で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方におたずねします】
 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

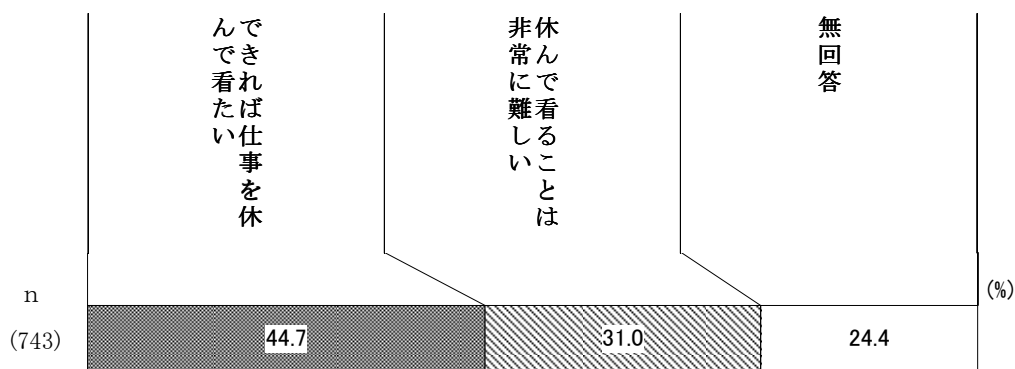


病児・病後児等保育施設等を利用したいとは思わないと回答した方の理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が6割台前半、次いで「親が仕事を休んで対応する」が5割台前半、「利用料がかかる・高い」が2割台前半となっている。

(6) 父母が仕事を休んで看たいと思ったか、看たい日数

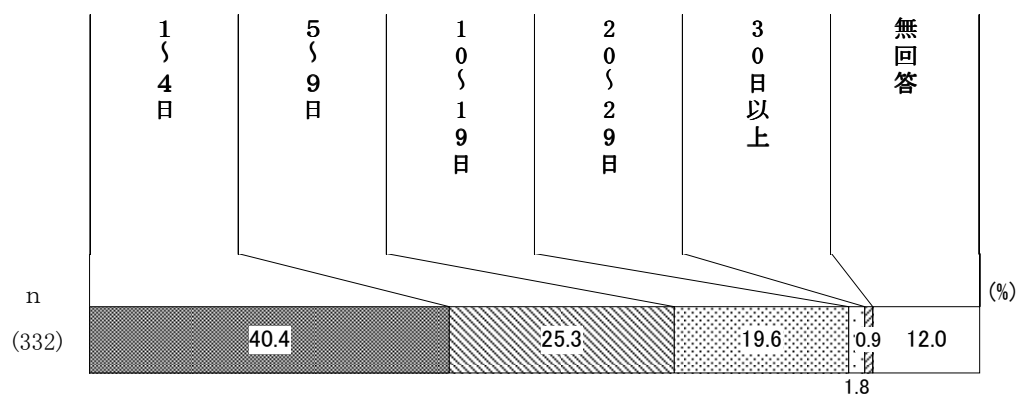
問40【問36で「ウ」から「ケ」のいずれかに○をつけた方におたずねします】

その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、「ウ」から「ケ」の日数のうち仕事を休んで見たかった日数についても数字でご記入ください。



子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できず、父母以外に看てもらった時に、父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったかは、「できれば仕事を休んで看たい」が4割台前半、一方「休んで見ることは非常に難しい」は3割台前半となっている。

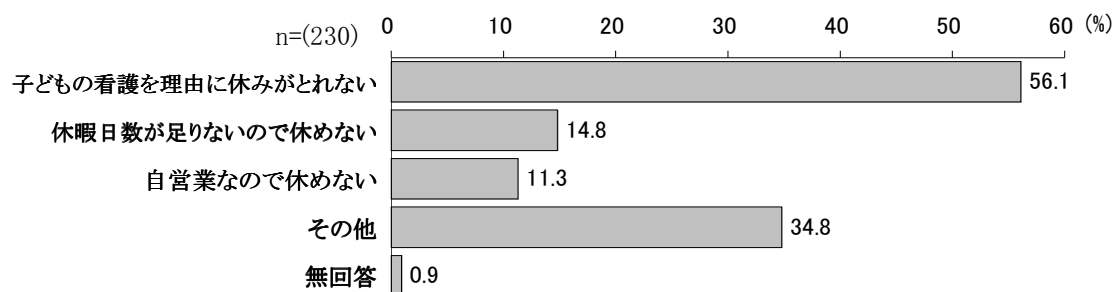
■仕事を休んで看たい日数（1年間当たり）



仕事を休んで見たかった日数については、「1～4日」が約4割と最も多く、次いで「5～9日」が2割台半ば、「10～19日」が約2割となっている。

(7) 仕事を休んで看ることが難しい理由

問41【問40で「2. 休んで看ことは非常に難しい」に○をつけた方におたずねします】
そう思われる理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



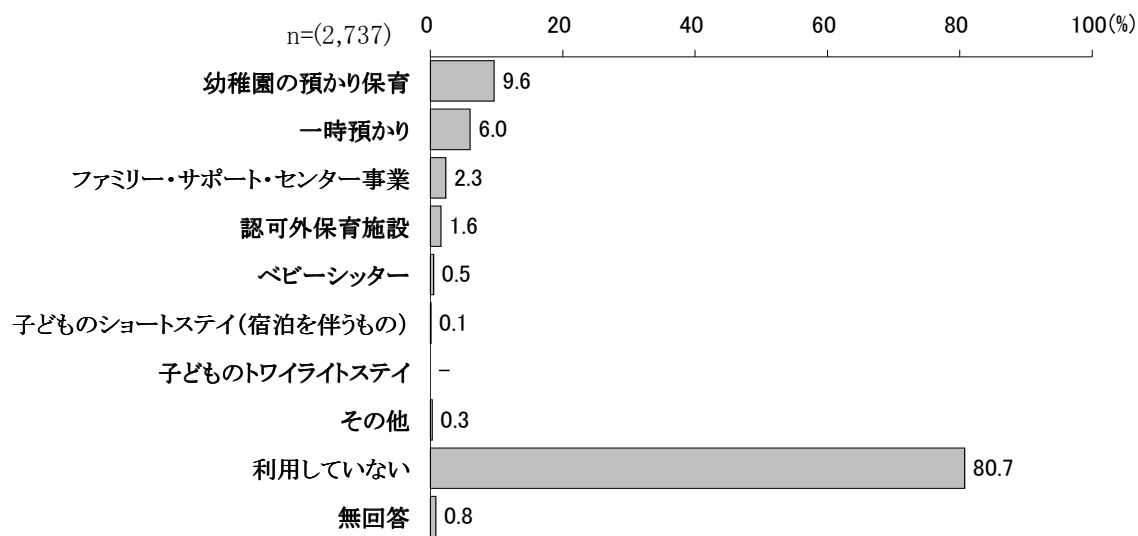
休んで看ことは非常に難しいと回答した方の理由は、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が5割台半ばと最も多い。

9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業と日数

問42【すべての方におたずねします】

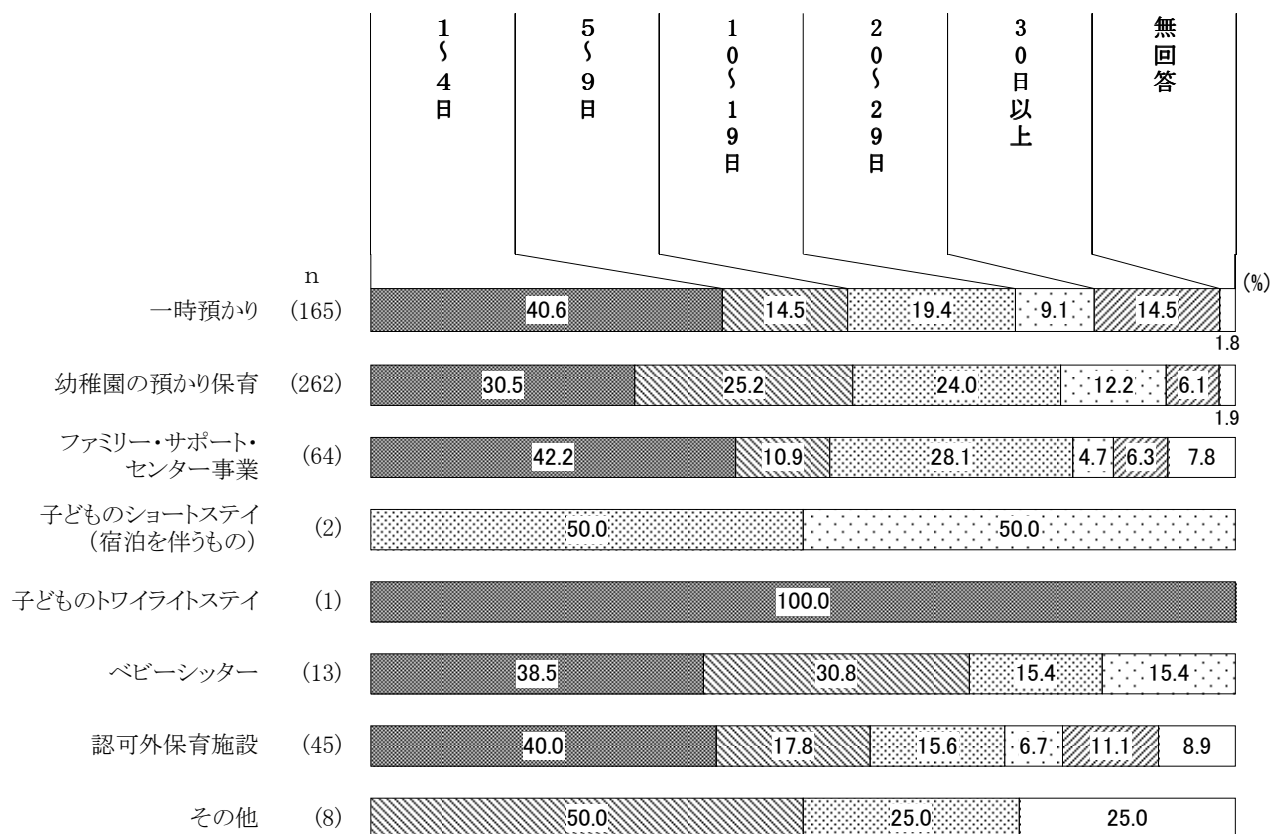
あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、保護者の用事（私用、親の通院、不定期の就労等）の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）も口内に数字でご記入ください。



保護者の用事（私用、親の通院、不定期の就労等）の目的で不定期に利用している事業については、「幼稚園の預かり保育」が約1割、「一時預かり」や他の事業は1割未満となっている。一方、約8割が「利用していない」と回答している。

第2章 調査結果の詳細

■利用日数（1年間当たり）

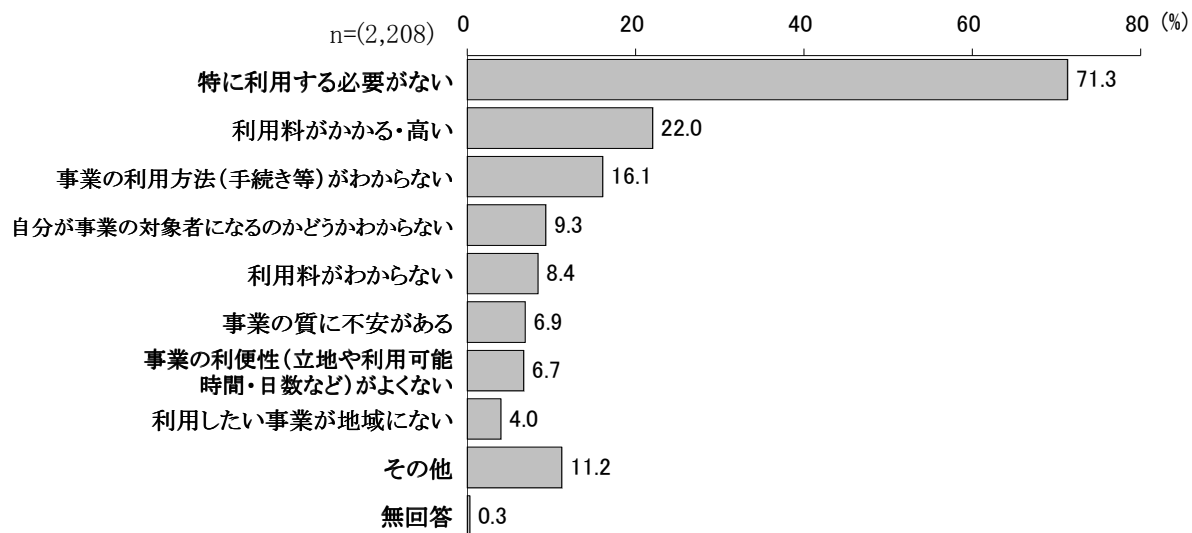


1年間の利用日数については、「1～4日」はファミリー・サポート・センター事業が4割前半、一時預かり、認可外保育施設が約4割、幼稚園の預かり保育が約3割となっている。「5～9日」は幼稚園の預かり保育が2割台半ば、「10～19日」はファミリー・サポート・センター事業が2割後半、幼稚園の預かり保育が2割前半となっている。

(2) 利用していない理由

問43【問42で「9. 利用していない」と回答した方におたずねします】

現在利用していない理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



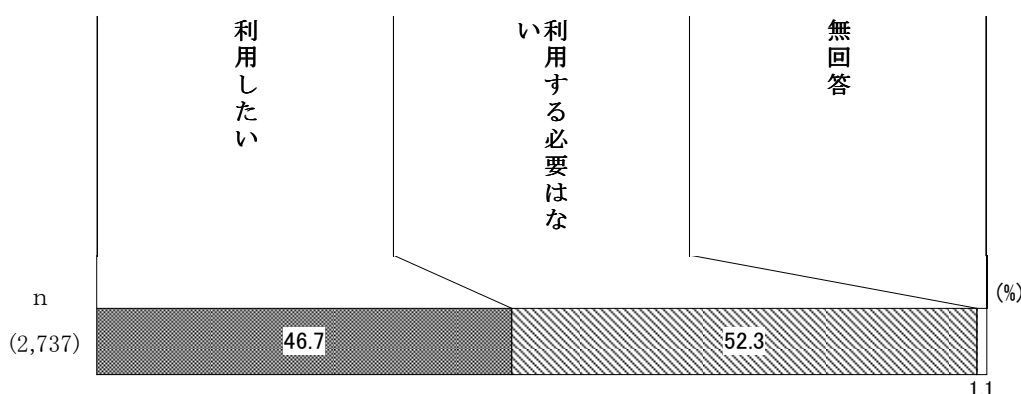
現在利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が7割台前半で最も多く、「利用料がかかる・高い」が2割台前半、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が1割台後半となっている。

(3) 今後の利用希望と利用希望日数

問44【すべての方におたずねします】

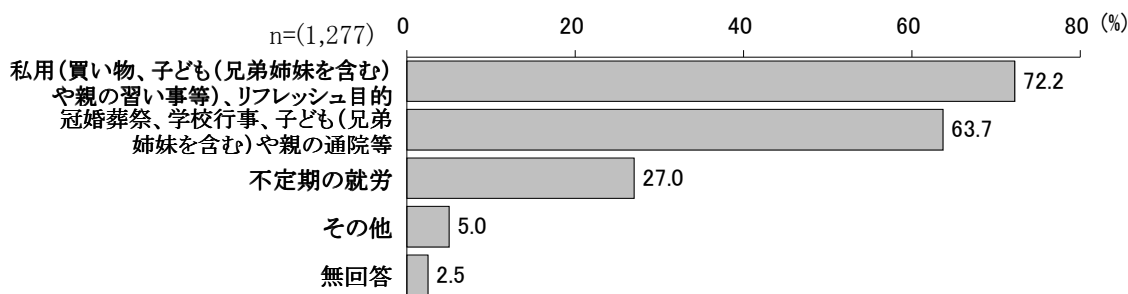
あて名のお子さんについて、保護者の用事（私用、親の通院、不定期の就労等）の目的で、不定期の保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の事業を年間何日くらい利用する必要があると思いますか。利用希望について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください。（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を口内に数字でご記入ください）。

■利用希望



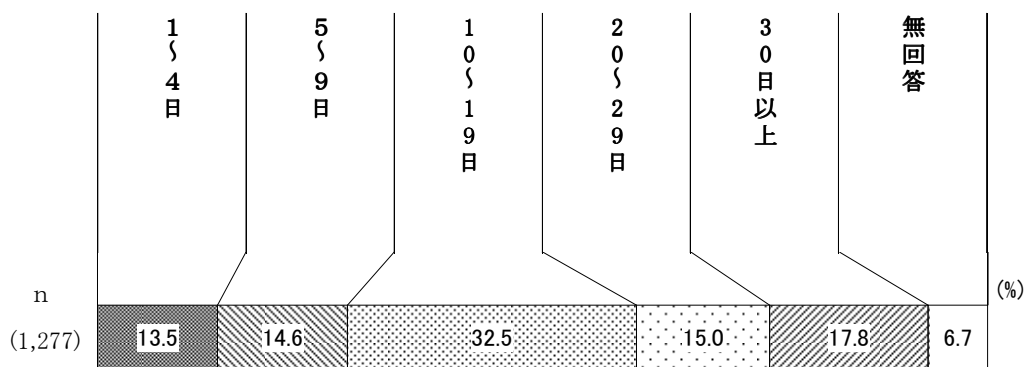
今後の利用希望については、「利用したい」が4割台後半、5割台前半が「利用する必要はない」と回答している。

■利用目的



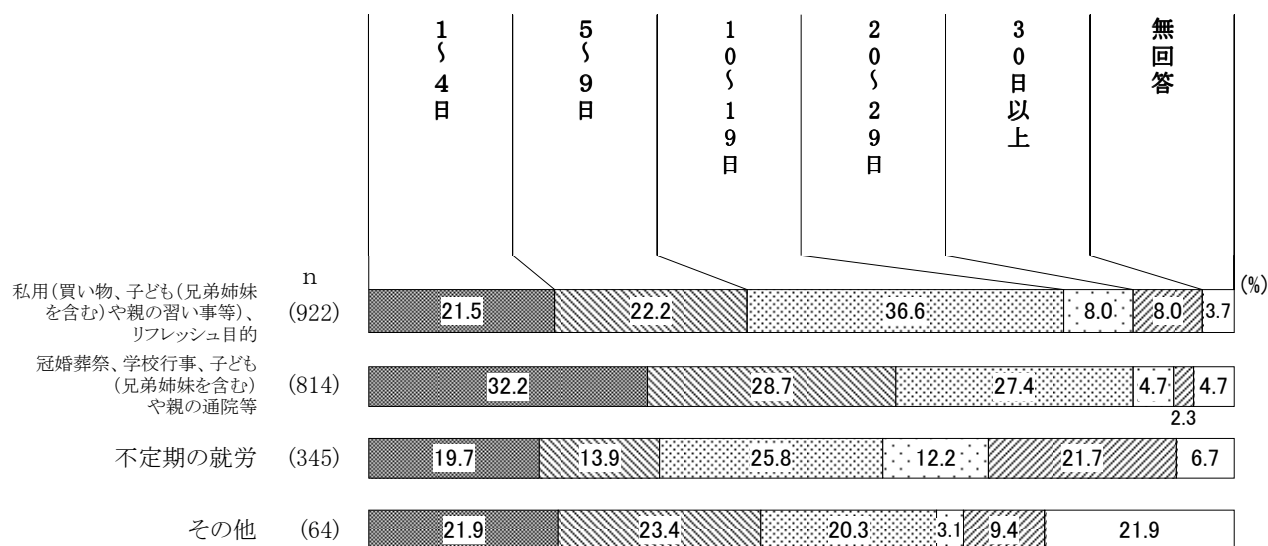
「利用したい」と回答した方の利用目的は、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が7割台前半、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が6割台前半、「不定期の就労」が2割台後半と続いている。

■利用希望日数（1年間の合計）



1年間の利用希望日数は、「10～19日」が3割台前半、次いで「30日以上」が1割台後半、「20～29日」「5～9日」「1～4日」と続いている。

■目的別利用希望日数

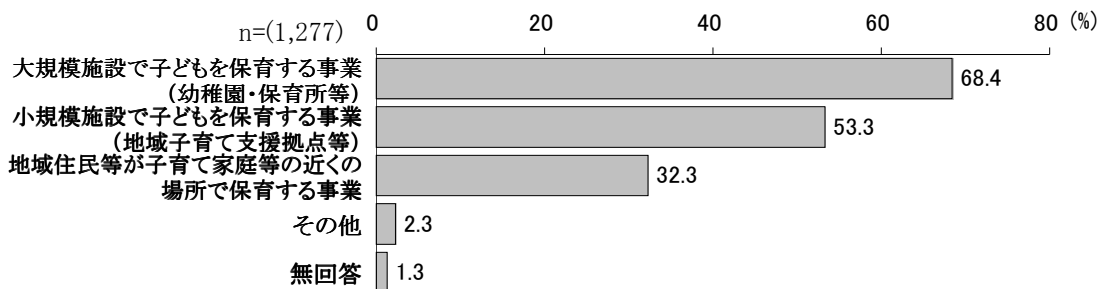


目的別の利用希望日数は、「1～4日」が冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等が3割台前半、私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的が2割台前半、不定期の就労が約2割となっている。「5～9日」は冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等2割台後半、「10～19日」が私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的が3割台後半となっている。

(4) 希望する事業形態

問45【問44で「1. 利用したい」に○をつけた方におたずねします】

問44の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



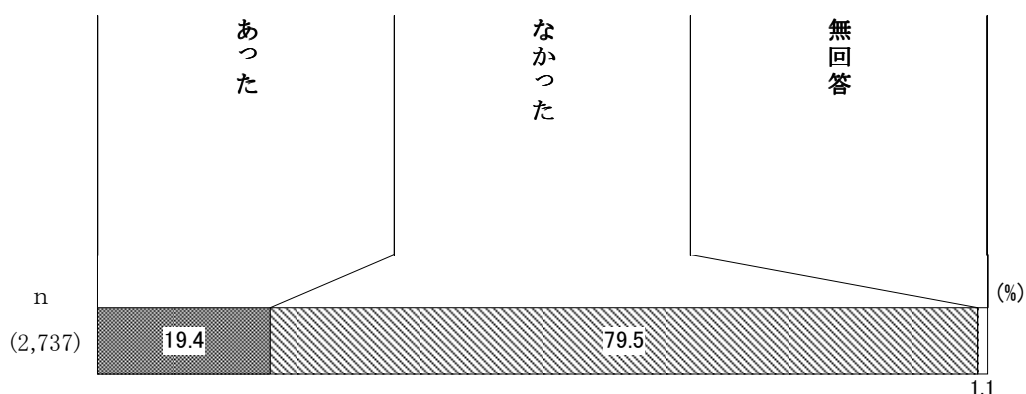
保護者の用事（私用、親の通院、不定期の就労等）の目的で、不定期の保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の事業を利用したいと回答した方が希望する事業形態は、「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所等）」が6割台後半、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業（地域子育て支援拠点等）」が5割台前半、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センター等）」が3割台前半となっている。

(5) 保護者の用事により泊りがけで家族以外にみてもらった有無と対処方法、宿泊日数

問46【すべての方におたずねします】

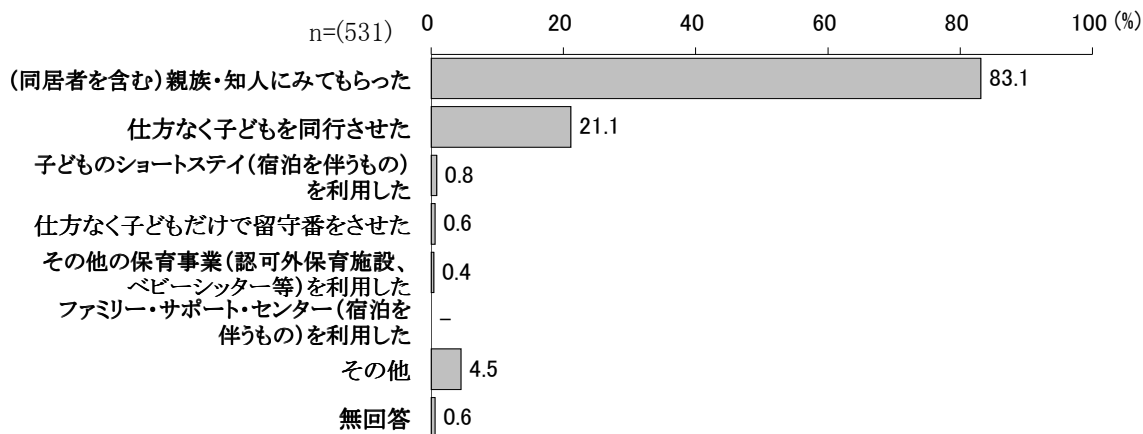
この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

■家族以外にみてもらったことの有無



保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無は、「あった」が約2割、約8割が「なかった」と回答している。

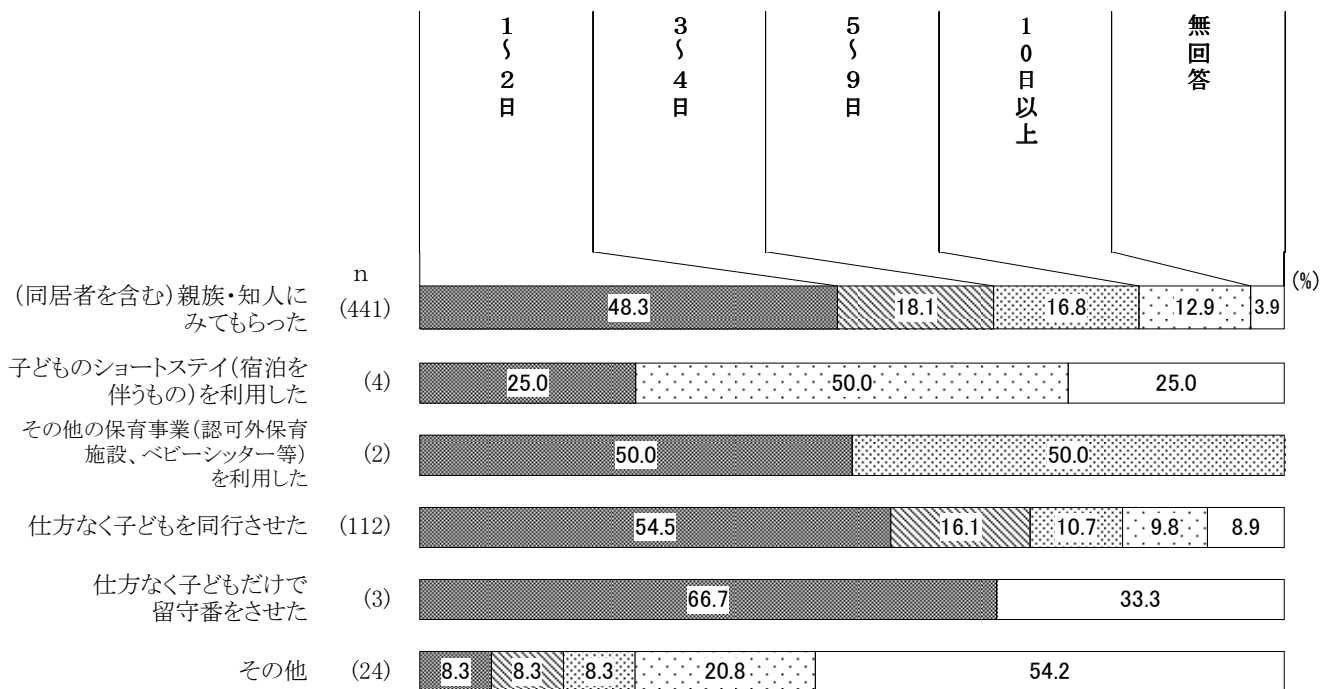
■この1年間の対処方法



「あった」と回答した方の対処方法は、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が8割台前半と最も多く、「仕方なく子どもを同行させた」が2割台前半となっている。

第2章 調査結果の詳細

■ 宿泊数

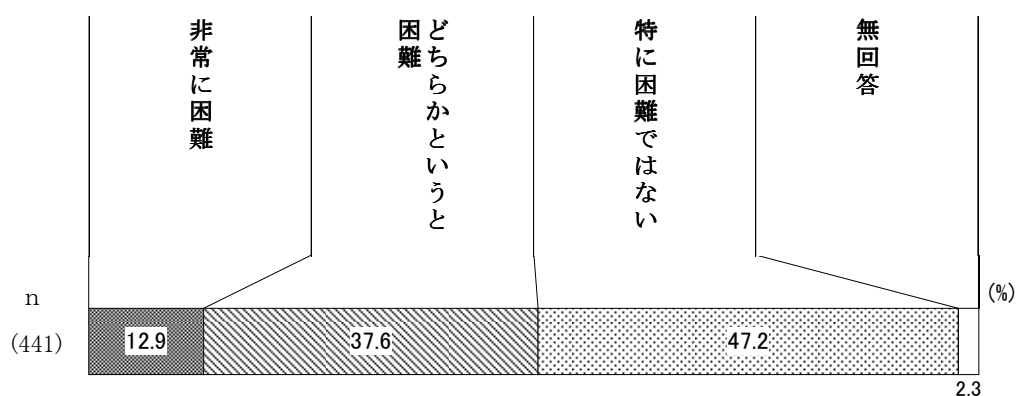


対処方法別の宿泊数については、「1～2日」は(同居者を含む)親族・知人にみてもらったが4割台後半、仕方なく子どもを同行させたが5割台前半となっている。「3～4日」は(同居者を含む)親族・知人にみてもらった、仕方なく子どもを同行させたがともに1割台後半となっている。

(6) 「親族・知人にみてもらった」時の困難度

問47【問46で「1. あった ア. (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」と答えた方におたずねします】

ア. 以外を選択した方と「2. なかった」と答えた方は問48へお進みください。
その場合の困難度はどの程度でしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった場合の困難度は「非常に困難」「どちらかという困難」を合わせた「困難」は約5割、「特に困難ではない」は4割台後半となっている。

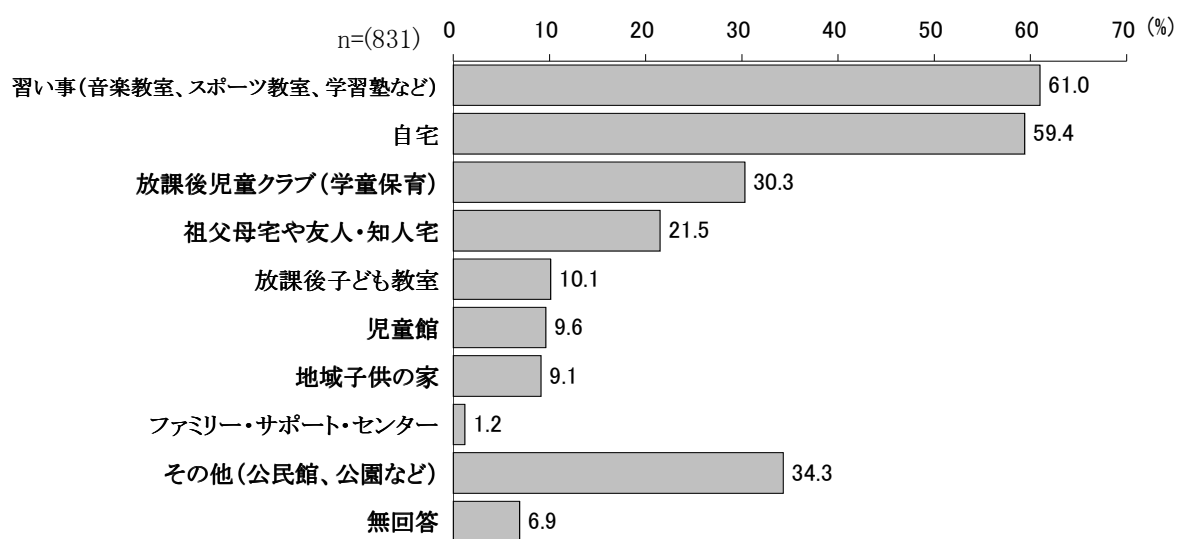
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方【調査対象が4歳以上】

(1) 小学校低学年（1～3年生）で放課後過ごさせたい場所、日数

問48【あて名のお子さんが4歳以上の方におたずねします】あて名のお子さんが4歳未満の方は、問51へお進みください。

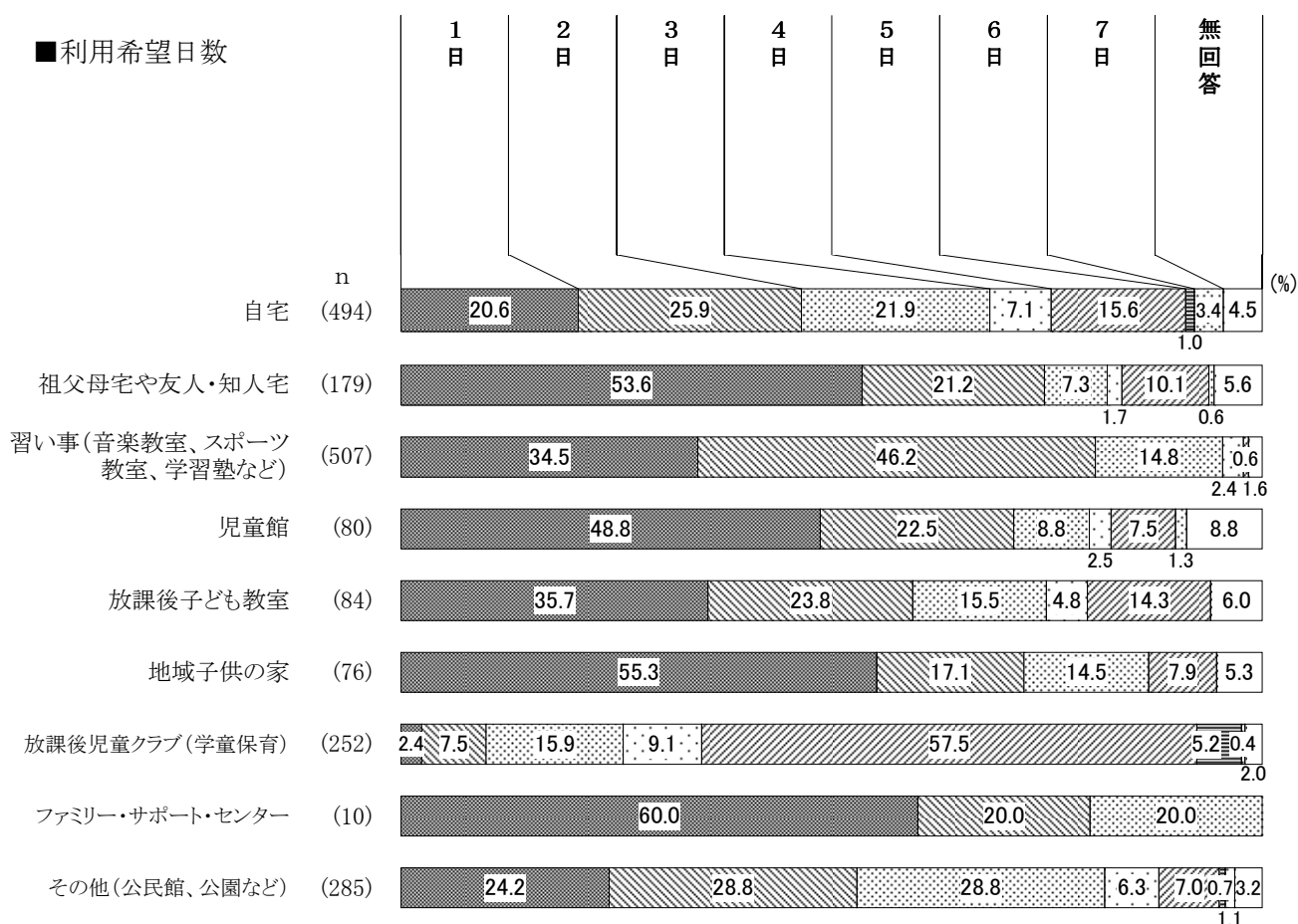
あて名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も口内に数字でご記入ください。

■放課後を過ごさせたい場所



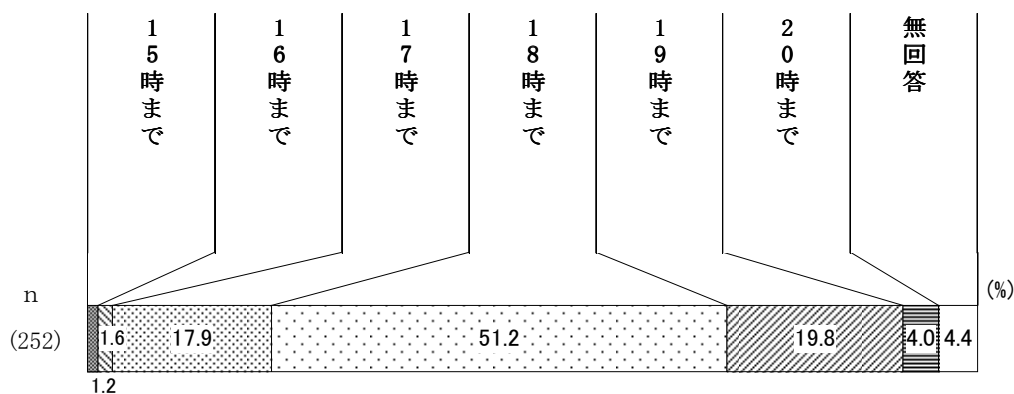
小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うかについては、「習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）」が6割台前半、次いで「自宅」が約6割、「その他（公民館、公園など）」が3割台前半、「放課後児童クラブ（学童保育）」が約3割、「祖父母宅や友人・知人宅」が2割台前半と続いている。

■利用希望日数



利用希望日数については、「1日」は「地域子供の家」「祖父母や友人・知人宅」が5割台前半～半ば、「児童館」が4割台後半、「習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）」が3割台半ば前後となっている。「2日」は「習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）」が4割台後半、「その他（公民館、公園など）」が2割台後半、「自宅」が2割台半ばとなっている。「3日」は「その他（公民館、公園など）」が2割台後半、「自宅」が2割台前半となっている。「5日」は「放課後児童クラブ（学童保育）」が5割台後半と高い割合となっている。

■放課後児童クラブの利用希望時間（下校時～終了時間）



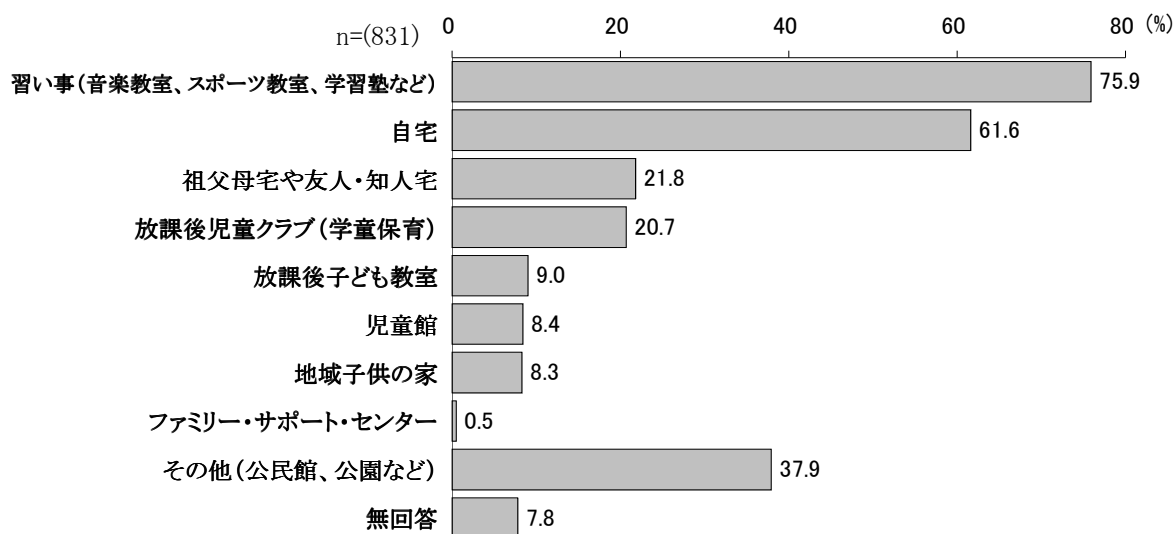
放課後児童クラブ（学童保育）の希望利用時間は、下校時から「18時まで」が5割台前半で最も多く、次いで「19時まで」が約2割、「16時まで」が1割台後半となっている。

(2) 小学校高学年（4～6年生）で放課後過ごさせたい場所、日数

問49【あて名のお子さんが4歳以上の方におたずねします】

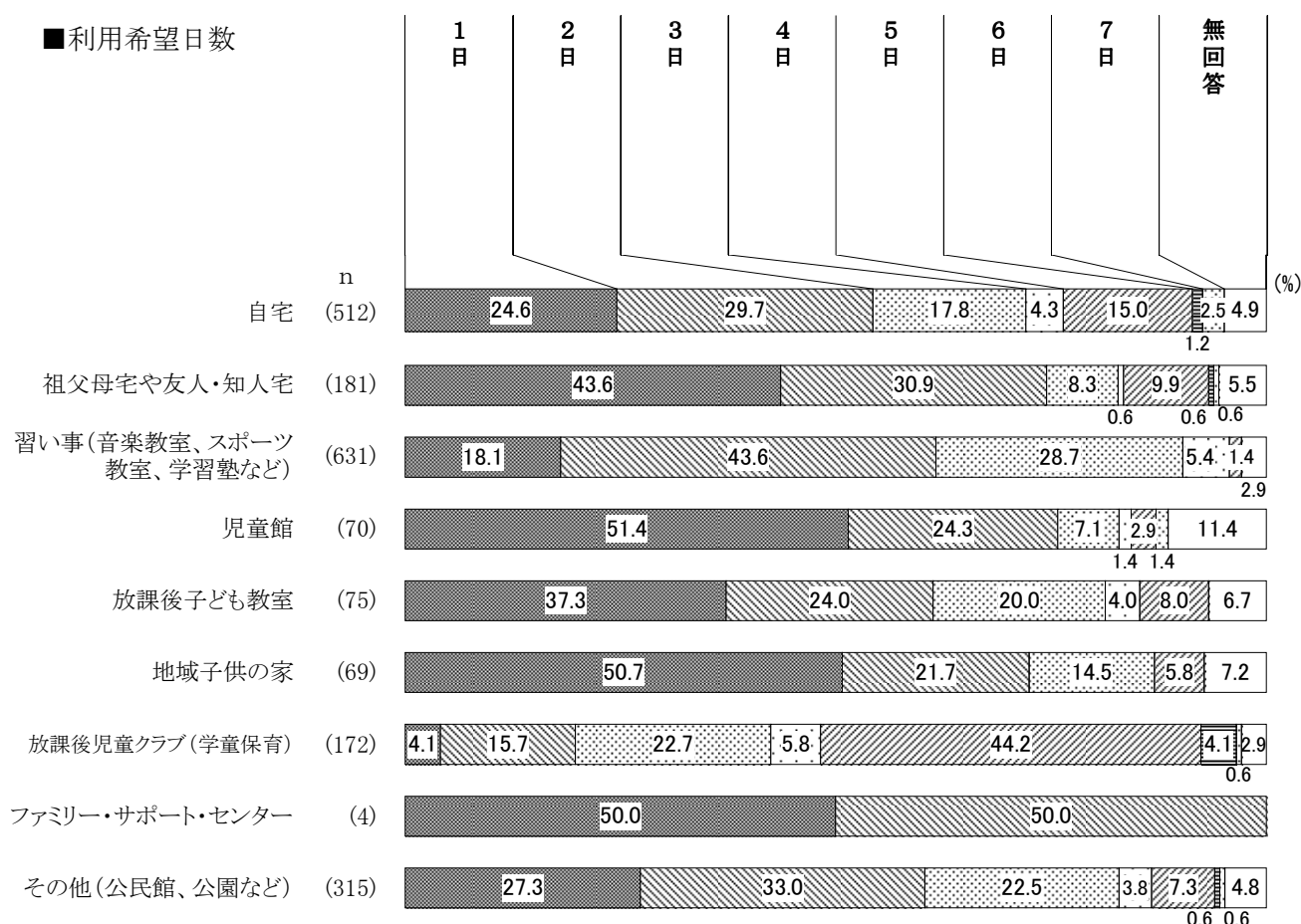
あて名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの週あたり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も口内に数字でご記入ください。

■放課後を過ごさせたい場所



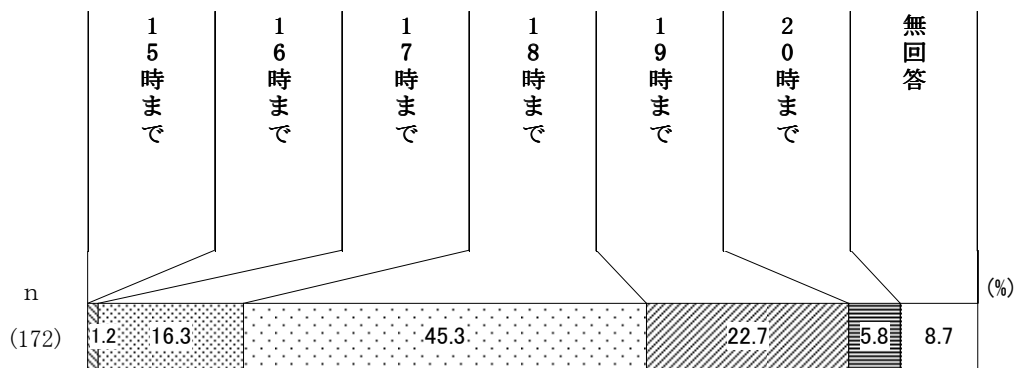
小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについては、「習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）」が7割台半ばで最も多く、次いで「自宅」が6割台前半、「その他（公民館、公園など）」が3割台後半と続いている。

■利用希望日数



利用希望日数については、「1日」は地域子供の家、児童館が約5割～5割前半、祖父母宅や友人・知人宅が4割前半、放課後子ども教室は3割後半となっている。「2日」は習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）が4割前半、その他（公民館、公園など）が3割前半となっている。「3日」は習い事（音楽教室、スポーツ教室、学習塾など）が2割後半、放課後児童クラブ（学童保育）、その他（公民館、公園など）が2割前半となっている。「5日」は放課後児童クラブ（学童保育）が4割前半と利用希望の割合が高い。

■放課後児童クラブ利用希望時間（下校時～終了時間）



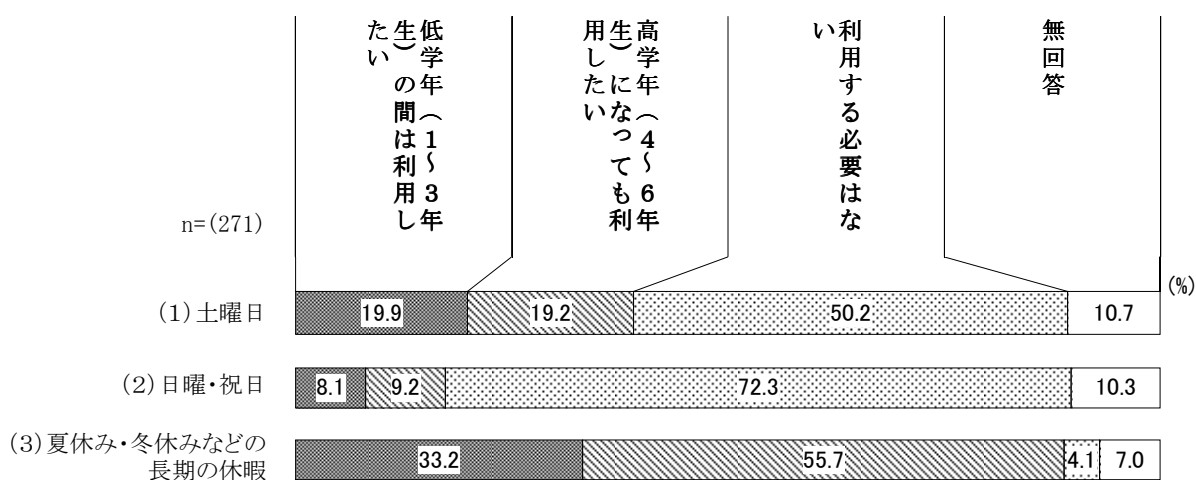
放課後児童クラブ（学童保育）の希望利用時間は、下校時から「18時まで」が4割半ばで最も多く、次いで「19時まで」が2割前半、「16時まで」が1割後半となっている。

(3) 放課後児童クラブの土曜日、日曜・祝日、長期休暇の利用希望、利用したい時間帯

問50【問48または問49で「7. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方におたずねします】

あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日、もしくは夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中に放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。(1)～(3)それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯を、口内に(例)09時～18時のように24時間制でご記入ください。

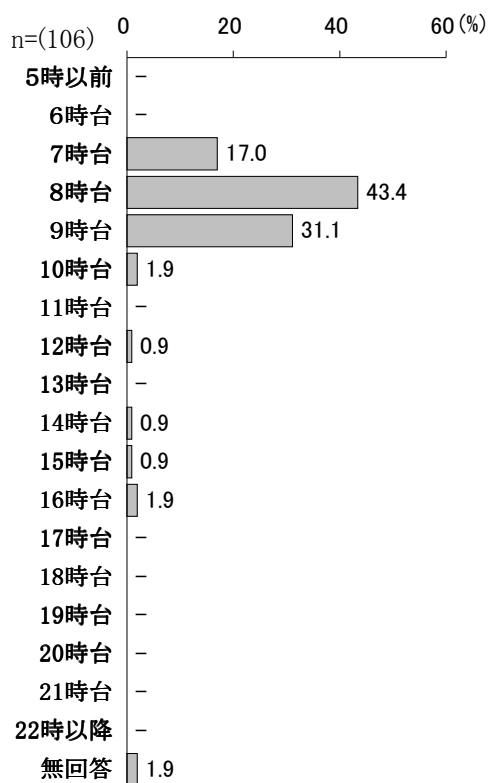
■利用希望の有無



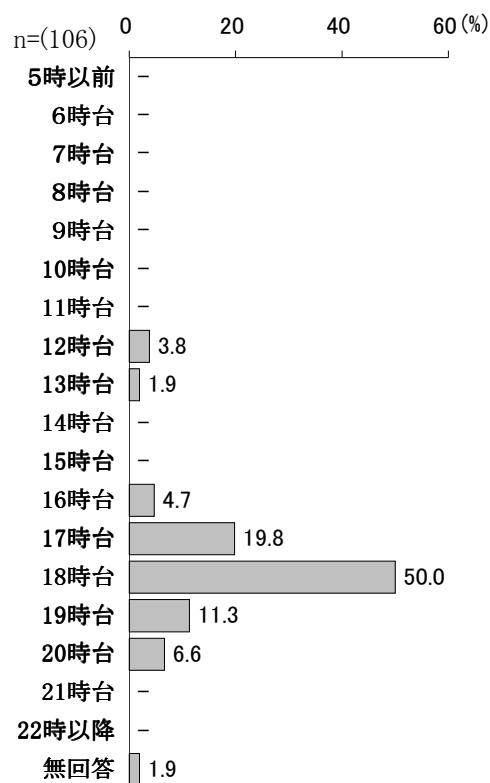
放課後児童クラブ（学童保育）を利用したいと回答した方の土曜日と日曜・祝日、もしくは夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望については、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」と「高学年（4～6年生）になっても利用したい」を合わせた「利用したい」は夏休み・冬休みなど長期の休暇が8割台後半と利用希望が多く、次いで土曜日が約4割、日曜・祝日は1割台後半と利用希望は少ない。一方、「利用する必要はない」は日曜・祝日が7割台前半、土曜日は約5割となっている。

■利用したい時間帯（土曜日）

希望開始時間



希望終了時間



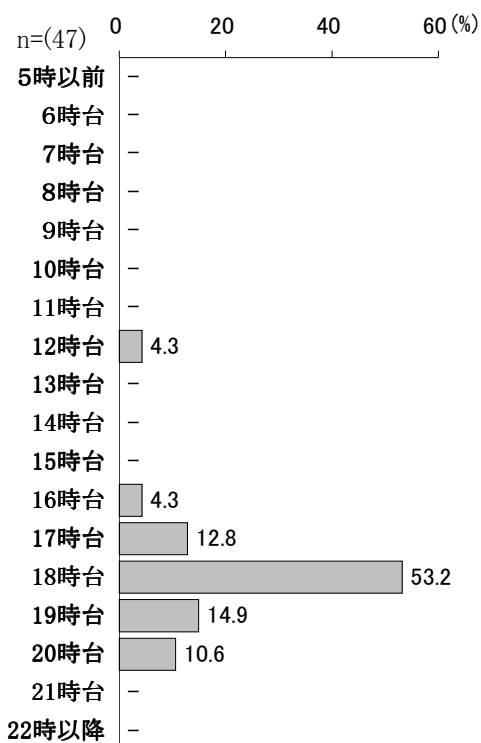
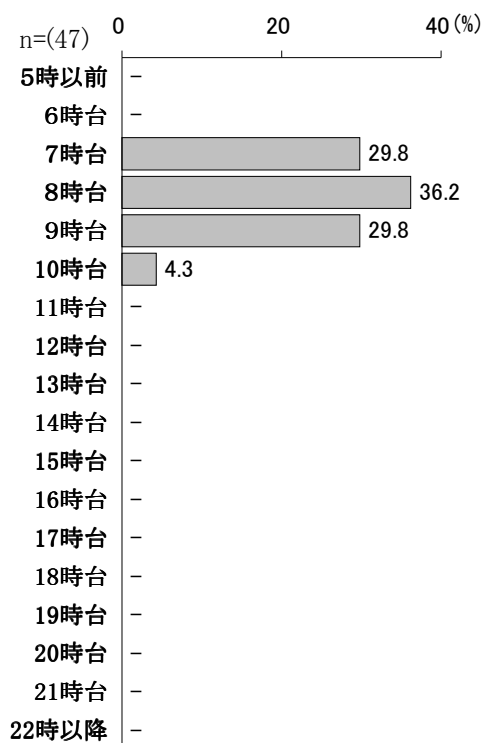
放課後児童クラブ（学童保育）の土曜日の利用希望時間帯については、開始時間は「8時台」が4割台前半、「9時台」が3割台前半、「7時台」が1割台後半となっている。終了時間は「18時台」が5割で最も多く「17時台」が約2割となっている。

第2章 調査結果の詳細

■利用したい時間帯（日曜・祝日）

希望開始時間

希望終了時間

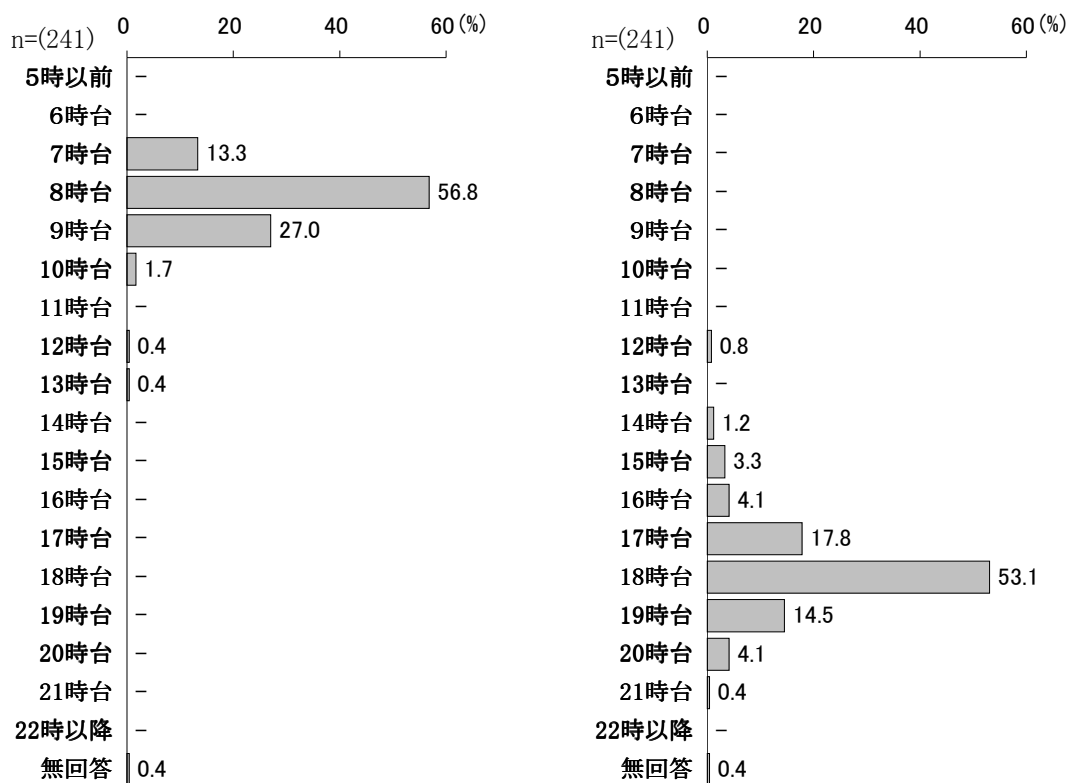


放課後児童クラブ（学童保育）の日曜・祝日の利用希望時間帯については、開始時間は「8時台」が3割台後半、「7時台」と「9時台」が約3割となっている。終了時間は「18時台」が5割台前半と最も多い。

■利用したい時間帯（夏休み・冬休みなど長期の休暇）

希望開始時間

希望終了時間



放課後児童クラブ（学童保育）の夏休み・冬休みなど長期の休暇の利用希望時間帯については、開始時間は「8時台」が5割台後半、「9時台」が2割台後半となっている。終了時間は「18時台」が5割台前半と最も多い。

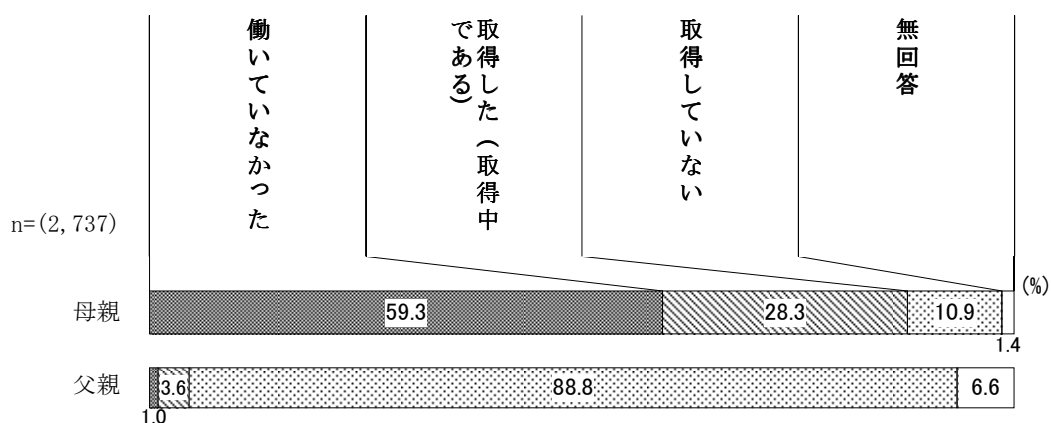
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

(1) 母親、父親の育児休業取得の有無について

問51【すべての方におたずねします】

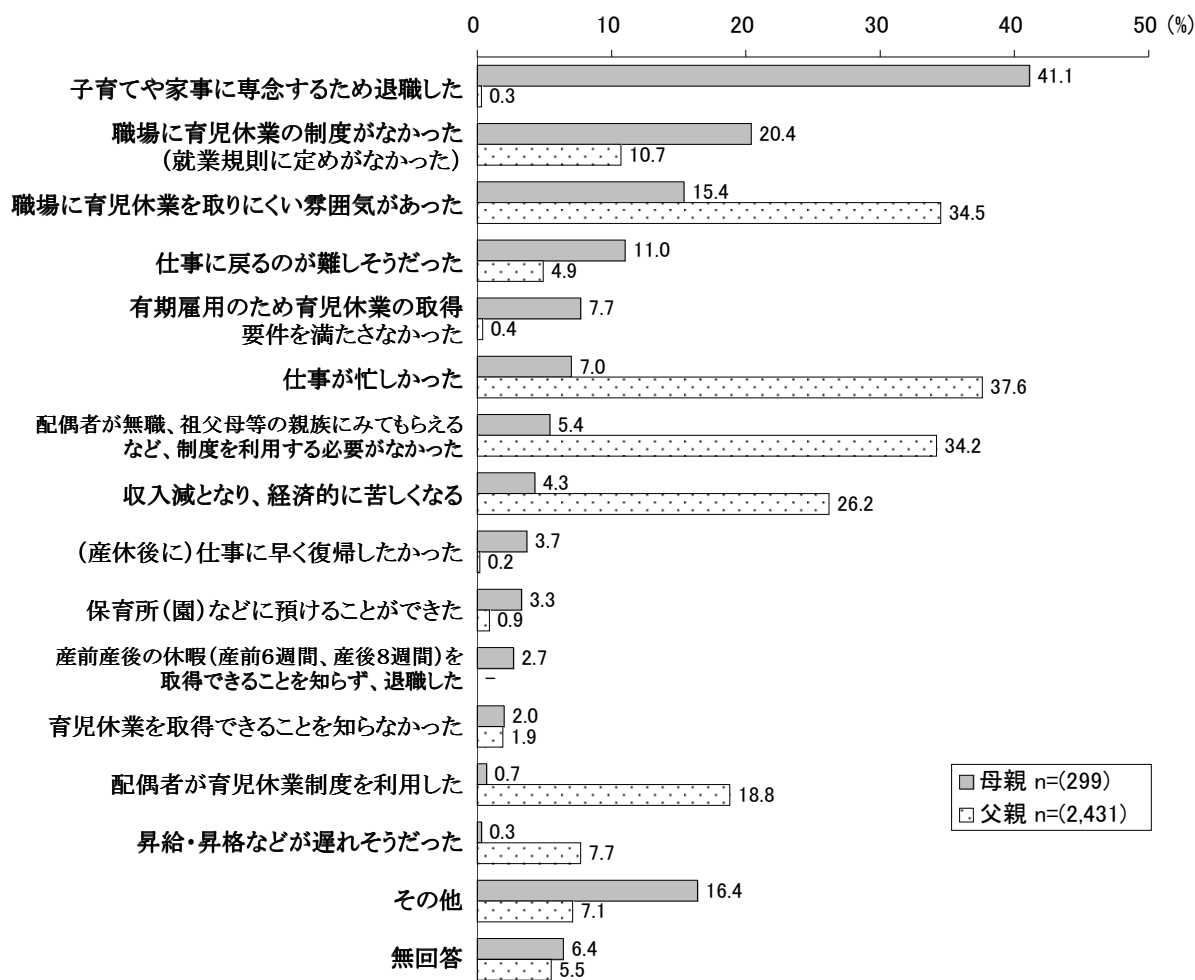
あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない方はその理由をご記入ください。

■ 育児休業取得の有無



育児休業取得の有無は、母親の2割台後半は「取得した（取得中である）」と回答し、父親は3.6%とわずかである。一方、「取得していない」は父親が8割台後半、母親は約1割となっている。また、母親の約6割は「働いていなかった」と回答している。

■ 育児休業を取得していない理由



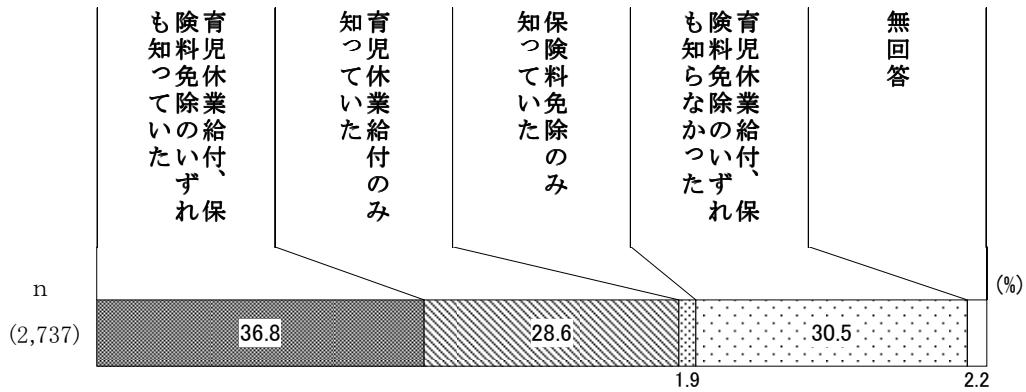
母親の育児休業を取得していない理由は、「子育てや家事に専念するため退職した」が4割前半、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が約2割、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が1割台半ばとなっている。

父親の育児休業を取得していない理由は、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が3割台となっている。次いで「収入減となり、経済的に苦しくなる」「配偶者が育児休業制度を利用した」と続いている。

(2) 育児休業給付と保険料の免除についての認知状況

問52【すべての方におたずねします】

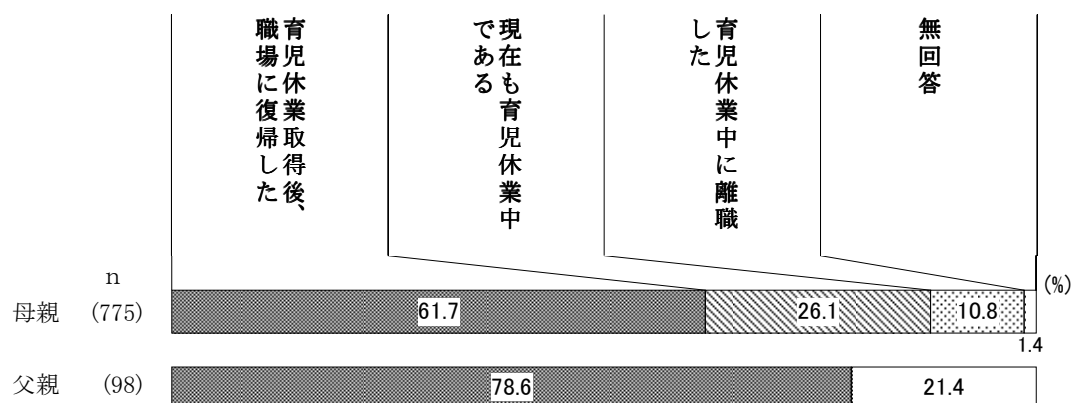
育児休業給付と保険料（健康保険及び厚生年金保険）免除についておたずねします。当てはまる番号1つに○をつけてください。



育児休業給付と保険料（健康保険及び厚生年金保険）免除についての認知状況は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が3割台後半、「育児給付のみ知っていた」は2割台後半となっている。一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が約3割となっている。

(3) 育児休業取得後の職場復帰

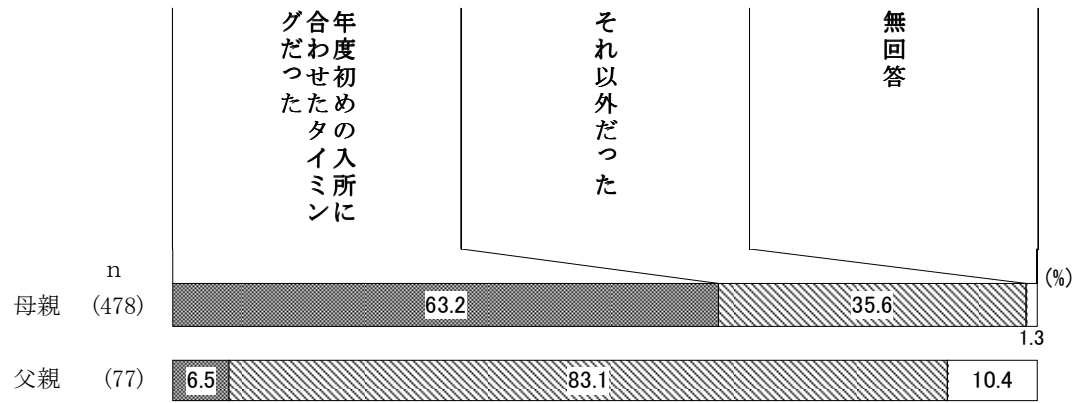
問53【問51で育児休業を「2. 取得した（取得中である）」と回答した方におたずねします】
 それ以外を選択した方は問61へお進みください。
 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



育児休業取得後、職場に復帰したかについては、母親の6割台前半が「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答し、2割台後半が「現在も育児休業中である」と回答している。父親は、7割台後半が「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答している。

(4) 復帰のタイミング

問54【問53で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします】
 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。どちらか1つに○をつけてください。

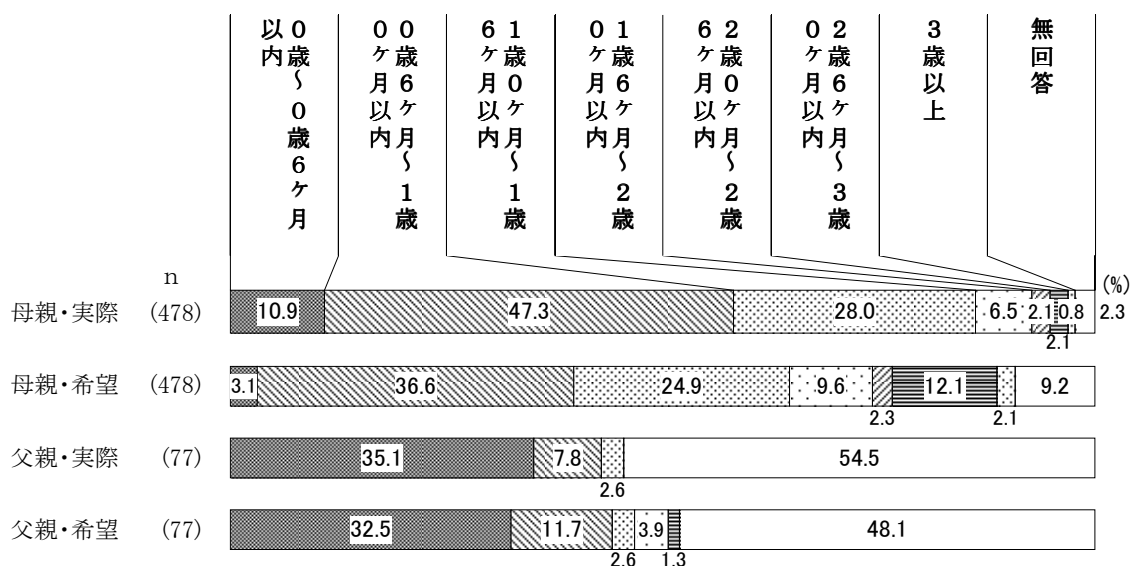


育児休業からの職場復帰は、母親の6割前半が「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」と回答し、3割台半ばは「それ以外だった」と回答している。父親は8割前半が「それ以外だった」と回答している。

(5) 実際の復帰時期と希望が異なる場合

問55【問53で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします】

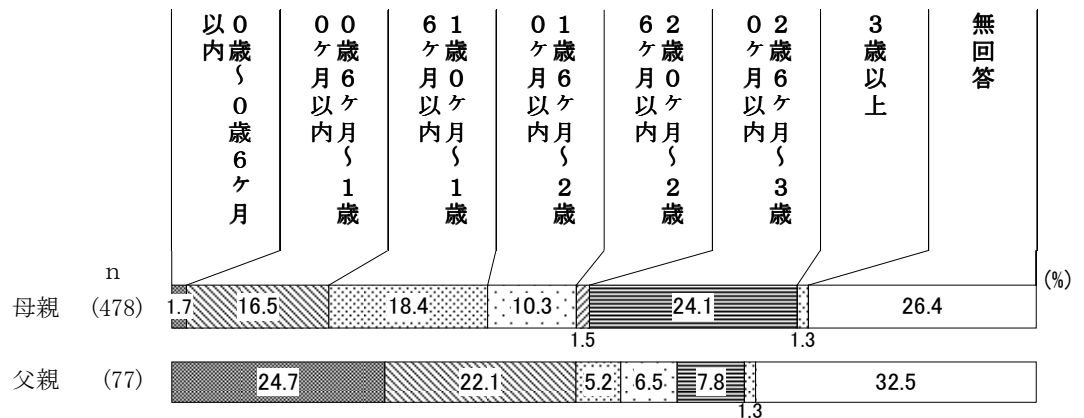
育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。
□内に数字でご記入ください。



育児休業取得後、職場復帰したと回答した方の実際の取得期間については、母親は「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が4割台後半と最も多く、次いで「1歳0ヶ月～1歳6ヶ月」が2割台後半となっている。父親は、「0歳～0歳6ヶ月以内」が3割台半ばとなっている。育児休業期間の希望については、母親は「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が3割台後半、「1歳0ヶ月～1歳6ヶ月」が2割台前半、「3歳以上」が1割台前半となっている。父親の希望は、「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が3割台前半、「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が1割台前半となっている。

(6) 3歳まで育児休業取得制度があった場合の取得希望

問56【問53で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします】
お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。□内に数字でご記入ください。



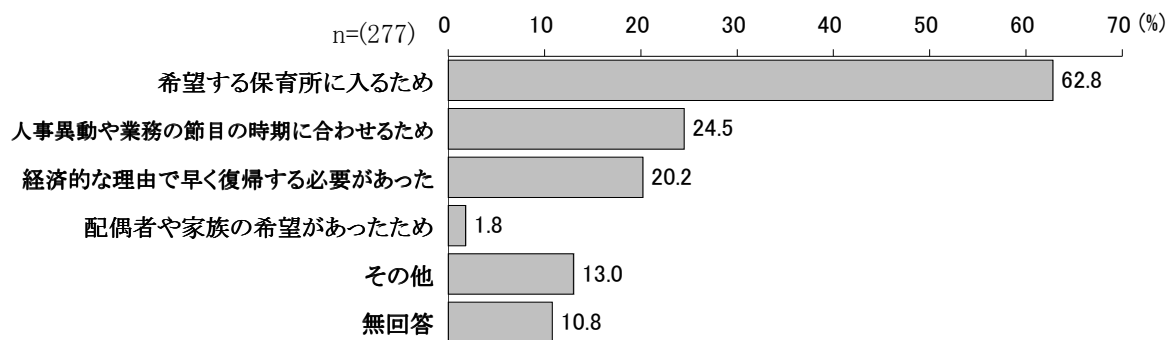
3歳まで取得できる休暇制度があった場合の取得希望については、母親は「2歳6ヶ月～3歳0ヶ月以内」が2割台前半、次いで「1歳0ヶ月～1歳6ヶ月以内」「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が1割台後半となっている。父親は「0歳～0歳6ヶ月以内」「0歳6ヶ月～1歳0ヶ月以内」が2割台前半となっている。

(7) 希望の時期に職場復帰しなかった理由

問57【問55で実際の復帰時期と希望が異なる方におたずねします】
希望の時期に職場復帰しなかった理由についておたずねします。

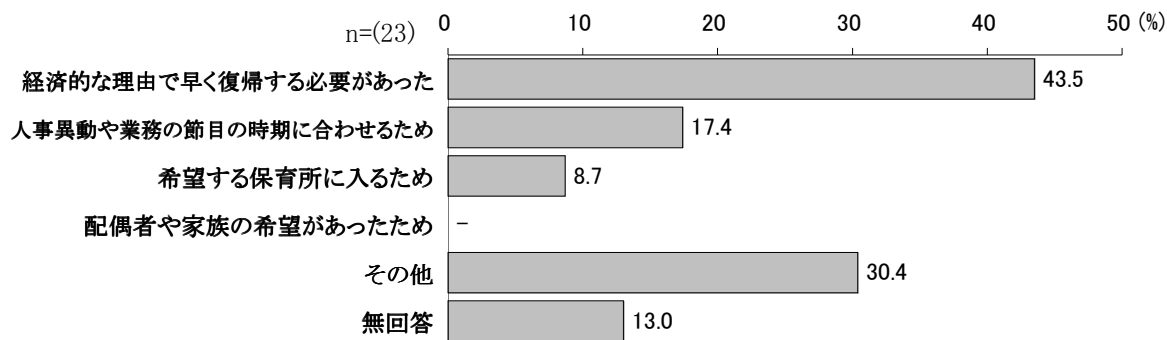
■ 希望より早く復帰した理由

母親



実際の復帰時期と希望が異なる母親が希望より早く復帰した理由は、「希望する保育所に入るため」が6割台前半で最も多く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が2割台前半、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が約2割となっている。

父親

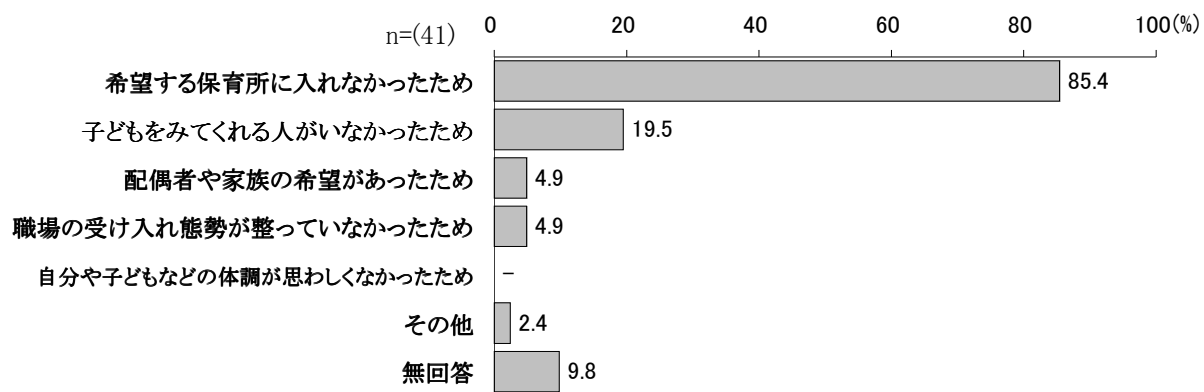


実際の復帰時期と希望が異なる父親が希望より早く復帰した理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が4割台前半、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が1割台後半となっている。

第2章 調査結果の詳細

■ 希望より遅く復帰した理由

母親

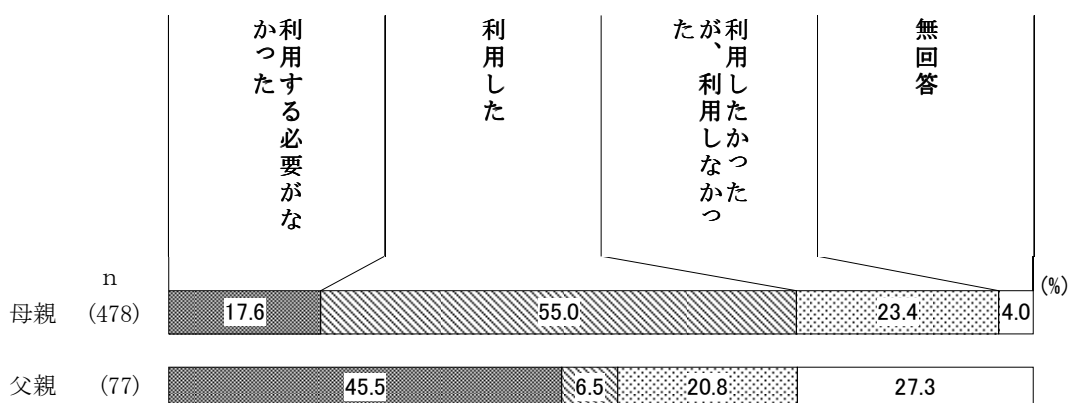


実際の復帰時期と希望が異なる母親が希望より遅く復帰した理由は、8割台半ばが「希望する保育所に入れなかったため」と回答している。「子どもをみてる人がいなかったため」が約2割となっている。

(8) 育児休業取得後の職場復帰で短時間勤務制度の利用

問58【問53で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします】

育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

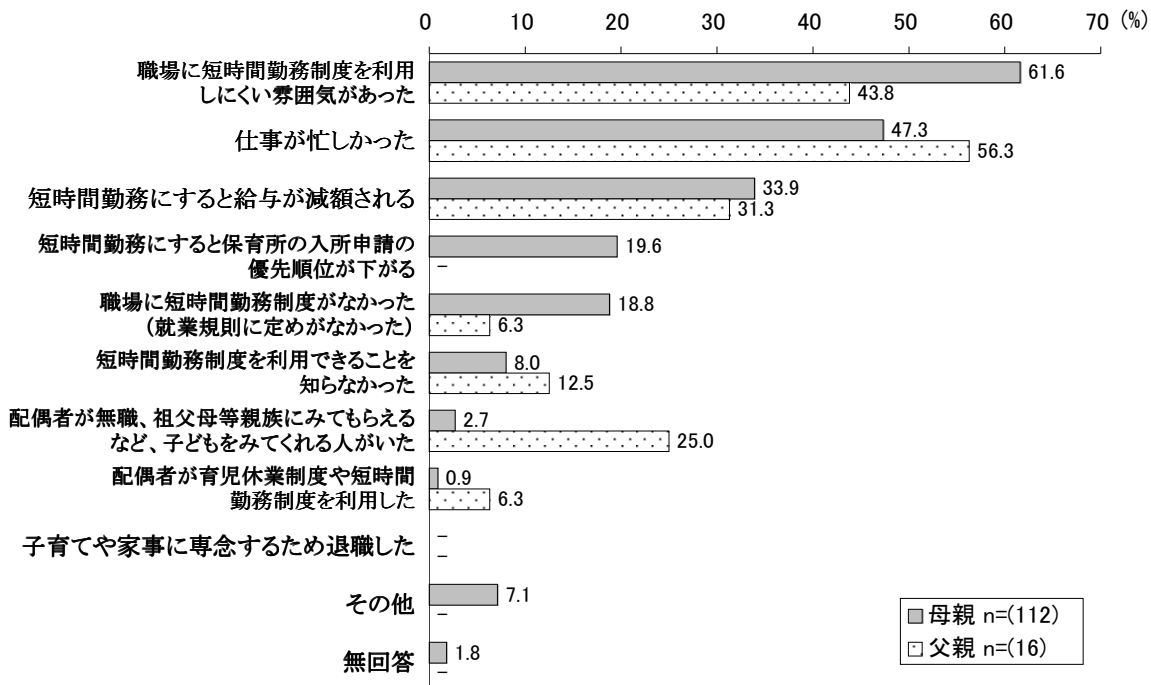


育児休業からの職場復帰時に短時間勤務制度を利用したかどうかについて、母親は5割台半ばが「利用した」と回答している。「利用したかったが、利用しなかった」は2割台前半、「利用する必要がなかった」が1割台後半となっている。父親は、「利用する必要がなかった」が4割台半ば、「利用したかったが、利用しなかった」は約2割、「利用した」はわずか6.5%となっている。

(9) 短時間勤務制度を利用しなかった理由

問59【問58で「3. 利用しなかったが、利用しなかった」と回答した方におたずねします】

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由はなんですか。当てはまる理由すべてに○をつけてください。



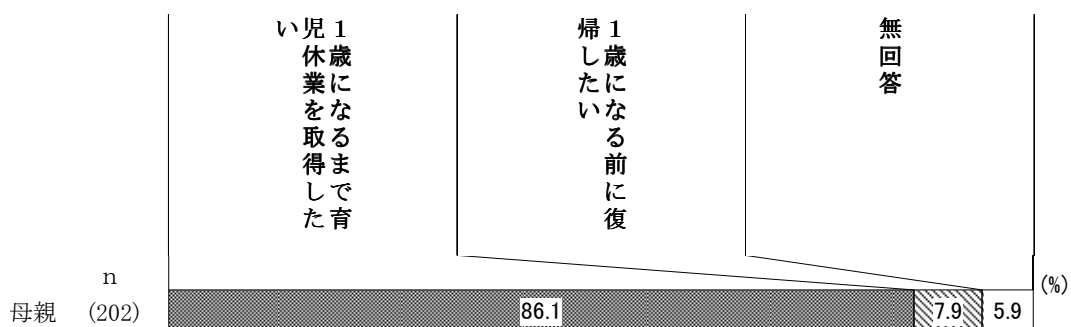
母親が短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は、「職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった」が6割台前半で最も多く、次いで「仕事が忙しかった」が4割台後半、「短時間勤務にすると給与が減額される」が3割台前半となっている。

父親が短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は、「仕事が忙しかった」が5割台後半、「職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった」が4割台前半、「短時間勤務にすると給与が減額される」が3割台前半となっている。

(10) 1歳になったときに利用できる事業がある場合の育児休業取得の希望

問60【問53で「2. 現在も育児休業中である」と回答した方におたずねします。】

あて名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

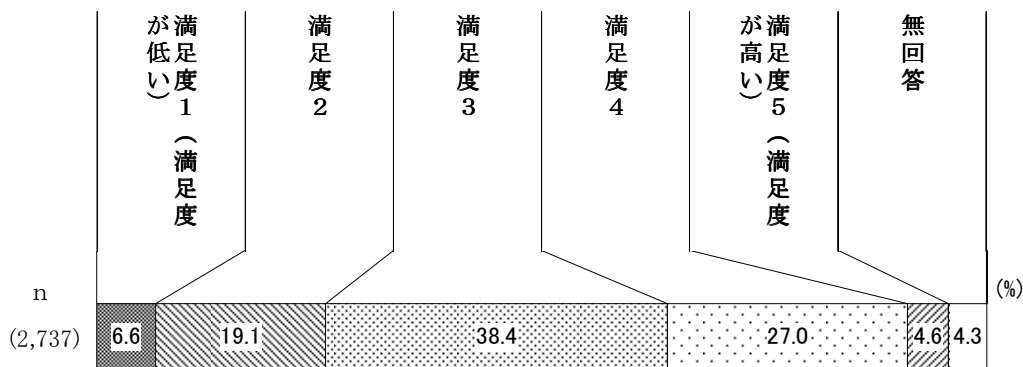


1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかどうかは、8割台後半が「1歳になるまで育児休業を取得したい」と回答している。

(11) 居住地域における子育ての環境や支援への満足度

問61【すべての方におたずねします】

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について1～5段階のうち当てはまる番号1つに○をつけてください。



居住地域における子育ての環境や支援への満足度は、「満足度5 (満足度が高い)」～「満足度1 (満足度が低い)」のうち、「満足度3」が3割台後半で最も多く、次いで「満足度4」が2割台後半、「満足度2」が約2割となっている。

12. 子育て全般について

(1) 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する意見

問62【すべての方におたずねします】

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関するご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込

■量の見込み算出方法

国が示した手引きの計算式を基に量の見込みを算出。

①計画期間の推計児童数

平成26年3月1日の各年齢人口を基準に算出。

H26.3.1	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
	3,616	3,728	3,843	3,853	3,902	4,003
	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	11歳児
	3,925	3,894	3,868	4,036	4,113	3,910

②家庭類型

タイプA	ひとり親家庭
タイプB	フルタイム×フルタイム
タイプC	フルタイム×パートタイム（月120時間+月下限時間～120時間の一部）
タイプC'	フルタイム×パートタイム（月下限時間未満+月下限時間～120時間の一部）
タイプD	専業主婦（夫）
タイプE	パートタイム×パートタイム（双方が月120時間以上+月下限時間～120時間の一部）
タイプE'	パートタイム×パートタイム（いずれかが月下限時間未満+月下限時間～120時間の一部）
タイプF	無業×無業

③需要調査の結果から家庭類型ごとの利用意向率を算出。

④推計児童数と各家庭類型の割合から家庭類型別児童数を算出。

「推計児童数（人）」×「家庭類型（割合）」＝「家庭類型別児童数（人）」

⑤利用意向率と家庭類型別児童から量の見込みを算出。

「家庭類型別児童数（人）」×「利用意向率（割合）」＝「量の見込み（人）」

■例：幼稚園<H27年度の下限時間48時間の算出式>

3歳～就学前家庭のみ（上記①の3歳児から5歳児の合計）

<家庭類型別児童数の算出>

	a:推計児童数(人)	b:家庭類型(割合)	c:家庭類型別児童数
タイプA ひとり親	11,758	0.060	701
タイプB フルタイム×フルタイム		0.204	2,396
タイプC フルタイム×パートタイム(月120時間以上+下限時間～120時間の一部)		0.097	1,140
タイプC' フルタイム×パートタイム(下限時間未満+下限時間～120時間の一部)		0.179	2,103
タイプD 専業主婦(夫)		0.457	5,377
タイプE パート×パート(双方月120時間以上+下限時間～120時間の一部)		0.001	10
タイプE' パート×パート(いずれかが下限時間未満+下限時間～120時間の一部)		0.001	10
タイプF 無業×無業		0.002	21

<ニーズ量の算出>

	c:家庭類型別児童数	d:利用意向率(割合)	e:ニーズ量(人)
タイプA ひとり親	701	0.388	272
タイプB フルタイム×フルタイム	2,396	0.109	261
タイプC フルタイム×パートタイム(月120時間以上+下限時間～120時間の一部)	1,140	0.193	220
タイプC' フルタイム×パートタイム(下限時間未満+下限時間～120時間の一部)	2,103	0.776	1,632
タイプD 専業主婦(夫)	5,377	0.792	4,258
タイプE パート×パート(双方月120時間以上+下限時間～120時間の一部)	10	0.000	0
タイプE' パート×パート(いずれかが下限時間未満+下限時間～120時間の一部)	10	1.000	10
タイプF 無業×無業	21	0.500	10
			6,663

■保育（認定こども園及び保育所＋地域型保育）

＜調査票：問26／報告書：P56～P71＞

地域型保育事業とは、小規模保育・家庭的保育・居宅訪問型保育・事業所内保育のこと。

(単位：人)

下限時間※	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
48時間	7,740	7,740	7,740	7,740	7,740
現在の定員との差	2,215(141%)	2,215(141%)	2,215(141%)	2,215(141%)	2,215(141%)
64時間	7,486	7,486	7,486	7,486	7,486
現在の定員との差	1,961(135%)	1,961(135%)	1,961(135%)	1,961(135%)	1,961(135%)
80時間	7,397	7,397	7,397	7,397	7,397
現在の定員との差	1,872(134%)	1,872(134%)	1,872(134%)	1,872(134%)	1,872(134%)

※・市町村が保育の必要性の下限時間を48時間から64時間の間で定める(現在は80時間)。

設定する下限時間により、量の見込みが変動する(対象となる家庭類型数が変わるため)。

・()内は量の見込みと現在の定員を比較したパーセント。

【参考】H25.4.1

(単位：人)

	定員		定員
認定こども園	0	小規模保育施設	0
認可保育所(46園)	5,009	家庭的保育(3か所)	11
認定保育施設(8か所)	350	居宅訪問型保育	0
藤沢型認定保育施設(6か所)	155	計	5,525

■幼稚園＜調査票：問26／報告書：P56～P71＞

(単位：人)

下限時間	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
48時間	6,663	6,663	6,663	6,663	6,663
64時間	6,696	6,696	6,696	6,696	6,696
80時間	6,705	6,705	6,705	6,705	6,705

【参考】H25.5.1

(単位：人)

	定員
幼稚園(35園)	7,508

■時間外保育事業（延長保育）＜調査票：問26／報告書：P56～P71＞

(単位：人)

下限時間	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
48時間	6,115	6,115	6,115	6,115	6,115
64時間	6,011	6,011	6,011	6,011	6,011
80時間	5,969	5,969	5,969	5,969	5,969

【参考】

	人数
時間外保育(延長保育)	不明

■幼稚園における在園児を対象とした一時預かり

＜調査票：問22・問26・問42・問44／報告書：P39～P52・P56～P71・

P95～P96・P98～P99＞

(単位：人日)

下限時間	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
48時間	47,182	47,182	47,182	47,182	47,182
64時間	48,046	48,046	48,046	48,046	48,046
80時間	48,365	48,365	48,365	48,365	48,365

【参考】H24年度

	利用延べ人数
幼稚園における預かり保育	43,337

■不定期の保育事業や一時預かり等（幼稚園における在園児を対象とした一時預かり以外）

＜調査票：問44／報告書：P98～P99＞

(単位：人日)

下限時間	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
48時間	161,926	161,926	161,926	161,926	161,926
64時間	161,041	161,041	161,041	161,041	161,041
80時間	160,560	160,560	160,560	160,560	160,560

【参考】

	利用延べ人数	
一時預かり（保育所）	23,154	→ H24年度
ファミリー・サポート・センター事業	10,319	} H25.1～H26.1
ショートステイ（1か所）	113	
トワイライトステイ（2か所）	181	
ベビーシッター	不明	
認可外保育施設	不明	
計	33,767	

■病児・病児後保育事業、ファミリー・サポート・センター事業（病児・病後児利用）

＜調査票：問35・問36／報告書：P87～P89＞

＜0～5歳以下家庭のみ＞

(単位：人日)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
30,163	30,163	30,163	30,163	30,163

【参考】

	利用延べ人数	
病児後保育事業	993	→ H24年度
ファミリー・サポート・センター事業 （病児・病後児利用）	65	→ H25.1～H26.1
ベビーシッター	不明	
計	1,058	

※希望する事業形態は、

「小児科や医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業」が80.1%

「幼稚園・保育所等に併設した施設で子どもを保育する事業」が62.3%

「ファミリー・サポート・センター事業等」が20.6%

となっている。

■地域子育て支援拠点事業

〈調査票：問28・問29／報告書：P73～P76〉

(単位：人回)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
22,258	22,258	22,258	22,258	22,258

【参考】H24年度実績

	利用延べ人数
子育て支援センター(3か所)	57,359(26,444)
つどいの広場(4か所)	21,392(9,968)
巡回子育てひろば(6か所)	3,417(1,615)
子育てふれあいコーナー あいあい(21か所)	1,243

※()内は組数

■子育て短期支援事業(ショートステイ)

〈調査票：問46／報告書：P101～P102〉

(単位：人日)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1,137	1,137	1,137	1,137	1,137

【参考】H25.1～H26.1

	利用延べ人数
ショートステイ(1か所)	113

■放課後児童健全育成事業(児童クラブ)

〈調査票：問48・問49／報告書：P104～P107〉

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
低学年(1～3年)	3,078	3,078	3,078	3,078	3,078
高学年(4～6年)	2,124	2,124	2,124	2,124	2,124
計	5,202	5,202	5,202	5,202	5,202

【参考】H26.3現在 (単位：人)

	定員
児童クラブ	3,018

■ファミリー・サポート・センター事業(就学児)

〈調査票：問48・問49／報告書：P104～P107〉

(単位：人日)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
低学年(1～3年)	172	172	172	172	172
高学年(4～6年)	60	60	60	60	60
計	232	232	232	232	232

【参考】H25.1～H26.1

	利用延べ人数
ファミリー・サポート・センター事業	3,128

※今回の需要調査は未就学児を対象に行い、ファミリー・サポート・センター事業(就学児)については、子どもが低学年または高学年になった時を想定しての利用希望となっている。そのため、実際の利用延べ人数と乖離がある結果となっている。

子ども・子育て支援新制度施行までのスケジュール(案)

2014.3.13作成

		国スケジュール	市スケジュール		
平成 25 年度	4月	【国】子ども・子育て会議設置			
	5月	調査票の項目等の検討、子ども・子育て支援法に基づく基本指針の検討	次世代育成支援行動計画 H24年度特定事業実績報告（広報ふじさわ6/10号）		
	6月				
	7月	基本指針策定 調査項目確定	第1回 藤沢市子ども・子育て会議 7/29		
	8月		市独自項目を含むニーズ調査項目の検討、調査票の作成		
	9月		第2回 藤沢市子ども・子育て会議 9/5		
	10月		ニーズ調査の実施 (10/25～11/15)		
	11月				
	12月		データの集計、分析 11月～3月ごろ		
	1月	見込み量算出の作業の手引き提示			
	2月				
	3月	基準等の政省令制定	データ分析を基に事業量の見込みを算出(H26年度当初)		
	第3回 藤沢市子ども・子育て会議 3/19				
平成 26 年度	4月	公定価格骨格の提示 (施設の意向調査)	事業計画(構成案)作成	【基準等の制定】 ・特定教育・保育施設運営基準 ・地域型保育施設認可・運営基準 ・支給認定基準 ・放課後児童クラブの設備及び運営基準	
	5月		定員の設定、量の見込み確定 (7月ごろまで)		
	6月		事業計画(骨子案)作成		
	7月				
	8月				
	9月		事業計画書案作成	「確保方策」中間とりまとめ (県に報告)	藤沢市子ども・子育て会議 (部会含む) 随時開催予定 (直近は5月・7月開催予定)
	10月			事業計画(素案)	
	11月		パブリックコメント・意見交換会等		
	12月		事業計画の確定		
	1月				
	2月				
	3月		事業計画を県へ提出		
4月	新制度施行				

次世代育成支援対策推進法の概要

資料 2 - 2

(平成17年4月から平成27年3月までの10年間の時限立法)

- 次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成に資するため次世代育成支援対策を迅速かつ重点的に推進
- 地方公共団体及び事業主に対し、次世代育成支援のための行動計画の策定を義務づけ、10年間の集中的・計画的な取組を推進

行動計画策定指針

- 国において地方公共団体及び事業主が行動計画を策定する際の指針を策定。

(例) 地方公共団体行動計画：保育の実施の事業、放課後児童健全育成事業等に関する事項(量)を定めるに際して参考とすべき標準を記載
一般事業主行動計画：計画に盛り込む内容として、育児休業や短時間勤務に関する取組、所定外労働の削減や年次有給休暇の取得に関する取組を記載

指針の
内容を追加

地方公共団体行動計画の策定

①市町村行動計画

②都道府県行動計画

→ 地域住民の意見の反映、労使の参画、計画の内容・実施状況の公表、定期的な評価・見直し等

事業主行動計画の策定・届出

①一般事業主行動計画(企業等)

- ・大企業(301人以上)：義務
- ・中小企業(101人以上)：義務(23年4月～)
- ・中小企業(100人以下)：努力義務

→ 一定の基準を満たした企業を認定



②特定事業主行動計画(国・地方公共団体等)

計画の策定・届出の枠組みに代えた実績公表の枠組みの追加

認定制度の充実

施策・取組への協力等

策定支援等

次世代育成支援対策地域協議会

都道府県、市町村、事業主、労働者、社会福祉・教育関係者等が組織

次世代育成支援対策推進センター

事業主団体等による情報提供、相談等の実施

次世代育成支援対策推進法の見直しについて

<現行の仕組み>

法律の有効期限

平成17年4月1日から平成27年3月31日までの10年間の時限立法

行動計画策定指針

行動計画策定指針の内容に即して、行動計画を策定

■ 基本的な視点

- ① 仕事と生活の調和の視点
- ② 仕事と子育ての両立の視点
- ③ 企業全体での取組等の視点
- ④ 企業の実情を踏まえた取組の視点
- ⑤ 社会全体による支援の視点 等

■ 一般事業主行動計画の内容に関する事項

- 仕事と家庭の両立支援のための雇用環境の整備
- 働き方の見直しに資する労働条件の整備 等

一般事業主行動計画

一般事業主行動計画の策定・届出義務

認定制度（認定基準）

厚生労働大臣による認定・表示付与

- ① 適切な行動計画を策定したこと
- ② 計画期間が2年以上5年以下であること
- ③ 行動計画に定めた目標を達成したこと
- ④ 適切に公表及び労働者への周知をしたこと
- ⑤ 男性の育児休業取得者が1人以上いること
- ⑥ 女性の育児休業取得率が70%以上であること
- ⑦ 3歳から小学校入学するまでの子をもつ労働者を対象とする育児休業等の措置を講じていること
- ⑧ 所定外労働の削減、年次有給休暇の取得促進等の措置を講じていること
- ⑨ 法及び法に基づく命令その他関係法令に違反する重大な事実がないこと

子育てをサポートしている企業の証
(くるみんマーク)



※ 次世代法の効果的推進方策として、認定制度の認知度を高めるとともに、経済的インセンティブとしての優遇措置の積極的な検討などを行う。

<労働政策審議会雇用均等分科会報告を受けた見直しのイメージ>

法律の延長

平成27年4月1日から平成37年3月31日まで10年間延長

指針の内容を追加

行動計画策定指針の内容に、新たに①～②の内容を盛り込む

- ① 非正規雇用の労働者が取組の対象であることを明記する
- ② 働き方の見直しに資する取組を進めることが重要である旨を盛り込む

<働き方の見直しに資する取組>

- ・ 男性の育児休業取得促進の取組
- ・ 所定外労働の削減の取組
- ・ 年次有給休暇の取得促進の取組 等

計画の策定・届出に代えた実績公表の枠組みの追加

現行の一般事業主行動計画の策定・届出義務の枠組みを維持しつつ、高い水準の取組を行っている企業（新たに設ける認定を受ける企業）について、一般事業主計画の策定・届出に代えて、両立支援の取組の実績を公表する枠組みを追加

現行の認定制度の充実

現行の認定基準について以下の見直しを行う

- ① 男性の育児休業取得に係る基準について中小企業の特例を拡充する
- ② 女性の育児休業取得に係る基準の見直しについて検討する
- ③ 働き方の見直しに資する多様な労働条件の整備のための措置に係る基準について見直す

新たな認定制度の創設

新たに設ける認定基準について、以下の①～④について現行の認定基準（見直しを行ったもの）よりも高い基準を設ける又は現行の認定基準にないものを追加

- ① 男性の育児休業取得に係る基準について、高い基準を設ける
- ② 働き方の見直しに資する多様な労働条件の整備のための措置について、一定の条件の下で数値目標を定めて実施し、達成することとする
- ③ 女性の継続就業に係る基準を新設する【追加】
- ④ 育児をしつつ活躍する女性を増やすための取組に係る基準を新設する【追加】

藤沢市子ども・子育て会議委員及び
藤沢市次世代育成支援施策推進委員会委員名簿

2014年（平成26年）3月

○委員長・副委員長（敬称略）

増田 まゆみ （東京家政大学家政学部児童学科教授）
金井 正志郎 （藤沢商工会議所 専務理事）

○委員（五十音順・敬称略）

秋田 三賀子 （主任児童委員）
浅原 重紀
株式会社コーストプラン代表取締役
湘南居宅訪問型保育連絡協議会代表
一般社団法人日本事業所内保育団体連合会事務局長

有田 留美子 （子育て支援グループ ゆめこびと）
大森 輝男 （湘南地域連合 副議長）
梶ヶ谷 充敏 （公益財団法人藤沢市みらい創造財団 青少年事業課長）
國尾 雪 （みくに幼稚園園長）
小菅 孝 （下土棚保育園園長）
小林 伸明 （公募市民）
瀬木 葉子
一般社団法人 日本こども育成協議会理事
サクセス子ども子育て研究所所長

津久井 久美子 （非営利特定活動法人 幼児教室どんぐり園）
豊田 希 （公募市民）
中田 民子 （藤沢助産師会会長）
中野 美智子 （神奈川県中央児童相談所 虐待対策支援課長）
新實 正美 （公募市民）
星 幸乃 （公募市民）
山村 晴信 （藤沢市立大庭小学校校長）

○委員（市職員・組織順）

青木 玲子 （子ども青少年部長）
佐藤 良子 （子ども青少年部子ども青少年育成課長）
須田 泉 （子ども青少年部子ども家庭課長）
和田 章義 （子ども青少年部保育課長）
須山 純子 （子ども青少年部子育て給付課長）
高橋 徹 （子ども青少年部子ども健康課長）